

# 推 薦 図 書

— 2 0 2 0 —

立教新座高等学校

# 推 薦 図 書

1978年4月1日 初版発行  
1998年4月1日 改訂新版  
2020年4月1日 改訂新版第23刷

編集・発行者 立教新座高等学校図書委員会

印刷・製本 アロ一企画

年 組

名前

---

# ◆◇◆ 目 次 ◆◇◆

はじめに	2
国語科推薦	3
社会科推薦	17
数学科・情報科推薦	29
理科推薦	38
保健体育科推薦	50
芸術科推薦	54
家庭科推薦	61
英語科推薦	64
宗教科推薦	74
チャペル推薦	82
保健室推薦	84
図書館推薦	85
書名索引	91
分類別索引	96

## ◆◇◆ はじめに ◆◇◆

本は、私たちに多くのものを与えてくれます。実際にはできないような経験と感動、時代や国境を越えたいろいろな人々の考え方、客観的に物事を見つめた資料、等々。それらと触れ合うことによって、私たちの世界が広がっていきます。

この冊子には、本校の教職員が推薦する図書が紹介されています。本に準ずるものとして、ビデオ、CD、インターネットのアドレス等も加えました。そして、高校生としての諸君が、「どんな本を読もうか」「どんな情報に触れてみようか」と考えるときの案内役になればと思って作られています。長い休暇やその他の余暇のときの読書計画の資料にもなります。

この冊子のページをめくってみると、「これは面白そうだからぜひ読んでみよう！」と思う本がきっとあると思います。「これは絶対に見たい！」と思うビデオがきっとあると思います。そうしたら、さっそく図書館へ行ってそれを探してみましよう。請求番号が付いているので、簡単に探せます。また、書店等へ行って手に入れてもよいでしょう。

高校時代の3年間にこの冊子の中にあるくらいの本を読破したら、高校生の教養としても、大学教育を受けるものの基礎知識としても、おそらく充分だろうと思います。そしてこの複雑な現代社会に生きる諸君の問題意識にも充分答えられるものと思います。

この冊子が諸君のよき伴侶になることを願っています。

# 国語科 教員による 推薦図書

実はウソなんです。読書ばなれっていうの。それが証拠に、趣味を書くときにはいまだに、「読書・音楽鑑賞」というのが結構多いだろう。もちろん、他に何も無いからという人もいるだろう。また逆に何も心当たりがないのにそう書くほどの勇気の持ち主（恥知らず）もそれほど多くはないに違いない。ウソだと思えばまわりの人に聞いてみるといい。少しも本を読まない友人なんてめったなことではいないはずだ。中には恥ずかしくて読まないようなそぶりをするヤツなんかいるかもしれない、でもそんなヤツに限ってこっそり読んでいたりするものだ。別に自慢するために本を読むわけじゃないから、それでもいい。とにかく大切なのは、みんな、何かしらの本を読んでいるということだ。

マンガを読んではいけない、という人の前ではマンガは読むべきではない。年齢によって、人によって受け入れられるメディアの違いはあるものと考えべきだ。だいたいマンガを読んでいて怒られるのは、授業中に読んでいたり（これはあたりまえ）、マンガしか読んでいなかったりしたときだろう。マンガも読み方と、マンガの位置づけを考えなくてはいけない。いっばしのマンガ読みを自認するなら、並大抵じゃない量を読みこなさなくては自慢にも何にもならない。虜になるのではなく、ある姿勢で読まなくてはなるまい（もちろん正座で読めという意味ではない）。それ以外のものも幅広く読め、ということだ。

以下に、国語科教員がそれぞれ選んだ本を紹介する。諸君の役に立つようにと考えて選んだもの、役に立たないようにと考えて選んだもの。この人が選んだものだから読んでみようかと思うもの、ぜったいこいつが選んだのなんか読んでやるかというもの。あくまでも推薦するのはこちらの勝手であって、選択し読んでみようという気が諸君になくてもはなにも始まらない。推薦者としては、どんな形でもいい、何らかの反応があるのを期待し祈るばかりである。心に響くものがあったら試してほしい。

推薦者 大城実

○『さぶ』山本周五郎著（新潮文庫）B/913.6/YA

波瀾万丈の運命をたどった栄二を底から支えたものは……むしろ他人から軽んじられることの多かった彼の親友“さぶ”の真心だった！ 山本周五郎作品中白眉の一編。

○『青春の門』（全六巻）五木寛之著（講談社）913.6/IT

文庫本でも6巻に及ぶ長編だが、信介の成長していく姿には熱く共感できる。せめて1巻「筑豊編」だけでも……。

○『マシアス・ギリの失脚』池澤夏樹著（新潮文庫）B/913.6/I

南洋の島国ナビダード民主共和国の大統領マシアス・ギリの運命やいかに！ 壮大な物語空間がひろがっていく……。

## 「勝ち組」「負け組」を超えて－「太宰治」という価値

推薦者 高瀬修司

軍靴の響きが、言論統制が日に日に強まっていく 1930年代末。そういう時代の流れを敏感に捉え、それに便乗してボロ儲けした人たちがいました。今風に言えば、「勝ち組」でしょう。しかし、ご存じのように日本は多くの問題を残したまま敗戦。「勝ち組」は一朝にして「負け組」に転じました。そのような状況下にあって、日本人のこころを掬い取り、時に励まし、時に怒り、しかし決して諦めなかった作家がいました。

○戯曲「冬の花火」『太宰治全集9』（筑摩書房）918.68/DA/9

「負けた、負けたというけれども、あたしは、そうじゃないと思うわ。ほろんだのよ。滅亡しちゃったのよ。」主人公、数枝の科白せりふです。戦争に負け、それまで絶対と思われていた価値——万世一系の天皇、軍隊、家父長制など——がいともたやすく瓦解し、変容してゆく有様を目の当たりにした日本人の心の底のところを科白にしたのがこれではないでしょうか。単に「負けた」のではなく、滅亡したということがポイントです。

## ○戯曲「春の枯葉」『太宰治全集9』（筑摩書房）918.68/DA/9

「僕たちだって、こんなナンセンスの春の枯葉かも知れないさ。十年間も、それ以上も、こらえて、辛抱して、どうやら虫のように、わずかに生きて来たような気がしているけれども、しかし、いつのまにやら、枯れて落ちて死んでしまっているのかも知れない。これからは、ただ腐っていくだけで、春が来ても夏が来ても永遠によみがえる事がないのに、それに気がつかず、人並みに春の来るのを待っていたりして、まるでもう意味のない身の上になってしまっているんじゃないのかな。」

「ただ腐っていくだけで」「永遠によみがえる事がない身の上」。この科白からは、敗戦後の日本人の不安を作家が共有し、しっかり掬い取っているように思われます。

先行き不透明な現代。「勝ち組」の先頭を走っていたと思われていた人が転んでしまったり、「負け組」がほんとうに潰れてしまったり……。すべてを両極に分けて考えることにボクらはそろそろ疲れているのではないのでしょうか？ そんなとき、上述の作品は新たな視点をボクらに投げかけてくれるのではないかと思われます。

## あくまでもフィクションということ。

推薦者 河原信義

### ○『坊っちゃんの時代』（全五巻）

関川夏央原作 谷口ジロー画（双葉社）B/726.1/SE

あくまでもフィクションということ。

### ○『こころ』夏目漱石原作 榎本ナリコ著（小学館）M/726.1/E

あくまでもフィクションということ。

### ○『まっすぐな道でさみしい 種田山頭火外伝』（1～5）

いわしげ孝著（講談社）M/726.1/I

あくまでもフィクションということ。

## へそまがりさんの一冊

推薦者 田中俊江

○『意味がなければスイングはない』村上春樹著（文藝春秋）760.4/MU

『ノルウェイの森』（講談社文庫 B/913.6/MU）『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮文庫 B/G/m-5）もいいけど、氏の音楽に関するエッセイはいかが？ 音楽への思い入れたっぷりで、なぜか引き込まれてしまう不思議な一冊。

○『沈黙博物館』小川洋子著（ちくま文庫）B/913.6/0

『博士の愛した数式』（新潮社 B/913.6/0）もいいけど、こちらもオススメ。形見の収集と展示を通してその人の存在意義を確かなものにしようとする姿勢は、数学を愛する博士に通じるものがあるかも？

○『鳥類学者のファンタジア』奥泉光著（集英社文庫）B/913.6/0

ハリーポッターもいいけど、こんなファンタジーもオススメ。謎の音階をめぐるジャズピアニスト希梨子の時空を超える破天荒で壮大な旅。最後には有名ジャズメンも出てきて、これもジャズへの思い入れたっぷりのうらやましい世界です。

## 外国の作品もぜひいろいろと

推薦者 土屋紀慶

○『シラノ・ド・ベルジュラック』

エドモン・ロスタン著 辰野隆、鈴木信太郎訳（岩波文庫）B/952/R0  
（男の）生き様とは何か、を教えてくれる本。『三銃士』上下（アレクサンドル・デュマ著 岩波文庫 B/080/IR/533）もお勧め。

『ウィンザーの陽気な女房たち』

シェークスピア著 小田島雄志訳（白水社）932.5/SH

この作品に限らず、シェークスピアの戯曲は一読の価値あり。岩波文庫や新潮文庫もありますが、白水uブックスの『シェイクスピア全集』全37冊が新書サイズでお手頃です。

○『狭き門』アンドレ・ジイド著 川口篤記（岩波文庫） 080/IJ/44

信仰を説くわけではありませんが、「力を尽して狭き門より入れ」という聖書の文  
言を味わってみるのも悪くないものです。

## 古典文学はおもしろくないという人のために

推薦者 出口久徳

○『今昔物語集の世界』小峯和明著（岩波ジュニア新書）913.37/K0

『今昔物語集』は、インド・中国・日本の説話を集めた大部なテキスト。釈迦の話  
や日本の武士の話など多彩な内容をほこる。広範な物語をいくつかの視点から照らし  
出したのが本書で、その魅惑的な世界に虜になること間違いなし。さらに奥深い物語  
・説話の世界に分け入りたい人は、『説話の森』（小峯和明著 大修館書店 913/K0）  
もおすすめ。

○『義経地獄破り 一甦る絵巻・絵本一』

小峯和明、宮腰直人解説 クレア・ポラード、潮田淑子訳（勉誠出版）721.2/Y0

アイルランドのダブリンにあるチェスター・ビーティー・ライブラリィに所蔵され  
る絵巻。地獄に堕ちた義経が他の著名な武将達と協力しながら、閻魔大王を打ち倒す  
という不思議な物語。絵がきれいで解説も詳しく楽しく読めてしっかり学べるお得な  
本。なお、この物語の前提となる『平家物語』について詳しく知りたい人は、『平家  
物語を知る事典』（日下力ほか著 東京堂出版 913.434/KU）を参照のこと。

○『日本絵画の女性像』池田忍著（ちくまプリマーブックス）721/I

ジェンダーの視点から日本の美術（平安末期から室町時代の絵巻物が中心）を解説。  
美術作品を芸術品としてあがめるのではなく、作品分析から制作・流通された時代の  
社会の問題をあぶり出そうとする意欲作。絵の見方が変わってくるかも。

## 小説に草臥くたびれたら…

推薦者 中村勝

確か内田百閒は「目は字を読むためにあるのではなさそうだ」と言ったとか。それでも、暇があれば何か読みたくなる、というのが人情というもの、なのだろうか。たまには小説でない、エッセイ、紀行など如何。

### ○『星三百六十五夜』野尻抱影のじりほうえい著（恒星社厚生閣）443/N0

星々のエピソードや古今東西の詩文をまじえ綴られる星界日誌。星を愛しつづけた詩人から星を愛する人達への贈り物。中公文庫 BIBLIO にも。

### ○『阿房列車（第一～第三）』内田百閒ひやっけん著（新潮文庫）B/915.6/U

「なんにも用事がないけれど、汽車に乗って大阪へ行って来ようと思う」。悠揚迫らざるユーモアに満ちた、ただ列車に乗るためだけの百閒先生の旅は続く。

### ○『夜中の薔薇』向田邦子著（講談社文庫）B/914.6/MU

気にいった手袋が見つからなくて、風邪をひくまでやせ我慢を通した22の冬以来、“いまだに何かを探している”……（「手袋をさがす」）。著者最後のエッセイ集。

## 当たり前前の「読書」

推薦者 児玉朝子

「読書」とは何だろう。本を読むことだとは思っているのだが、何を読むかどうやって読むか、時代によっても違うし人それぞれも違う。勉強のために本を読むという意味での「読書」、娯楽のための「読書」。マンガを読むことは「読書」になるのだろうか。等々、当たり前前だと思っていたことを見直させてくれる「読書」をお薦めしたい。

### ○『横書き登場 —日本語表記の近代』

屋名池誠著（岩波新書）080/I/863

今、当たり前前のように書いている、日本語の横書きはいつから登場したのか。なぜ、左から右に書かれるようになったのかを調べ、検証している。

## ○『ガリヴァー旅行記』

ジョナサン スウィフト著(岩波文庫) B/080/IR/209

当たり前だと思っていた人間社会から離れてしまったら…。人間とは何だろう。

## いつもとは違う棚から

推薦者 松田顕子

もし読書の習慣があるのなら、いつもとは違う棚から本を探してみては？ 普段、ライトノベルしか読まないという人にもおすすめです。

## ○『春昼・春昼後刻』泉鏡花著(岩波文庫) B/080/IG/27

死でつながる不思議な縁。海の底の死者へ託された伝言。美しい骨が出るという浜へといざなう物語の綾。

## ○『豊饒の海』三島由紀夫著(新潮社) 913.6/MI

この輪廻転生の小説を遺して作者は死に、そして完成された四部作。

## ○『デミアン』ヘルマン・ヘッセ著(新潮文庫) B/943.7/HE

〈鳥は卵の中からぬけ出ようと戦う。卵は世界だ。生まれようと欲するものは、一つの世界を破壊しなければならない〉デミアン—悪魔—という名の少年に導かれ、光／闇の世界を受け入れていくシンクレールの物語。

## 文学だけが読書じゃない！と感じる君へ

推薦者 宮内駿

国語という教科は文学だけではありません。日本語の特性を知り、それを「正しく」運用することも必要です。では「正しい日本語」とはなにか？「正しい日本語」や「優れた言語」がどこかに存在するはずだ！と思う人は一読してください。

## ○『はじめての言語学』黒田龍之助著(講談社現代新書) 801/KU

語学の入門には最適。「語学」と「言語学」が異なるものだと知っておきましょう。章分けされていますので気になったところから読んでみましょう。

○『日本語と外国語』鈴木孝夫著（岩波新書） 080/I/101

社会言語学の名著。「orange」と「オレンジ色」は指す範囲が異なる？虹の色は何種類？太陽の色は何？など。言語の相違＝文化の相違ということがよくわかります。

○『訓読みのはなし』笹原宏之著（光文社新書） 811.2/SA

中国語のための文字である漢字を、どのようにして日本語に取り入れてきたのか。その謎を解く鍵となるのが「訓読み」です。日頃の疑問が氷解します。

## 文学者だって理系はできる

推薦者 本橋龍晃

数理系ができないから文学をやっている、という見方を覆したいと思います。

○『クォンタム・ファミリーズ』東浩紀著（河出文庫）B/913.6/A

直訳すると「量子家族」。言うまでもなく量子力学の世界観。現代思想のエッセンスが詰まった小説。個人的に東浩紀が大好き。

○『Self-Reference ENGINE』円城塔著（ハヤカワ文庫JA）B/913.6/E

量子力学と情報科学、その他もろもろ。分からなくても分かったふりしてとりあえず読み進めるのが吉。挑戦してみては？

○『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』

フィリップ・K・ディック著（ハヤカワ文庫SF）B/SF/テ-1

SFの嚆矢とも言うべき作品。めちゃめちゃ有名だけど、あえてオススメします。

---

# 国語科推薦

---

## 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド 上・下

村上春樹著 新潮社（新潮文庫） B/G/L-5

サスペンス・アクション映画さながらに＜私＞が大活躍する [ハードボイルド・ワンダーランド] と、高い壁に囲まれた一角獣の住む街で暮らす＜僕＞の物語 [世界の終わり]。この二つの物語が同時進行して、世にも不可思議で面白く深遠な世界が繰り広げられる。待っているのは意外な展開。読み始めたらずめられない。御用心。

---

## 詩歌ことはじめ

大岡信著 講談社（講談社学術文庫） B/GA/699

日本の詩歌についての解説や論文は、これまで数多く出ているが、どちらかと言えば、特定の作品なり作者に限定されたものが多い。本書は、古代から現代に至る代表作品、作者について、その特色や思想を分かり易く鑑賞し、説明したもので、読了すると日本文学史のポイントもおさえることとなる。日本人の抒情性を理解する好著。

---

## 青い目・茶色い目 人種差別と闘った教育の記録

ウィリアム・ピーターズ著 白石文人訳 日本放送出版協会 371.5/P

本書は、米国社会に根強く存在する人種差別意識の変革のために、一人の小学校教師が、あえて自分のクラスで“差別”の実験授業を行った記録である。目の色で差別されると、幼い生徒達はどうなるか。ここには、自我に目覚めない生徒への教育の功罪が見事に浮き彫りにされている。基本的人権と人間の在り方を問う好書である。

---

## 源氏物語

秋山虔著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/667

主人公光源氏の誕生、青春、失墜、栄華、死後の王朝社会を五十四帖に渉って描いた世界的大河小説であり名著である。従来の絵画美的、理想的光源氏像や、宇治十帖といわれる後半世界の主人公薫や匂宮といった人物像を、生ま身の間人として捉え、その権力闘争の生ぐさや心理を細かく分析した魅力ある源氏論が展開される。

---

## 詩のころを読む

茨木のり子著 岩波書店（岩波ジュニア新書） 080/IJ/9

いい詩は、人の心を解き放つ力と命あるもの全てへのいとおしみの感情をも誘い出す力とを持っている。難解にみえる現代詩の魅力を情熱をこめて語る一冊。課題図書として採用し好評だった一冊でもある。— 現代詩の持つ魅力が分かってきた、と。

---

## 詩の楽しみ 作詩教室

吉野弘著 岩波書店（岩波ジュニア新書） 080/IJ/52

詩人吉野弘が長年高校生の投稿詩選評にかかわってきた経験を生かし、詩とは何か、詩の魅力はどこから生まれるかといったことをわかりやすく説いた本。高校生の詩や、詩人の詩の用例が多く引かれていて説得力があり、詩が苦手の人のもとより、詩を書いてみたいと思っている人に最適のテキストといえよう。

---

## 沖縄ノート

大江健三郎著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/762

戦後、米軍の核兵器を含む前進基地として、歴大な量の毒ガスを保有し、原子力潜水艦によって港と魚たちが汚染され、持続する戦争の現場に、日本及び日本人から放置されてきた沖縄。そこでの人々の苦渋にみちた戦いを見つめることにより、著者は日本人とは何かを問い、われわれにとっての戦後民主主義を根本的に問いなおす。

---

## ヒロシマ・ノート

大江健三郎著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/563

一九六三年夏、日本の原水禁運動が苦悩にあえいでいる時、現地を訪れた著者の見たものは、十数年後のある日突如として死の宣告を受ける被爆者たちの“悲惨と威厳”に満ちた姿であった。著者と広島とのかかわりは深まり、その報告は多くの人々の胸を打った。平和の思想の人間的基盤を明確にした告発の書。

---

## 暗夜行路 前・後

志賀直哉著 新潮社（新潮文庫） B/913.6/SHI/1・2

母親の不義の子として生まれた苦悩、そして妻の不義。主人公時任謙作はその暗い運命を意志的にのり越えようと精神の荒野を彷徨する。如何に許すか、母を、妻を、そして自分自身の存在を。あまりにも過酷な現実から逃れるように伯耆の大山へ旅立ち、心身共に自己を自然に還元していくことによって救いを見出す主人公の姿は、そのまま作者自身の精神の遍歴である。

---

---

## 苦海浄土 わが水俣病

石牟礼道子著 講談社（講談社文庫） B/K0/I-11

熊本県水俣市のアセトアルデヒドを製造する工場の有機水銀を含む工場廃水が海水を汚染し、その海の魚貝類を食べていた多数の住民に強度の身体障害が続出して、或いは死亡し、或いは今も苦しんでいる。この新しい公害病の赤裸々な記録によって、著者は地域住民の立場に身を置いて、その怨念を訴えかけようとする。

---

## 日本の思想

丸山真男著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/434

現代日本の思想の当面する諸問題およびその日本的特質はどこにあり、それは何に由来するものなのか。日本人の内面的生活における思想の入りこみかた、それらの思想の相互関係を、構造的な視覚から追求してゆくことによって、新しい時代の思想を創造するためにどんな方法、意識が必要であるかを問う文明論的考察。

---

## 知的生産の技術

梅棹忠夫著 岩波書店（岩波新書F） 080/I/722

ちょっと変わった本である。何か知識や教養を与えてくれるというものではない。いわば、現代人を取り囲んでいるおびただしい情報をいかに整理し、いかに新しい情報を創造していくか、といった点について経験的に問題提起したものである。勉強の仕方や資料の整理法などで悩んでいる人に、必ず読んで欲しい本。

---

## 三四郎

夏目漱石著 新潮社（新潮文庫） B/G/ナ-1

明治末期の大学生「三四郎」を中心とする小説。女主人公美禰子が愛情面できわめて曖昧な態度を示して三四郎の心を惑わし、結局他の男に嫁してゆくという女性心理の複雑な姿を描き、“無意識の偽善”という心理的問題に触れる。この課題は「それから」「門」において執拗に追求される。

---

## アメリカひじき・火垂るの墓

野坂昭如著 新潮社（新潮文庫） B/913.6/N0

〈焼跡闇市派〉の作家的原点を示す作品。「アメリカひじき」は、中年男の意識の底によどむ進駐軍コンプレックスをえぐり、「火垂るの墓」は、焼跡にほうり出された兄妹が餓死していくまでを、独特な文体で印象深く描いている。死んだ妹の骨を蛍と一っしょにドロップの缶に入れ、それを抱いたまま死んでゆく清太は痛ましい。

---

## 古文の読みかた

藤井貞和著 岩波書店（岩波ジュニア新書） 080/IJ/76

「古文なんて分からない」そう思う人は多いだろう。でも、日本語です。幾数かの読み解くための鍵さえ発見し理解しさえすれば、古文の世界は君達の前に開かれるはずだ。古文を読み進める筋道をはじめから分り易く明らかにしてくれるのがこの一冊。明快な古文入門書。きっと古文の流れが分ります。学習参考書としてもハンディ上等。

---

## 白い人・黄色い人

遠藤周作著 新潮社（新潮文庫） B/G/I-1

「白い人」は、醜悪な主人公とパリサイ的な神学生との対立を、ナチス拷問の場に追いつめ、人間存在の根源に神を求める意志の必然性を見出そうとした、芥川賞作品。

「黄色い人」は、神父を官憲に売った破戒の白人僧と、友人の許嫁者を犯す日本青年を描いて、汎神論的風土における神の意味を追求する。

---

## 死者の書

折口信夫著 中央公論社（中公文庫） B/CHU/オ-41

彼岸の中日、二上山の鞍部に落ちる陽の背後に見た尊い人の面影を慕って、藤原南家の郎女は無意識のうちに当麻寺にあこがれ来り、裸身の姿を被う為の布を製作する。それはまた岩窟の闇の中に復活した大津皇子の魂との交感である。『古代研究』を小説という表現形式によって描いた近代文学の中では全く特異な作品である。

---

## 現代名詩選 上・中・下

伊藤信吉編 新潮社（新潮文庫） B/G/I-8

日本の近代詩の創成から現代詩への展開を各詩人別に名詩を厳選した詩歌集。与謝野晶子、石川啄木、北原白秋、高村光太郎、室生犀星、萩原朔太郎、佐藤春夫、金子光晴、三好達治、中原中也、中村隆一など七十六人の詩を収録。各巻の後ろにある伊藤信吉の解説は、すぐれた近代詩史になっている。

---

## 現代俳句

山本健吉著 角川書店（角川文庫） B/G/ヤ-2

正岡子規、高浜虚子から、昭和俳句主要作家四十二人の五百句に及ぶ作品が、俳句鑑賞の評論では第一人者の著者によって展望されている。現代俳句鑑賞の名著。切れ字や季語、滑稽あるいは挨拶という観念について言及し、俳句という古風な芸術に綿密な考察と斬新な鑑賞、格調ある批評を展開する。

---

---

## 万葉秀歌 上・下

斎藤茂吉著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/2, 080/I/6

万葉集は日本の国民の宝典である。しかしこれを理解する人は少ない。原典のむずかしさにも原因がある。『赤光』以来輝かしい業績を残した歌の実作者としての著者が、万葉の秀歌をえらび、豊かな鋭い感性を生かしての解説は一流であり、最も手頃な入門書である。万葉びとの情熱が茂吉によって現代に甦る。

---

## 伊勢物語 付現代語訳

中河与一訳注 角川書店（角川文庫） B/Y/5

平安朝初期の代表的な知識人在原業平の伝説的な恋愛譚を中心とした短編形式の歌物語。業平の歌集や日記をもとに後人が脚色して十世紀初頭に成ったもので、物語文学から小説文学への過渡的形態を示す作品。源氏物語をはじめ後代の作品に与えた影響は大きい。著者の流麗な訳文によって原点の味わいが再現されている。

---

## ひかりごけ

武田泰淳著 新潮社（新潮文庫） B/G/㊦-10

雪と氷に閉ざされた北海で難破した船。極限状況に追いつめられ、仲間同士が相食む惨劇の中、ただ一人生き残った船長は、法廷で「私は我慢しています」と言う。何を我慢していたのか。それは裁判であり、自分の罪であり、今自分が生きていることであつた。原罪の思想と人間不在の不条理を描いた戯曲『ひかりごけ』を収める。

---

## 坂口安吾全集 1

坂口安吾著 筑摩書房（ちくま文庫） B/CHI/㊦-4

憎むべき蛸博士を葬るために、風博士は地上より消え去る決意をして遺書を認める。遺書は「諸君、彼（蛸博士）は禿頭である。然り、彼は禿頭である」で始まり、「蛸博士を葬れ！彼を平なる地上より抹殺せよ！」と意気込んだ挙句の復讐は……。初期安吾の傑作ともいふべき短編『風博士』を収める、まさに知のクーデター。

---

## サンダカン八番娼館 底辺女性史序章

山崎朋子著 文藝春秋（文春文庫） B/BU/㊦-4

ここには日の目を見なかった歴史があり文学がある。九州天草でおサキさんという元“からゆきさん”に出会った著者は、共に生活しながら、海外売娼婦の生の声を初めて文字化した。からゆきさんの背負わされた歴史とは、近代日本の底辺の犠牲の女性史である。気鋭の女性史研究家の聞き書きの成果が、この一冊に結晶している。

---

## 檸檬・冬の日

梶井基次郎著 岩波書店（岩波文庫） B/080/IG/87

僅か三十二年の短いものであったが、著者の生涯は文字通り「青春」だった。「えたいの知れない不吉な塊が私の心を始終圧えつけていた。」で始まる『檸檬』等二十篇の作品を本書は収める。デカダンの生活の中にあって自己の生を真摯に見つめる静かな意識を、我々はそこから感得するだろう。

---

## 万葉百歌

池田弥三郎、山本健吉著 中央公論社（中公新書） 911.12/YAM

万葉集は古事記と並んで、日本古代文学の双璧をなす古典である。単に古いというのではなく、日本人の心の原型・ルーツが万葉集という最古の歌集にはつまっている。その世界は巾広く深遠であり、一首一首に古代人の夢・希望・怨念等の情念がつまっている。折口民俗学の視点から、従来にない新しい鑑賞で現代人の魂をゆさぶる。

---

## 壁

安部公房著 新潮社（新潮文庫） B/913.6/AB

ある朝、突然自分の名前を喪失してしまった男。以来彼は習慣に塗り固められた現実での存在権を失った。彼の目には、現実が奇怪な不条理の塊とうつつる。独特の寓意とユーモアで、孤独な人間の実存的体験を描き、その底に価値逆転の方向を探った芥川賞受賞の野心作。

---

## 司馬遷 史記の世界

武田泰淳著 講談社（講談社文庫） B/914.6/TAK

初版は昭和十八年に刊行。著者は、昭和十二年華中に出征してはげしい戦地生活を送るうちに、現実のきびしさを考える場合に、何かよりどころになり得るものが「史記」には有ると思い、帰国後これを書いたという。著者の人間世界を全体的にとらえようとする試みがこの処女評論にはよく出ており、彼の小説の理解に役立つ。

---

---

# 社会科推薦

---

## 反骨のコツ 團藤重光著、伊東乾編 朝日新聞社（朝日新書）

日本の刑事法学界で、團藤を知らぬ者はいない。東大法学部を主席卒業、23歳で東大助教授に就任。GHQ占領下で現在の刑事訴訟法を立案。東大退官後は、最高裁判所判事を務め、新たな判例・理論を構築した。輝かしい経歴とともに権威の中心を歩いた彼を支えたのは、意外にも「反骨精神」。2人の対話を通じて、「超優秀な人も、結構人間臭いんだな」と思える一冊。何となく自分に自信が持てない方にもぜひ。

---

ドキュメント弁護士	法と現実のはざままで	327.1/D0
ドキュメント裁判官	人が人をどう裁くのか	327.1/D0
ドキュメント検察官	揺れ動く「正義」	327.1/D0

読売新聞社会部著 中央公論新社（中公新書）

法曹三者（弁護士・裁判官・検察官）は、法を適用するだけで世間の紛争を一刀両断する冷酷な人たち・・・ではない。依頼人とともに涙し、心の傷を負った被害者に寄り添い、何が適切な結論なのかと迷いながら判決を出す。法曹三者に必要なのは、論理力や冷酷さよりも、人の気持ちを思いやる「感情」であることがわかるはず。

---

## プレップ労働法 第5版 森戸英幸著 弘文堂 366.1/M0

見た目（文体）は不真面目、中味（内容）は大真面目。とにかく読みやすい会話調でありながら、労働法の世界全体をきちんと見渡せる。これほど高いレベルで「読みやすさ」と「学術的専門性」を両立させた法律書を見たことがない。卒論で労働法全体をさっと把握しなければならない方、将来ブラックバイト等で搾取されたくない方は、一読すべし。ただし、卒論に本書をそのまま引用することは、絶対に避けるべし。

---

---

## 性犯罪被害にあうということ B/916/KO

## 性犯罪被害とたたかうということ B/916/KO

小林美佳著 朝日新聞出版（朝日文庫）

一般に、犯罪被害者は、自らの被害経験を語りたがらない。被害を思い出し、口にすることで再び自らの心が傷つくからだ。性犯罪の被害経験は、余計に表へ出てこない。そのような中、自らの被害経験を書籍化し、世の中へ一石を投じた著者の勇気に敬意を払いたい。このタイトルを見て、何となくポルノ的な良からぬものを想像した不屈き者よ、本書を読んで性犯罪被害の深刻さを少しでも知り、心の底から悔い改めよ。

---

## イスラームから世界を見る

内藤正典著 筑摩書房（ちくまプリマ-新書） 302.27/NA

イスラームと西ヨーロッパ双方の歴史的経緯を踏まえた上で、イスラームの思想やその社会に対する理解を促してくれる一冊です。「ムスリム嫌悪」の風潮に疑問を持っている人、又、「共存」という価値についてあまり考えたことがない人にお勧めです。同じ筆者による『ヨーロッパとイスラーム 共生は可能か』（080/I/905）は2001年の同時多発テロを受けて書かれたものです。両書とも「あとがき」まで読み応えがあります。

---

## フランス革命の省察 [新訳] 「保守主義の父」かく語りき

エドマンド・バーク著 佐藤健志編訳 PHP研究所 235.0/BU

仏革命発生からまもなく刊行された、仏革命批判です。筆者はアイルランド出身の政治家。革命の初期段階で書かれたこともあり、事実誤認も指摘されます。それでも、「過去を全否定してはいけない」「最高機関にも道義的制約がある」など、現代を生きる我々にも、社会を「哲学」するよう促してくれる本です。2011年に、抜粋ではありますが、大変読みやすい新訳が出ました。大人になったら、みすず書房出版の『フランス革命の省察』全訳をご一読あれ。

---

## 平和主義とは何か 政治哲学で考える戦争と平和

松元雅和著 中央公論新社（中公新書）319.8/MA

平和主義と一口に言っても、その思想や実践には様々なバリエーションがあることを教えてくれる一冊です。アウグスティヌスからコンボへの軍事介入に至る戦争の歴史を、正戦論、人道介入主義、現実主義といった、平和主義と対立しうる思想と共に解釈し、平和主義に関する主な論点を浮き彫りにします。「平和主義はいいものだ」という理解にとどまっている人にお勧めの一冊です。巻末に読書案内があります。

---

---

## 原子爆弾 その理論と歴史

山田克哉著 講談社（ブルーバックス） 559.7/YA

核分裂の発見から原爆投下に至る核兵器の開発の歴史を描いた一冊です。科学と戦争、科学者と社会について考えるきっかけを提供してくれます。物理学の内容も出てきますが、高校生レベルの知識があれば十分理解できます。核兵器の廃絶を目指す人とそうでない人とが、互いに明晰な議論を展開し、対話を続けるための足がかりとなる本です。核兵器に対する意見の根拠が、感情論に偏っていると思う人はぜひ。

---

## 歴史とは何か

E. H. カー著 清水幾太郎訳 岩波書店（岩波新書B） 080/I/447

「歴史とは何か。歴史とは解釈である。」という衝撃的な文で始まる。著者は国際関係を専門とし、1939年、戦間期の「理想主義」を手厳しく批判したイギリス人。彼が第二次世界大戦、冷戦という、国際関係の対立を目の当たりにし、1982年に執筆したのが本書である。「客観性」のみで歴史を叙述することができるという姿勢を批判し、「歴史とは、現在と過去の絶え間ない対話である」と歴史の「主観性」を指摘する。国際関係を論じる上で、必読の書。

---

## 水滸伝（全19巻）

北方謙三著 集英社（集英社文庫） B/913.6/KI/1~19

中国三大奇書の1つである『水滸伝』を、筆者が大胆にアレンジして、全く別物と言っても良い作品に仕立て上げた歴史小説。政権の腐敗に対する対抗を、単なる反乱ではなく、新国家樹立を最終目的とするところから描く。それは、単なる合戦の勝敗ではなく、物流・諜報さまざまな争いも含んで展開する社会群像となっている。

---

## 京都ざらい 井上章一著 朝日新聞出版（朝日新書） 361.4/I

京都という街を語るに際し、美麗字句を並べて書かれたものは、それこそ星の数ほどある。しかし、本書は、京都の闇の部分に焦点を当て論じているのが、極めて新鮮である。そこには京都の持つ中華思想が存分に描かれている。しかし、その京都をもってしても、現代の東京集権には抗いきれない局面に来ていることも述べる。

---

## 「民都」大阪対「帝都」東京 思想としての関西私鉄

原武史著 講談社（講談社選書メチエ） 686.2/HA

現在でも、大阪と東京の違いはよく語られるが、戦前は現在よりもはるかに両都の違いは明瞭だった。著者は、それを私鉄を中心とした「民都」大阪と、国鉄を中心とした「帝都」東京の図式に当てはめて論じる。そして、それが戦時体制の侵攻と共に、「帝国の秩序」が「民都」を変容させていく様相が描かれる。

---

## 中世 村の歴史語り 湖国「共和国」の形成史

蔵持重裕著 吉川弘文館 210.4/KU

中世の近江国（現滋賀県）に存在した、惣村の代表的存在である菅浦。惣村という言葉から「村」のイメージが強いが、筆者はそれを根本から覆す。ここに描かれる惣村は、「共和国」であり、ステイツである。「自治を行った村」という矮小な理解では、惣村は語れるものではないことが理解できる。

---

## 自分のなかに歴史をよむ

阿部謹也著 筑摩書房（ちくま文庫） B/201/A

「歴史とは何か」といった問いかけは、もっとも根元的な発問である。西洋中世史・社会史研究の第一人者である著者が、自らの体験に基づき、歴史研究の道に入るきっかけやヨーロッパ史への切り込み方をわかりやすく語っている。また、理解することとはどのようなことか、といった本質的な問題を考える手がかりにもなるだろう。

---

## 時刻表昭和史 増補版

宮脇俊三著 KADOKAWA（角川ソフィア文庫） B/686.2/MI

紀行作家として有名な著者が、自らの少年時代から大学時代にあたる昭和8年(1933)から昭和23年(1948)の鉄道乗車体験と戦中・戦後の庶民生活の様子を語る。1945年8月15日正午の昭和天皇の敗戦の放送の前後にも列車は時刻表通り走っていた、など、実体験でなければわからない当時の様子が生き生きと描かれている。

---

---

## 秩父事件 自由民権期の農民蜂起

井上幸治著 中央公論社（中公新書） 210.6/IN

「秩父事件」に関する論稿・資料の刊行が盛んになったのは近年のことであるが、本書はその先駆的研究であり、研究史の最高に位する価値をもっている。その内容は、秩父困民党の意識・行動様式・組織の分析を中心に、秩父事件の発生母胎について発生から終末まで述べ、歴史叙述としては芸術に近い名品といわれている。

---

## 日本の歴史をよみなおす

網野善彦著 筑摩書房（ちくま学芸文庫）B/210.4/A

14世紀の日本は、民族的転換期ともいわれ、社会全体がダイナミックに変動した時代である。本書は、文字、貨幣、差別、女性、天皇の5つのテーマをとりあげ、歴史の転換の様子を描こうとしている。現代の転換期に生きる我々にとって、歴史を問う意味を改めて教えてくれるであろう。

---

## 太平洋戦争 第2版

家永三郎著 岩波書店（日本歴史叢書） 210.7/IE

太平洋戦争とは、1931年の柳条溝事件から1945年降伏に至る日本と諸外国との一連不可分の戦争である。本書は、戦争の惨禍を身にしみて体験した著者が、この戦争を科学的に分析したものであり、戦争を阻止できなかった理由、戦争の進行と結果などが丹念に論究されている。第2版では新資料による増補改訂がなされている。

---

## 日本中世の民衆像 平民と職人

網野善彦著 岩波書店（岩波新書Y） 080/I/136

我々が信じて疑わない、米を中心に生きてきた単一民族という日本人像。しかし、それは明治以降つくられた虚像ではないか。本書は、中世民衆が負っていた年貢・公事の実態とその意味を問い直し、さらに遍歴する職人の活動に光をあて、その虚像をくつがえしていく。民衆の多様な姿と豊かな可能性が描き出される。

---

## 砂糖の世界史

川北稔著 岩波書店（岩波ジュニア新書） 588.6/KA

近代の世界史を砂糖というモノを通じて、その生産と消費までの過程を追うことで世界各地の相互のつながりを明らかにしている。この最初の世界商品である砂糖を中心にヨーロッパ・アフリカ・ラテンアメリカが一つに結びついていく。

---

---

## 経済は世界史から学べ！ 茂木誠著 ダイヤモンド社 332/M0

経済をより深く学ぶために、物事の成り立ち、すなわち歴史から、お金・貿易・金融・財政の4分野にアプローチした経済入門書。専門用語を極力使わずに解説され、各項目ごとに理解の助けとなる図版が充実している。アメリカ独立戦争のきっかけとは？、ナポレオン敗北の一因は貿易政策の失敗にある？、廃藩置県が成功した理由とは？、1980年代にバブル経済が起こったきっかけと、バブル崩壊の原因とは？このような疑問が生まれたら、本書を手にとることをお勧めしたい。

---

## ナショナルジオグラフィック日本版（月刊誌）

日経ナショナルジオグラフィック社

米国のNational Geographic誌の日本語版です。毎月1回発行され、地理にとどまらず、歴史、文化、生物など様々な分野の記事が掲載されています。日本のメディアではなかなか取り扱われないような、世界のさまざまな「今」を切り取って、我々に問題を投げかけてくれます。難解な記事もありますが、写真をながめるだけでも楽しい雑誌です。各国語版が出版されているので、上級者は同じ記事を別言語で読む、というオプションもあります。図書館には英語版もおいてありますので、並べて読むと面白いかもしれません。

---

## 世界をまどわせた地図 伝説と誤解が生んだ冒険の物語

エドワード・ブルック＝ヒッチング著 関谷冬華訳

日経ナショナルジオグラフィック社 290.38/BR

昔、まだ世界の姿が確固たるものでなかった時代、地図には言い伝えや想像による情報が加えられていました。誤解の積み重ねが、新たな発見につながったこともありました。古地図を、単純に「精度が低い」とか「知識がない」とか考えずに、何故そこにその島（大陸）が描かれたのか？当時の時代背景に思いをはせて、考えてみてはいかがでしょうか。難しい事を考えずとも、古地図を眺めるだけでも楽しめます。

---

## イスラームから見た「世界史」

タミム・アンサーリー著 小沢千重子訳 紀伊國屋書店 227/AN

中学校でも世界史分野に触れる機会が増えましたが、この本は、我々が慣れ親しんでいる「世界史」の描き方とは少し異なり、イスラームの立場から「世界史」を描いたものです。登場人物や事件は聞き慣れたものを取り上げられていますが、その描き方や解釈の仕方は少し異なります。当たり前のことですが、立場が異なると見方が異なるということに気づかされます。また、特にイスラームの成立の部分は詳しく描かれています。分厚い本なので、読み切ることは大変かもしれませんが、気になった部分だけを拾い読みしても良いでしょう。

---

---

## 地図を作った人びと 古代から現代にいたる地図製作の偉大な物語

ジョン・ノーブル・ウィルフォード著 鈴木主税訳  
河出書房新社 448.9/W

ニューヨークタイムズの科学ジャーナリストの眼でみた「地図の歴史」。懸賞をかけながら時計職人の作ったクロノメーターを王立協会は認めようとしなかったことや、フランスのメートル法と引き換えにグリニッジ零度の採用など、必ずしも通読しなくとも従来書かれなかった面白みがある。

---

## 闇屋になりそこねた哲学者

木田元著 筑摩書房（ちくま文庫） B/289.1/KI

著者は、日本の現象学及び実存主義哲学研究の第一人者であった。少年時代を満州（現在の中国東北地方）で過ごし、江田島の海軍兵学校で原爆投下を目撃し、焼け野原の東京で闇屋の下働き時代も経験したこともあるという。そんな状況から著者が学を志し、ドストエフスキーやキェルケゴールと出会い、ハイデッカーの『存在と時間』にいたる近代哲学史を、楽しくひもとくことができる。

---

## 鵜飼 よみがえる民俗と伝承

可児弘明著 中央公論新社（中公新書）

長良川の夏の風物詩として観光客を賑わす鵜飼は、実は日本古来の伝統漁法で、内陸漁業を支える漁法の一つであった。日本には、全国に鵜に縁のある地名は多く、鵜飼の国と言ってもおかしくはない。本書は、日本と中国大陸における鵜飼の歴史、民俗学的復原に基づき、鵜飼を稲作文化複合の一文化要素とみて日本への伝播を論じ、かつ日本と華中・華南の地域比較あるいは鵜飼のヨーロッパへの伝播の考察を試みた。

---

## さよなら子供たち（1987年 フランス映画） DVD

製作・監督・脚本：ルイ・マル M-969

第2次世界大戦中のユダヤ人虐殺問題に関連する映画は数多くあるが、カトリックの寄宿学校を舞台にし、思春期の少年達を主人公とした物語は、決して多くはないだろう。1944年のクリスマス休暇を終えて、主人公ジュリアンがこの学校に戻ると、新しく3人の転入生が入ってきて、そのうちの一人ボネと友情を育んでいく。しかし、時代はナチス統治下のフランスで、ゲシュタポの手が静かにのびてくる。監督ルイ・マルの自伝的作品であり、ヴェネチア映画祭において金獅子賞を受賞した。

---

---

## 物語シンガポールの歴史 エリート開発主義国家の200年

岩崎育夫著 中央公論新社 (中公新書) 223. 9/I

1人あたりのGDPで日本を上回り、アジアで最も豊かな国がシンガポールである。なぜ、豊かになったのかを、イギリス植民地時代から、日本占領、1965年のマレーシアからの独立、そして現在にいたるまでの歴史的過程を踏まえ説明している。

---

## イスラムの人はなぜ日本を尊敬するのか

宮田律著 新潮社 (新潮新書) 319. 2/MI

イスラム教徒の人々は、全世界で16億にもなろうと言われているが、私たちは身近な存在としてイスラム教徒を意識したことがあるであろうか。また、イスラム教徒の人々から、どの様な目で、日本人は見られているのか、という疑問を抱いたことがないだろうか。日本に対して尊敬の念さえ抱いてくれるイスラムの人々について、日常生活の事例などを交えて、やさしく学べる入門書である。

---

## 華僑 斯波義信著 岩波書店 (岩波新書新赤版) 080/I/382

本書は、16世紀頃から本格化した中国華南地方出身の華僑たちが、東南アジア諸地域、台湾さらには日本やアメリカへの定住の歴史を、交渉・摩擦・競合・順応・同化という定住のプロセスを見ていくと共に、華僑が多数輩出される福建・広東省両省にあたる華南地方の特質を歴史学、人類学などの手法を取り入れながら、解説していく好著である。

---

## 中国皇帝歴代誌

アン・パールダン著 月森左知訳 稲畑耕一郎監修 創元社 288. 4/PA

本書は、急速に経済発展をしている中華人民共和国の歴史を学ぶために必要な入門書である。監修者が、「皇帝の歴史は中国の歴史であったという所以である」と述べているように、中国皇帝の歴代誌は実に興味深い歴史的な事実が描かれている。皇帝歴代誌は中国の雄大な歴史の本流が描かれ、現在に通じる知識を得るには必読である。

---

## 西太后 大清帝国最後の光芒

加藤徹著 中央公論新社 (中公新書) 289. 2/SE

内憂外患にあえぐ清朝末期の政治史は咸豊帝の妃で同治帝の母として活躍された一代の女傑西太后によって国政が左右された。皇后の地位は得られなかったが西太后の果たした役割りは清朝の歴史には欠かせない。尚、西太后は現代の中国の政治に大きく反映され、近代中国の歴史の魁を果たした点も見逃せない。

---

---

## 民族問題入門 山内昌之著 中央公論社（中公文庫） B/CHU/ヤ-34

本書は、イスラム史・国際関係史を専攻する著者が、自己の専門分野に基本的な素材を求めながら、民族問題の理解と解決のために基礎的分析を試みたものである。「民族とは何か」というテーマに関連する概念が取り上げられているため、社会科学系のレポートを作成するための論理的思考能力を鍛え、正しい概念を理解する上でも有効な著作である。

---

## 多賀城 焼けた瓦の謎

石森愛彦絵 工藤雅樹監修 文藝春秋 210.3/TA

古代東北は中央政府の支配が十分及んでいない地域でした。東北地方はどのような過程を経て、中央政府の支配に組み込まれていったのでしょうか。蝦夷と呼ばれた東北地方の人々や当時の庶民たちの立場からも歴史が語られ、教科書とは異なる視点からこの時代について考えることができます。多数のイラストが掲載され、目で見て楽しみながら、古代日本について学べる一冊。

---

## 日本人とイギリス 「問いかけ」の軌跡

今井宏著 筑摩書房（ちくま新書） 210.5/I

本書は、17世紀のイギリス革命史を専攻する著者が、日本とイギリスとの最初の接触から、幕末・開港期を中心にして、日本人のイギリスへの「問いかけ」の軌跡をたどることを主題とする。「アングロサクソンの影響」に、日本人はどの様に対応したのか。その間の異文化接触の問題に焦点を合わせ、日英交流史をたどっている。

---

## 南京事件 笠原十九司著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/530

ここ数年、「自虐の日本史」を教えるべきでないという風潮が出てきている。しかし、人間としては自国の歴史をきちんと見つめ、歴史から学ばねばならない。著者はこの南京事件をたんに膨大な人数の中国人を虐殺という観点だけではなく、日本軍が何故そういう行動をとったのかという背景を、史料をもとに描いている。

---

## バナナと日本人 フィリピン農園と食卓のあいだ

鶴見良行著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/199

なぜ、我々日本人が安いバナナを食べられるのか。安いバナナはどのように誰が作っているのか。どういう経路により、我々の食卓にのぼるのか。バナナを通して、日本とフィリピンの関係をさぐることができる。

---

---

## 歴史のこわさと面白さ 中村政則著 筑摩書房 210.6/NA

いつの時点であったなら、戦争は回避できたのか。このような根元的な問題や、自らの体験、研究生活のなかから感じた、歴史の意外な展開、面白さなどを紹介する。著者自身の歴史研究の歩みを記録するなかで、自己の発見をも目指す本書からは、これから学問を志すものにとって、様々な示唆が与えられるであろう。

---

## 農民哀史から六十年

渋谷定輔著 岩波書店（岩波新書Y） 080/I/340

「女工哀史」（細井和喜蔵）と並んで日本近代の底辺を鮮やかに浮き彫りにした「農民哀史」（勁草書房）の著者が、鮮烈な今日的な問題意識の下に激動の80年の体験を語る。舞台は南畑村（現富士見市）、これは「屎尿をひき、野良に叫び、土をカジリながら生きてきた」農民のドキュメントである。

---

## 東京の空間人類学

陣内秀信著 筑摩書房（ちくま学芸文庫） B/GA/シ-1

世界でも類例のないほど坂と橋が無数にある都市、東京。著者は、江戸の古地図と復元地図を片手に、東京という都市空間を自分の足で歩きながら、その構造を明らかにする。関東大震災、戦災、高度成長下の破壊と改造によって昔の顔を全く失ってしまったかに見える東京に、江戸の構造が継承されていることが読めてくる。

---

## 大地動乱の時代 地震学者は警告する

石橋克彦著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/350

阪神淡路大震災は都市における地震災害のすさまじさを教えてくれた。本書は、大地震の発生のメカニズムや特に関東・東海地方の大地震の発生の仕組みを比較的安易に説き、小田原地震が約70年周期で発生していることを明らかにしている。

---

## アメリカの通商政策

佐々木隆雄著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/526

今日の世界は貿易関係を抜きにしては考えられない。そして、その貿易は各国が自国の利害関係を全面的に押し出した厳しい外交交渉のもとに展開されているのである。本書は、その貿易・通商関係の歴史を、世界経済に最も大きな影響を与えているアメリカを中心にして描いている。我々はここでアメリカの特異性を知ることができる。

---

---

## 絵地図の世界像 応地利明著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/480

日本地図の最も古い形は、行基式日本図と呼ばれる一群である。この地図の中には、異域（この世ではない世界）が入り込んでいる。この異域の出所が「今昔物語」であること、それにより当時の社会的背景がいろいろとわかる。古地図は、その地図が作成された時代を、良く反映している。地図を眺め読む時、そのようなことにも、思いを及ぼして欲しい。

---

## 差別・その根源を問う 上・下

野間宏、安岡章太郎編 朝日新聞社 361.86/SA

本書は、昭和51年から「朝日ジャーナル」に連載されたものの集成増補版であり、野間宏・金時鐘・宮本常一らの座談形式になっている。「なぜ差別にこだわるのか」「大衆こそ差別心を好む」「近代社会が拡大した差別」「狭山事件・最高裁『決定』を読んで」など諸テーマで根深い差別の根源に迫る。

---

## 憲法第九条 小林直樹著 岩波書店（岩波新書Y） 080/I/196

かつて米ソ対立に伴って、我が国の自衛隊は増強されてきた。この本は、こうした世界情勢の中で、真の平和とは何かを考えさせてくれる。特に、日本国憲法の基本原理の一つである平和主義・第九条の理念とその実践を知るには、最高の本である。

---

## 死刑囚の記録 加賀乙彦著 中央公論社（中公新書） 326/KAG

拘置所医務官を経歴とする精神科医が、死刑囚との接触を通じて、死に直面した人間の精神世界を描写する。拘禁状態にある死刑囚が、如何に通常の生活を送る人間とは異質な精神世界を作り上げていくかを、淡々とした語り口で叙述している。死刑制度の隠された一面を知る上で、格好の一冊である。

---

## 古代中国の刑罰 髑髏が語るもの

富谷至著 中央公論社（中公新書） 322.2/T0

発掘資料から秦漢時代の中国刑罰を概観していく。残虐な肉刑から財産刑までを紹介し、贖罪とは何かを法に照らし合わせて、極めて平易な文章で叙述している。最後には、西洋と東洋の刑罰比較などから、ただ単なる歴史概説に終始せず、現代社会の死刑廃止論争にも一石を投じている。

---

## ケインズ “新しい経済学”の誕生

伊東光晴著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/449

今日の経済学の流れは、近代経済学とマルクス経済学の二大潮流がある。ケインズは、その前者に入り、今日の資本主義経済社会の理論的支えになっている。従って、ケインズを知らずして、今日の資本主義社会の動きを知ることはできない。

---

## プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神

マックス・ウェーバー著 大塚久雄訳 岩波書店（岩波文庫）B/080/IW/209

近代資本主義の精神が形成される際、禁欲的プロテスタンティズムの職業倫理がどのような影響力を及ぼし、思想構成力として働いたかを考察するウェーバー宗教社会学中の珠玉の名篇である。その成果は、現代の我々に数多くの問題点を語り続けており、特に社会科学を志す人々にとって、必読の書というべきであろう。

---

## 憲法読本 第3版

杉原泰雄著 岩波書店（岩波ジュニア新書） 323.1/SU

憲法は政治の根本的なあり方を定めたものであり、これがしっかりと守られないと、政治は権力者の都合でどうにでもなってしまう。そのため、憲法を理解し、自分のものとするのが、権力の乱用を阻止することになる。本書はその材料を提供してくれる。

---

## 韓国併合への道 呉善花著 文芸春秋（文春新書） 221.0/0

韓流ブームによって韓国の文化を受け入れる風潮は大変結構であるが、韓国を正しく認識するには日本より長い歴史を持つ韓国史を学ばなければならない。韓国史には繁栄の時も後退の時期もあった。特に1910年以降36年に及ぶ日本の植民地支配は韓国にとって屈辱的な歴史的な現実であった。日本に併合されるような事態を招いた韓国側の要因に光を当て、韓国の国家体質、民族体質を歴史的な事件を通じて語っている好著。

---

## 従軍慰安婦

吉見義明著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/384

1997年12月韓国の元従軍慰安婦の金学順さんが亡くなった。初めて実名で記者会見した女性だった。未だ未解決の従軍慰安婦問題も、体験証言者も少なくなってきた。解決のための時間は少ない。著者は、日本軍関与を示す資料を発見した研究者であり、この問題の実態を克明に描き出している。

---

---

# 数学科・情報科推薦

---

## 数学入門 上・下

遠山啓著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/363

数学が社会のいろいろな方面で必要とされている現在、日本人としてこれだけの数学的な常識があれば素晴らしいだろう、ということで書かれた本。内容は小学校から大学の教養程度、説明は具体的であるが、数式も多く、読むにはそれなりの覚悟が必要。特に（下）の方は数学Ⅱ、Ⅲの微積分に役立つであろう。

---

## 数学をつくった人びと 1・2・3

E. T. ベル著 田中勇、銀林浩訳

早川書房（ハヤカワ文庫NF—数理を愉しむシリーズ） B/410.2/BE

ツェノン、アルキメデス、デカルト、フェルマ、ガウス、アーベル、ガロアとよく知られている数学者の名前を列挙した。皆さんはどれだけ知っていますか？今、我々が学んでいる数学は、いつ頃、誰によって確立した数学なのか、この本を読むとよくわかる。かなり本格的な数式を用いた説明もあるが、興味ある人以外は、読み飛ばしても十分楽しめる。作者はかなりシニカルな発想の持ち主とみえ、独特のタッチで数学者を描いている。これがかえって、天才的な数学者の人間的な部分をも浮かび上がらせている。理系に進む人には、是非読んでほしいシリーズである。

---

## 数学は科学の女王にして奴隷 1・2

E. T. ベル著 河野繁雄訳

早川書房（ハヤカワ文庫NF—数理を愉しむシリーズ） B/410/BE

「数学をつくった人びと」の著者が、数学の様々な領域で数学者がどのように関わって、発展させてきたかを述べている。やや専門的な内容なので、理系に進もうかなと考えている人向きかもしれない。

ただ、この本のタイトルが、数学とが自然科学との関係を、分かりやすくしかも雄弁に表しているので、紹介した。

---

## 数学読本 1～6

松坂和夫著 岩波書店 410/MA

数学を時間をかけてじっくり学習したいと考えている諸君に最適。程度は高校1年から大学数学入門まで。一見教科書風であるが、その記述は厳密で丁寧である。ところどころなかなか得られない話題があって楽しい。6巻を学年で分類すると、1～2巻は1年生、3～4巻は2年生、5～6巻は3年生（理系）となるだろう。

---

**数学が生まれる物語 全6巻**

志賀浩二著 岩波書店 410/SHI

1. 数の誕生 2. 数の世界 3. 式と方程式 4. 座標とグラフ 5. 関数とグラフ  
6. 図形 からなる。内容は中学から高校までの数学をカバーしている。数学を鑑賞するには鑑賞する対象に対してかなりの知識がないと無理である。この本の内容は高校生のレベルでそれができるものになっている。楽しみながらこれまで学習した数学や今学んでいることを見つめ直してみると、必ず新しい発見があるはずである。

**数学が育っていく物語 全6巻**

志賀浩二著 岩波書店 410/SHI

1. 極限の深み 2. 解析性 3. 積分の世界 4. 線形性 5. 方程式 6. 曲面 からなる。内容は簡単ではないが、高校生にも理解できるようにと出来るだけやさしく語りかけている。気楽に読むことによって、現代数学の基礎にあるものの姿に触れることができる。所々に挿入されている「先生の話」「歴史の潮騒」などを読むだけでも数学への興味をかき立ててくれて面白い。

**零の発見 数学の生いたち**

吉田洋一著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/49

前半は、我々が現在用いている記数法一位取り記数法一や数「0」の果たす役割り、有用性などの説明である。後半の「直線を切る」は実数の連続性一すなわち、直線上の点の実数で埋め尽くされるということ一についての歴史を追っての解説である。

**フェルマーの最終定理**

ピュタゴラスに始まり、ワイルズが証明するまで

サイモン・シン著 青木薫訳 新潮社（新潮文庫） B/412.2/SI

3以上の自然数  $n$  に対して  $x^n + y^n = z^n$  を満たすような自然数  $(x, y, z)$  はない。「私はこの命題の真に驚くべき証明をもっているが、余白が狭すぎるのでここに記すことはできない」。17世紀にフェルマーが残した超難問を、数学者ワイルズが1995年に完全証明した。この難問に挑み続けた数学者たちを、数学をめぐる「歴史ドラマ」的に、分かりやすく感動的に描いた傑作。

**秋山仁のおもしろ数学発想法 戦略編 1・2**

秋山仁、門間明著 日本放送出版協会 410/A

この本は、マンガで数学のおもしろさや楽しさを教えてくれる本である。この本の作者である秋山仁先生は、「数学は、本当はこんなにおもしろい。」ということを実証しようと考えたそうである。その秘密は、本で紹介している12の発想法にある。この発想法を身につけることができればワクワクするほど数学が好きになり、高校入試問題がスイスイ解けるようになるはずである。数学の問題を見ると難しいと思うかもしれないが、マンガでわかりやすく、楽しくよめる一冊である。

---

## 数の不思議

草場公邦著 講談社（講談社現代新書） 412/KU

我々が日常無意識に用いている“数”というものに対して、大変わかりやすく説明している。 $\pi$ 、 $e$ 、 $\log$ の必要性や発生なども書かれており、複素数の簡単な応用例や、素数はなぜ重要であるかなどは、大変興味深い。さらに「自然数と偶数の“濃度”は同じである」「実数の連続性」等は、高度な内容を平易に解説している。

---

## 数学感覚をのばす

岡部恒治著 講談社（講談社現代新書） 410.4/0

これからの時代、数学的感覚が必要だと言われるが、数学的感覚とはどういうものなのか。また、伸ばすにはどうしたらよいのか。本書では、その様な疑問に対する答えが、著者の見解に立って述べられている。また、パズル形式で話が進められており、気に入ったパズルを幾つか解くだけでも良いであろう。

---

## 2次行列の世界

岩堀長慶著 岩波書店 411.3/IW

「行列と線形計算」の参考書。線形代数の入門書といえる。線形代数は理工系のみならず、経済学、社会学の方面でもよく使われるので、経済学部や社会学部を志している諸君も是非読んで欲しい。第8章「2次行列の応用」も興味深い。

---

## 微積分への道

雨宮一郎著 岩波書店 413.3/AM

その学問を深く理解するには、その歴史を知ると良い。どういう思考過程から微積分学が形成され、応用されていったかを知るとは、数学全般を理解するにも役立つ。数学内での各部門が相互に関連し合いながら新しい概念が生まれ、一つの新しい数学部門が作り出される過程は示唆に富んでいる。

---

## 複素数の幾何学

片山孝次著 岩波書店 413.5/KA

複素数は二次方程式を解くために導入され、その美しさ、有難みを味わうことはできない。しかし、この本は複素数の世界を詳しく紹介している。ところどころで述べられている数学に対する著者の考えは貴重である。

---

## 日常のなかの統計学

鷺尾泰俊著 岩波書店 417/WA

学校で統計を学んでその計算ができて内容をつかむのは難しい。本書はその意義と有用性、また、統計の面白さを分かり易く述べた良書である。総じてこのシリーズは高校生を対象につくられたものだろうが、教室で習う数学とは違った一面をのぞかせてくれるので、数学に興味あるものにしてくれるだろう。

---

---

## 微積分読本

田村二郎著 岩波書店 413.3/TAM

この本は参考書でもないし、普通の意味の数学書でもない。しかし、何の為に数学を学ぶのか、と疑問を抱いている諸君に是非一読を勧めたい。一年生でも充分読めるが、二年生ならこの書の内容の半分は教室で教わった事柄である。がその同一の事柄が違った解釈の下でいかに実生活に応用されるかに新鮮な印象を受けると思う。

---

## 方程式の解き方

ゲリファントほか著 銀林浩訳 東京図書

第1章は整数解を求める不定方程式について述べた「方程式の整数解」である。高校では余りお目にかからない連分数を用いての説明がなされている。ある区間に存在する高次方程式の実数解の個数について述べた「スツルムの解法」が第2章である。ここでは解の公式を用いずに方程式のいろいろの性質を導き出している。第3章は複素数の導入から、3次方程式の解法、高次方程式の近似解について述べた「高次方程式」である。各章は独立に読むことができる。

---

## 数学受験術指南

森毅著 中央公論社（中公新書） 410.4/MO

書名からみると、受験のための本という感じを受けるが、単にそれだけでなく、“数学”に対して書かれている。勉強をしても点数が上がらない者、数学の勉強の仕方がわからない者にとっては、最適の書である。肩ひじを張らずに読める本であり、是非一読を勧める。

---

## はじめて読む数学の歴史

上垣渉著 ベレ出版 410.2/U

数学は古い歴史を持ち、多くの人を魅力してきた学問である。その歴史を、古代オリエントの数学から微分積分法の発見に至るまで、ギリシア数学、インドの数学、アラビアの数学、日本の数学なども含みながら、わかりやすく解説している。数学の歴史や発展を知る上で非常に役立つ1冊である。

---

## 協同現象の数理—物理、生物、化学的系における自律形成

H・ハーケン著、牧島邦夫 小森尚志共訳 東海大学出版会 426.5/HA

高校生、特に理系向きで、微分積分を学んでいることが前提だが、身の回りの現象で、微分方程式で表現できるものについて、1980年当時の最新視点で紹介している書物である。中でも「ロトカーボルテラ(Lotka-Volterra)のモデル」は、今なお様々な場面で利用されている微分方程式による数理モデルであり、日本で書物に書かれたのは、この本がほとんど始めてであろう。その他にも、思いもつかないような様々な場面で、応用数学を実践しようとする専門書であるが、読みきるには相当の力が必要であろう。

---

---

## やさしいコンピュータ科学

Great Ideas in Computer Science

Alan W. Biermann著 和田英一監訳 アスキー 007.6/BI

コンピュータとはいったい何なのか、コンピュータには何ができる何ができないのか。その仕組みはどうなっているのか。この本はコンピュータ科学を学ぼうとするときの重要な概念 (Great Ideas) について分かりやすく親しみやすい形で述べている。この本の元になっているのは、著者がMITで行った授業の講義録であるが、各セクションにはA~Cの旗の印がついており、これを目安とすることで全くの初心者からかなり専門的な知識を求める人にまで、広く対応できる一冊といえる。

---

## 暗号解読 上・下

サイモン・シン著 青木薫訳 新潮社 B/809.7/SI/1・2

昔から人は秘密を守るため様々な暗号を考案し、またそれを破ってきた。その繰り返しにより暗号技術は進歩し多くの高度な暗号が作成されていく。「情報」の価値は非常に高く考えられ、その情報を守るため現在インターネットや銀行を始め至る所に暗号技術が利用されている。才能溢れる人達の攻防に魅せられるノンフィクション作品である。

---

## The Curious Incident of the Dog in the Night-time (英語)

Mark Haddon著 Vintage; Export ed版 933.7/HA

イギリスの作家 Mark Haddon のミステリー小説である。主人公のクリスは数学や科学の分野に優れた能力を持ち、またアスペルガー症候群の診断を受けていて、考え方や感じ方が普通の人とかなり違っている。ある晩、クリスの隣の家の犬が殺され、クリスはその犯人について推理を始める。所々で紹介される、クリスの持つ様々な数学の知識は興味深く、ミステリーとは別の面白さもある。英文だが、是非、原書で読むことにチャレンジしてほしい。2015年にはブロードウェイで公演もされている作品である。

---

## 速習Webデザイン HTML & スタイルシート 改訂新版

栗原明則著 技術評論社 547.4/KU

「HTML」と「スタイルシート」の入門書で、Webサイトの構造を記述するHTMLとWebサイトのデザインを記述するスタイルシートの書き方をわかりやすく基礎から解説している。HTML4.01を使ってカスケードスタイルシートを使用したホームページを勉強したい人には、練習ファイルもついており、簡単に基本が習得できる。オーサリングソフトに頼らない方法を示しているため、タグの基本を理解するには良い一冊である。

---

## 栢木先生のITパスポート試験教室 イメージ&クレーバー方式でよくわかる

栢木厚著 技術評論社 007.6/KA

情報処理資格の入門編である「ITパスポート」試験に対応した参考書である。わかりやすい表現と説明により、非常にポイントが絞られている。最新の試験問題も多数収録してあるので、読んだ後、実践力を試すことができる。確認問題で覚えた知識をすぐ使うことができるため、定着しやすく実践力がつく。

---

### **これからはじめるプログラミング基礎の基礎 改訂新版**

谷尻かおり著 谷尻豊寿監修 技術評論社 007.6/TA

プログラミングの基礎をしっかりと固めたいという人向けの書籍である。考え方、基礎用語について丁寧に解説しているため、これから学ぼうとする初心者にお勧めである。プログラミングと聞くと、「やってみたいけど難しそう」という人に、他の書籍を読む前の基礎知識を学ぶ書籍として最適である。

---

### **教える・学ぶ「C言語入門」**

牛田啓太著 技術評論社 007.6/U

高校生のために、学校の先生が試行錯誤しながら完成させたC言語の教科書である。コンピュータの動く仕組みやフローチャートによるプログラミングの考え方、他言語の紹介など、基礎的な概念の説明が多くある。さらに、C言語の分岐、繰り返し、配列・多次元配列、関数までの範囲での書き方と、簡単な整列や探索のアルゴリズムが非常に細かく丁寧にわかりやすく書かれている。

---

### **独習Java 第4版**

ジョゼフ・オニール著 武藤健志監修 トップスタジオ訳 翔泳社 007.6/ON

プログラミングの初心者にも最適な入門書である。また、本格的に学習を進めたい人にも十分使用に耐えられる内容である。本書の特徴として、サンプルプログラムが豊富で、どれも実用的で、興味、関心、意欲をかきたてるものである。また、ほかの言語からJavaに乗り換えようとしているプログラマにとってもお勧めである。

---

### **やさしくわかるExcel関数・マクロ 改訂版**

西沢夢路著 ソフトバンククリエイティブ 007.6/NI

Excelの「関数」と「マクロ」について初めて学ぶ人向けのものである。詳細な説明ではないが、重要なところにポイントを絞って説明しているためとても分かりやすく、辞書のように活用できる。事例や例題もなかなかユニークな内容が多く、楽しみながら関数やマクロを覚えていくことができる書籍である。

---

### **30時間でマスター Excel2016 (Windows10対応)**

実教出版企画開発部編 実教出版 007.6/SA

例題によって基礎から学ぶことができ、豊富な実習問題で操作が確実に身につく、Excelの入門書である。各種「表計算ソフト」検定の入門書としても最適である。この本は、丁寧なステップで練習問題の繰り返しを行い、本文にもカラーがたくさん使用されておりわかりやすく、手元においておきたい一冊である。

---

---

## プレゼンテーションの技術 感動を与える、人を動かす

荒巻基文著 産業能率大学出版部 336.4/A

スライドの作成方法だけではなく、プレゼンテーションの基本（構成や話し方、表情、姿勢、ボディランゲージなど）から学ぶことができる書籍である。スライド作成時に多くの人が悩む、配色や図の扱い方、配置などの基本的な知識も身につけることができる。相手を説得（納得）させるための手法も紹介されており、日頃のコミュニケーションにも役立つ一冊である。

---

## 色と配色がわかる本

南雲治嘉著 日本実業出版社 757.3/NA

日ごろ何気なく見る景色の中には「色」情報が溢れている。私たちは知らず知らずに目に入る「色」によってコントロールされ、意図されたイメージを与えられている。本書では目の仕組みから、日常目にする「物」と「色」の関係、「色」が与えるイメージや効果的な配色について書かれている。自分の意図通りに表現するためにも、作成前に目を通しておくことを薦める。

---

## 日商PC検定 プレゼン資料作成3級 合格教本

ハーティネス ラーニング&トレーニング著 技術評論社 336.5/NI

「プレゼン利用」という観点から、学校のパソコンでも使用している Microsoft PowerPoint の使用法を紹介している。プレゼンテーションの流れから紹介されており、PowerPoint 内にある機能のうち、どのような場面でどのような図形やグラフ、見せ方が適切かを提案している。操作に関する単語が詳しく説明されており、知識や使用法に関する練習問題があるので、PowerPoint 初心者には心強い一冊である。しかし、PowerPoint をよく利用している人には少し物足りないかもしれない。

---

## Excel実践的グラフ作成術

早坂清志著 技術評論社 007.6/HA

「グラフ」と一言で言っても、その使い方は様々である。可視化するためにグラフを用いることが多いが、グラフ化したことによって意図が変わってしまい、逆にわかりづらくなってしまうこともある。本書では、作成者の意図をより明確にするためのグラフ作成術を紹介している。高校3年生は、卒論作成前に本書を一読し、自分の意図していることを明確にした上でグラフ化する力を身につけてほしい。

---

## よくわかるHTML5+CSS3の教科書

大藤幹著 マイナビ 547.4/0

Web 作成に必要な HTML は数年前より HTML5 が策定され、現在、古い HTML から HTML5 に移行中である。本書は、「HTML」をはじめて学ぶ人だけではなく、HTML4.0 からの移行にも対応しており、初歩的な内容から丁寧に記してある。HTML5 になってから、Web ページの装飾に関しては CSS で行うことになった。そこで、HTML だけではなく、CSS についても掲載されている本書のような書籍を薦める。

---

---

**ExcelVBAのプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本 続々**

立山秀利著 秀和システム 007.6/TA/3

コンピュータにおいて、作業が単純で、ある一定の期間、似たような作業を行うとき、プログラムが大いに力を発揮する。プログラミング言語について学んだことがあり、より実践的なプログラムを学びたいとき、本書で紹介されている知識が非常に役立つ。本書は総合的な内容を、簡単な問題から練習し、何回も繰り返すことによって、実践する力を身につけることができる。「ExcelVBAを学ぶ」というわけではなく、ExcelVBAを通してプログラムを作成する力を付けるための本である。

---

**数学の道具箱 Mathematica 基本編**

宮岡悦良著 近代科学社 410/MI

数式処理ソフトMathematicaは、数学やプログラミングを利用する人、学ぶ人、研究する人など、数学を用いて何かをしようとする人には、画期的なソフトウェアである。3次元の図も出力され、情報分野への応用も期待できる。高校から大学への懸け橋としての入門書である。

---

**デザインの教室 ～手を動かして学ぶデザイントレーニング～**

佐藤好彦著 エムディエヌコーポレーション 021.4/SA

将来、グラフィックデザイナーを目指している人が増えてきた。デザインは基本的に手仕事であり、手を動かして形を作り上げることが必要となってくる。手を動かしながら、視覚的な論理の組み立てについて考え、問題意識を持って課題に取り組むことができる。

---

**TEDトーク 世界最高のプレゼン術**

ジェレミー・ドノバン著 中西真雄美訳 新潮社 809.2/D0

TEDとは、テクノロジー、エンターテインメント、デザインの3つの分野から感動や衝撃をもたらすアイデアを紹介して、広めていくことを目的としているNPO法人である。TEDトークという場で、世界中の人々があらゆるテーマに沿ってプレゼンテーションをしており、その動画をインターネットで無料配信している。本書は、TEDトークを例に挙げプレゼンテーションする上で大切な内容構成や伝え方、スライドデザインなど多岐に渡って紹介されている。堅い読み物ではなく、重要な点は太字になっているなど読みやすい工夫がされているので、プレゼンテーションをする前に読んで欲しい1冊である。

---

**Wordではじめるレイアウトデザイン 2010対応**

海野京子著 ワークスコーポレーション 582.3/WA

Microsoft Wordではがきや案内状、チラシを作成するための基本知識が写真付きで分かりやすく解説されている。本書は8章立てになっており、奇数章はデザイン知識など、偶数章はチラシ等の作成手順が載っている。普段からMicrosoft Wordを使用している人にとって、ハッと驚く裏技などもあり、この1冊をマスターすることでデザイン力がぐんと上がるだろう。単に文書を書くことだけではなく、デザインすることで、より見やすくカッコいいものができること、Microsoft Word利用も楽しくなるだろう。

---

---

## 視覚デザイン デザインサポートシリーズ

南雲治嘉著 ワークスコーポレーション 757/NA

デザインすることは、その人のセンスであると考えられがちであるが、そうでもない。視覚の原理を知っていれば、誰でも簡単にデザインできるようにしてくれるのが本書の特徴である。本書では、視覚の原理や歴史から始まり、視覚構成や視覚心理、デザイン基礎技法など、デザイン力を養う基礎知識が多く紹介されている。デザイン関係に進みたい人だけではなく、「色が脳に及ぼす影響」など多くの人にとっても興味深い内容がある。

---

## デジタル一眼レフカメラと写真の教科書

中井精也著 インプレス 746/NA

携帯電話やタブレットなどで写真が撮れるようになり、カメラを持っていなくても日常的に写真を撮る人が増えた。「どうすれば見栄えのいい写真が撮れるか。」と、一度は考えたことがあるだろう。本書はそのような悩みを解決してくれる一冊である。同じ被写体でも、写真を撮る向きや高さ、光の方向によって全く違う印象を与えることができる。これは一眼レフに限らない。本書を手に入れば、君も見違えるような写真が撮れるようになるだろう。

---

## 映像編集の教科書 図解だからわかりやすい

井上秀明著 玄光社 778.4/I

本書は、動画を撮影するときどのような点に注意し、工夫すれば良いかをイラストや写真などを使って詳しく解説している。特にドキュメンタリー映像の制作に焦点をあてており、カメラワークや動画編集のテクニック、内容の構成方法など多岐にわたって書かれている。普段何気なく見ているドキュメンタリー番組の裏側を知ることができるだろう。

---

## 実践アクションラーニング入門 ～問題解決と組織学習がリーダーを育てる～

マイケル・J・マーコード著 ダイヤモンド社 336.2/MA

アクションラーニングとは、実務を通じたリーダー育成、チーム・ビルディング、組織開発を効果的に行う問題解決手法である。問題解決には色々な手法があるので、たくさん試して、自分に最適なものを身につけてもらいたい。

---

# 理科のコーナー

## \* 地球と宇宙 (1)

### 『知っておきたい物理の疑問 55』

日本物理学会編 講談社ブルーバックス (420/SHI)

高校生から寄せられた物理の疑問、専門家でもまだわからない疑問を読んでみよう。

### 『土の100不思議』

日本林業技術協会編 東京書籍 (613.5/TSU)

本書は、多数の専門家が新たな視点から、母なる大地の不思議に迫った好書である。



### 『一般気象学』

小倉義光著 東京大学出版会 (451/0)

気象学のバイブル的な本です。内容は大学教養レベルですが、数式を飛ばして文章だけを読んでもかなり勉強になります。

### 『雪』

中谷宇吉郎著 岩波文庫 (B/080/IG/124-2)

雪の結晶の研究で有名な中谷宇吉郎先生の本です。研究にかける熱い想いが伝わってきます。

### 『平安の気象予報士紫式部 - 『源氏物語』に隠された天気科学-』

石井和子著 講談社プラスα新書 (913.36/I)

源氏物語を天気の視点からとらえた本です。現代とは違う千年前の日本の気候を当時の人々がどう捉えていたのかが分かります。

### 『宇宙日記 ディスカバリー号の15日 ~生命の輝きに満ちたこの星で~』

野口聡一著 世界文化社 (538.9/N0)

「宇宙の夢はこれからも果てしなく続く。僕が届かない夢は次の世代の宇宙飛行士がきっと実現される。大勢の人を巻き込んで、新しい可能性を育て、皆と一緒にこれからも「夢の続き」を追っていきたい。

### 『からだは星からできている』

佐治晴夫著 春秋社 (112/SA)

立教大学で物理学を学び、NASAで打ち上げた惑星探査衛星ボイジャーにバッハのプレリュードを収録したレコードは太陽系の果てへ向けて飛んでいる。命の尊さを感じる物理学者。

## 『宇宙のしくみとエネルギー』

佐藤文隆著 朝日文庫 (B/440.4/SA)

高校生に読みやすい配慮が感じられる。

## 『絶対帰還。』

クリス・ジョーンズ著 河野純治訳 光文社 (538.9/J0)

宇宙飛行士がいかにかに生命の安全と危険のギリギリのところで仕事をしているかが伝わってくる。



## 『宇宙からの帰還』

立花隆著 中公文庫 (B/CHU/ター-20)

世界で初めて明らかにされた宇宙飛行士たちの本音のメッセージ。

## 『ドキュメント超新星爆発』

野本陽代著 岩波書店 (443/N0)

1989年2月23日、超新星が隣の銀河「大マゼラン雲」で観測された。400年に1度の大爆発探究の生の記録。

## 『みつけたぞ！ボクらの星』

串田嘉男著 ポプラ社 (916/KU)

子どもの頃からの夢の天文台を、自力で28歳でつくった人の話である。

## 『はじめての地学・天文学史』

矢島道子、和田純夫編 ベレ出版 (450.2/HA)

歴史的な視点から書かれた書物である。じっくり読むと、地球の不思議や天文学の面白さが徐々に伝わってくる。

## 『地震・プレート・陸と海』

深尾良夫著 岩波ジュニア新書 (080/IJ/92)

地球のダイナミックなしくみを説き起こす分かりやすく面白い本。

## 『小惑星探査機「はやぶさ2」の大挑戦』

山根一真著 講談社ブルーバックス (538.9/YA)

## 『小惑星探査機「はやぶさ」の超技術』

川口淳一郎監修 講談社ブルーバックス (538.9/SHI)

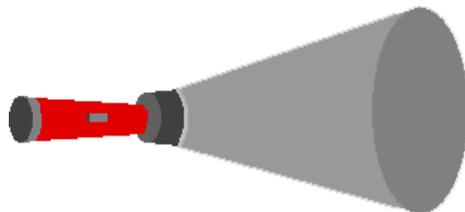
太陽系の謎に挑む日本の技術実証と科学研究の最先端。小惑星からのサンプルリターン。

## \* 光 \*

『光とはなにか』 ファン・ヒール、フェルツェル著 和田昭允、計良辰彦訳

講・ブルーバックス (425/V)

光の基礎的な性質を明らかにするとともに、その本質を解明し得る理論が築き上げられる道程をやさしく描く。



『光と物質のふしぎな理論』

リチャード P. ファインマン著 釜江常好、大貫昌子訳

岩波書店 (421.3/FE)

光に関する現象は何でも説明できるという物理学の理論を、素人にずばりと説明しようと試みている。

『イラスト・図解光触媒のしくみがわかる本』

大谷文章著 技術評論社 (431.5/0)

おそらく光触媒という言葉はニュースなどを見ていれば、一度は聞いたことがある人は多いと思う。しかし、実際にはどのようなものかはあまり知られていない。実は、光を吸収する物質の酸化・還元反応で基本的なことは説明できるため、高校生の知識でも理解できる分野である。この本は、そのような光触媒を丁寧に説明した一冊である。

『青い光に魅せられて 青色 LED 開発物語』

赤崎勇著 日本経済新聞出版社 (549.8/A)

自らの研究人生を語る。「はやりの研究にとらわれず、自分が本当にやりたいと思うことをやりなさい。」

『青色 LED 開発の軌跡—なぜノーベル賞を受賞したのか』

小山稔著 白日社 (549.8/K0)

赤色・緑色 LED を開発・事業化、青色 LED 量産化のリーダーとなった著者による青色 LED 開発の舞台裏。

## \* サイエンス・リテラシー \*

『統計でウソをつく法』

ダレル・ハフ著 高木秀玄訳 講談社ブルーバックス (350.1/H)

統計学を利用した騙しの手口が豊富な実例とともに事細かに書かれている。世間に広がるウソの情報から自分自身を守るためには、まず他人を騙す手口を知ろうというのがコンセプトだ。

『「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ』

谷岡一郎著 文春新書 (361.9/TA)

リテラシーとはたくさんの情報から真実とウソを見極める能力のことである。本書は、他人からの情報はすべて鵜呑みにするのではなく、自分の頭で考えてから取り入れる実践テクニックを、社会学や心理学などと絡めながら解説している。

## \*原子力・放射線

## 『プルトニウムの未来』

～2041年からのメッセージ』

高木仁三郎著 岩波書店 岩波新書R  
(080/I/365)

プルトニウムに依存しようとする社会。  
2041年の日本。プルトニウム誕生から100  
年目の世界を、フィクションの手法で描く。

## 『福島原発事故 独立検証委員会』

調査・検証報告書』

福島原発事故独立検証委員会

(日本再建イニシアティブ)編

デイスカヴァー・トゥエンティーン (543.5/FU)

福島第一原子力発電所の複合過酷事故という  
不幸な事態の真実を明らかにし、子供たちの  
未来に向けて有用な教訓を引き出すための一  
助となることを願って報告された。

『トコトンやさしい核融合エネルギーの本  
-今日からモノ知りシリーズ-』

井上信幸、芳野隆治著

日刊工業新聞社 B&amp;Tブックス (429.5/I)

太陽が46億年輝き続けている理由が核融  
合反応であり、将来の発電方法として注目  
されている。現在の原子力発電は核分裂反  
応を利用しているが、これらの違いを一般  
市民にも分かりやすく図解している良書で  
ある。

## \*科学と数学

## 『フーリエの冒険』

トランスナショナルカレッジオブブックス編  
言語交流研究所ヒッポファミリークラブ  
(413.5/F)

誰にでもわかるように、みんなで書いた本  
である。微分・積分などが、楽しくいつの  
間にか身につく。

## 『物理のための数学』

和達三樹著 岩波書店 (420.8/B/10)

本書は、大学で物理学を学ぼうとする諸君  
の数学の使い方の入門書である。

## 『解説がスバラシク親切的な頻出レベル』

理系数学 I・A, II・B, III・C』

馬場敬之・久池井茂著

マセマ出版社 (410/KA)

自然は数学の言葉で書かれているという。  
その言葉を鍛えよう。

## 『新しい1キログラムの測り方』

臼田孝著

講談社ブルーバックス (609/U)

2019年5月20日の世界計量記念日に、130  
年ぶりにキログラムの定義が変わります。  
単位とは何か、を学ぶことは、古くて新しい  
テーマです。

## \*物理学研究の最前線(1)

## 『重力とは何か -アインシュタインから超弦理論へ、宇宙の謎に迫る』

大栗博司著 幻冬舎新書 260 (423.6/0)

素粒子論を専門とする著者が、重力の七不思議 から説き起こし、相対性理論と量子力学、  
さらに超弦理論の最新の発展やホログラフィー原理までを解説。

## 『強い力と弱い力 ヒッグス粒子が宇宙にかけた魔法を解く』

大栗博司著 幻冬舎新書 292 (429.6/0)

ヒッグス粒子発見の本当の意義を理解していただくという野心的なプロジェクト。

## \* 物理学研究の最前線 (2)

## 『大栗先生の超弦理論入門 九次元世界にあった究極の理論』

大栗博司著 講・ブルーバックス (429.6/0)

物質をつくっているのは粒子ではなく、なにか「ひも」のように拵がったものであると考えます。

## 『ヒッグス粒子の謎』

浅井祥仁著 祥伝社新書 290 (429.6/A)

ヒッグス粒子の発見・研究で日本の研究チームを率いる科学者が書いた本。

## 『宇宙は本当にひとつなのか』—最新宇宙論入門

村山斉著 講・ブルーバックス (443.9/MU)

授業では、「全てのものは原子でできている」としているが、最新の研究では、私たちの宇宙が、原子ではない物質や未知のエネルギーで満たされていることがわかってきた。ダークマター（暗黒物質）は、宇宙の約 23% であり、ダークエネルギー（暗黒エネルギー）は約 73% を占めている。つまり、私たちの宇宙には、原子はたったの 4% 程度しかなく、その 4% がくっついたり離れたたりして、私たちを構成しているのである。

また、私たちの宇宙とは別のところに、全ちちがう宇宙があつたり（多元宇宙）、私たちの宇宙空間が 3 次元ではなかつたり（多次元宇宙）、最新の科学では、SF のようなことが真剣に考えられている。人工衛星や宇宙探査船によって明らかにされた観測や山手線の線路とほぼ同じ大きさの大型加速器を使った原子よりも小さな世界での実験などを通じて、最新の宇宙論の世界を感じてみよう。

## 『「余剰次元」と逆二乗則の破れ —我々の世界は本当に三次元か?』

村田次郎著（立教大学理学部物理学教授）講ブルーバックス (421/MU)

本来、物理学は私たちの身の周りの様々な現象を解明する科学だが、最新の物理学は簡単には見たり感じたりできない世界を通して、私たちの世界を解明しようと試みている。

この本では、そんな「余剰次元」の研究を紹介している。余剰次元とは、この 3 次元空間につながった「私たちが気づかない次元」であり、余剰次元を測定できれば、今まで解明できなかった宇宙や素粒子の世界が明らかにされるだろう。村田次郎先生の研究は、日系サイエンス 2013 年 1 月号にも紹介され、現在、世界でも注目されている。最新の物理に興味を持っている諸君に読んで欲しい 1 冊である。

## 『すごい宇宙講義』『すごい実験』

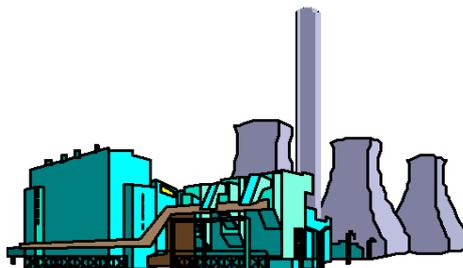
多田将著 イースト・プレス

金髪の素粒子物理学者が熱く語る物理学研究の最前線。

## 『ニュートリノで探る宇宙と素粒子』

梶田隆章著 平凡社 (429.6/KA)

ノーベル物理学賞受賞者が詳説するニュートリノ研究最前線、宇宙の成り立ち。



## \* 生体生理

## 『スーパーパワー酵素の驚異』

軽部征夫、後藤正男著

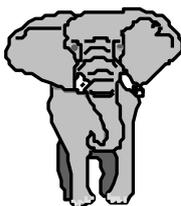
講・ブルーバックス (464. 5/KA)

酵素は、生体内で重要な働きをしているとともに様々な製品に使用されている。日常生活にあふれている酵素について考え、その秘密を解いていく。

## 『ゾウの時間ネズミの時間』

本川達雄著 中公新書(481. 3/MO)

動物のデザインや行動をサイズとの関係で論じたユニークな本である。



## 『子どもと自然』

河合雅雄著 岩波新書R (080/I/113)

人類学の立場から人間の発達や教育における自然の役割を、サルの社会との比較で述べている。

## 『関節はふしぎ』

高橋長雄著 講・ブルーバックス (491. 1/TA)

構造からけが、疾患、対処法まで。関節のしくみをわかりやすく述べている。

## \* 細胞、微生物

## 『からだの設計図』

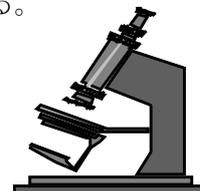
岡田節人著 岩波新書R (080/I/358)

生物の体がどうして間違いなくできあがってくるのか。遺伝子の働きを通してわかりやすく解説している。

## 『細胞を読む』

山科正平著 講・ブルーバックス (463/YAM)

細胞の構造を実際に観察することは容易ではない。電子顕微鏡写真を通して細胞についてより深く理解していくことができる本である。



## 『細菌の逆襲』

吉川昌之介著 中公新書 (491. 7/YO)

人と細菌の長い生存競争の中で編み出された、相互の巧妙な攻防の体制を見ていくことができる。

## \* 遺 伝

## 『遺伝学の誕生』

中沢信午著 中公新書 (467/NAK)

メンデルの遺伝の法則がどのようにして世に出たのかが紹介されている。

## 『遺伝子のひらめき』

太田次郎著 PHP 研究所 (467. 2/O)

DNA のことがよくわかる。

## 『二重らせん』

ジェームズ・D. ワトソン著 江上不二夫、中村桂子訳

タイム・ライフ・インターナショナル (467/W)

ワトソン博士が、DNA の構造解明までの研究過程を書き綴っている。



## \* 行 動

## 『ソロモンの指環』

コンラート・ローレンツ著 日高敏隆訳

早川書房 (481.7/L)

動物の何気ない行動の意味が、著者の目を通しておもしろおかしく描かれている。

## 『脳を育てる』

高木貞敬著 岩波新書R (080/I/466)

「頭がよい」とはどういうことだろうか。勉強することにどんな効果があるのだろうか。

## 『渡り鳥地球をゆく』

長谷川博著 岩波ジュニア新書 (080/IJ/168)

太平洋をまたにかけて飛ぶアホウドリ。絶滅の危機を向かえたこの鳥に見せられ、懸命の活動を開始する。

## \* 進化・系統

## 『昆虫の誕生』

石川良輔著 中公新書 (486.1/I)

本書は現生昆虫のすべての系統関係を見渡した本である。虫好きの人には答えられない1冊。

## 『生物進化を考える』

木村資生著 岩波新書R (080/I/19)

ダーウインの「種の起源」から著者の「分子進化の中立説」までの考え方を系統的にわかりやすく解説している。

## 『分子進化学への招待』

宮田隆著 講・ブルーバックス (467.5/MI)

DNAに残された突然変異の痕跡から進化の道筋を明らかにしようとするのが分子進化学である。

## \* 原子・分子の世界

## 『化学をつかむ』

細矢治夫著 岩波ジュニア新書 (080/IJ/61)

分子が具体的にどんな形をし、それが物質の性質にどうかかわっているかを、折り紙の分子模型を使って考えてみる。

## 『物質とはなにか』

水島三一郎著 講・ブルーバックス (428/MI)

著者の専門である物質構造論を中心に、原子から生命現象までを統一的にとらえる。

## 『分子を超えて』

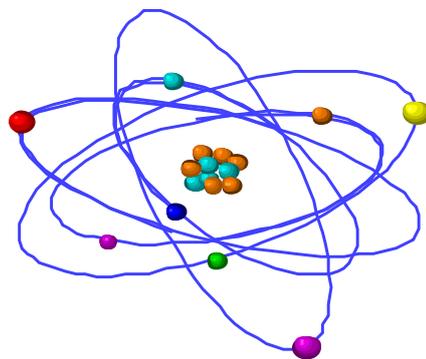
錯体化学研究会編 化学同人 (431.1/B)

「錯体」という金属を含む化合物の話。イラストなどを用いて、わかりやすく書かれている。

## 『世界で一番美しい元素図鑑』

セオドア・グレイ著 若林文高監修 武井摩利訳 創元社 (431.1/GR)

パラパラめくるだけでも楽しい書籍です。そして、読んでみるときっと面白い発見があることでしょう。



## \* 実験

## 『びっくりふしぎ写真で科学』全6巻

ガリレオ工房編 伊知地国夫写真 滝沢美絵文 大月書店

①404/TA ②471/TA ③404/TA ④404/TA ⑤481.3/TA ⑥425/TA

オリジナルな科学写真集。わかりやすく興味深い解説・図解がある。

## 『これはびっくり!化学マジック・タネ明かし』

山崎昶著 講・ブルーバックス (432/YAM)

本書は副題に「スーパーマーケットケミストリー」とあるように、  
買ってきた商品そのもので実験を楽しもうという本である。



## 『たのしい化学実験』

阪上正信、米田昭二郎、日吉芳朗著 講・ブルーバックス

化学の魅力は「実験」にある。錬金術として発達してきた  
実験を中心にまとめられているので、読み物としても楽しめる。

## 『キュリー夫人の理科教室』

I. シャヴァンヌ著 吉祥瑞枝監修 岡田勲、渡辺正訳 丸善 (420.7/CH)

マリー・キュリーが10歳前後の子供たちに行った授業は「質問」と「実験」を基礎とし、  
明快かつ独創性にあふれる楽しいものだったそうだ。

## 『粒でできた世界』

結城千代子・田中幸著 西岡千晶絵 太郎次郎社エディタス (431.1/YU)

花と金属の固さが違うわけ、古代人が使ったストロー、紙一枚で水をくいとめるなど原子や分子  
などの粒の話と大気圧の話。科学読物シリーズ「ワンダー・ラボラトリ」は読みやすくお薦め。

## \* 課題研究

## 『課題研究メソッド』

岡本尚也著 新興出版社啓林館 (002.7/0)

卒論を執筆するにあたり、どのようにまとめていけば良いのかと悩んでいる人が多いのではない  
でしょうか。研究者が高校生のためにまとめた書籍ですが、将来にわたり参考になるはずです。

## 『[課題研究メソッド] 課題研究ノート』

岡本尚也編著 新興出版社啓林館 (002.7/0)

「課題研究メソッド」の実践編です。

## 『これから研究を始める高校生と指導教員のために』

—研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター 発表の仕方—

酒井聡樹著 共立出版 (407/SA)

研究の進め方だけでなく、データの解析の仕方、そして論文やプレゼンまで丁寧に説明されて  
いる書籍である。卒論などの研究を進める上で参考になるはずです。

## \* 科学一般 (1)

## 『学問の創造』

福井謙一著 佼成出版社 (002/FU)

自然を第一の師とした福井の学問論と人生論。必ずしも化学が得意ではなかった学生がなぜ化学へ、またどのような好奇心を抱いて学生時代を過ごしたのか。

## 『化学に魅せられて』

白川英樹著 岩波新書 (080/1/709)

ノーベル化学賞受賞記念講演と既発表の文章や対談。

## 『人生は意図を超えて -ノーベル化学賞への道- 』

野依良治著 朝日選書 (430.4/NO)

われわれはいつもフロントランナーだった。科学教育を考える。

## 『ニュートリノ天体物理学入門 -知られざる宇宙の姿を透視する- 』

小柴昌俊著 講・ブルーバックス (440.1/KO)

ニュートリノ天体物理学という基礎科学の一分野が日本の学者たちによって創立された。断っておきますが、私は答えを知りませんし、・・・

## 『心に夢のタマゴを持とう』

小柴昌俊著 講談社文庫 (B/440.1/KO)

小学校・高等学校での記念講演。東京大学入学式での祝辞。人柄がしのばれる。

## 『科学者の熱い心 その知られざる素顔』

ルイス・ウォルパート、アリスン・リチャーズ著

講・ブルーバックス (402.8/WO)

23人の研究者の本音に迫るインタビュー。熱い心と人柄が伝わります。

## 『宇宙の風に聴く』

佐治晴夫著 カタツムリ社 (440.4/SA)

8時間の講演をまとめたもの。文学や音楽と宇宙との関わり等著者独特の世界へいざなう。

## 『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎著 岩波文庫 (B/080/IB/158)

生きるとはどういうことかを書いた本。中学生のコペル君とおそらく20代のおじさんとの手紙のやりとり。至るところで哲学的で自然科学的な要素がある。

## 『数学の言葉で世界を見たら』

大栗博司著 幻冬舎 (410.4/O)

理論 物理学者の父から高校生の娘に贈る数学入門。自然は数学という言葉で理解できる。

## \* 科学一般 (2)

## 『現代化学の世界』

日本化学会編 講・ブルーボックス (430.4/G)

第一線で活躍する化学者や技術者による現代科学のおもしろさや、現代社会と化学の関わりを伝えようとしている。

## 『評伝 赤崎 勇 その源流』

枚田繁著 南方新社 (289.1/A)

生い立ちからノーベル賞受賞までを時代背景と共に綴る。地道な研究と信念、その人柄とは。

## 『物理学は何をめざしているのか』

有馬朗人著 筑摩書房 (420/A)

どんな人たちが、どのように物理学を進めてきたのかが書かれている。

## 『理科年表』

国立天文台編 丸善 (R/403.6/KO)

暦、天文、気象、物理/化学、地学、生物の6部に、2005年版から「環境部」が加わった。毎年発行されているデータ集である。

## 『ダイナミック地球図鑑 岩石・化石』 (458/CO)

ロバート・R・コンラズ著 瀬戸口美恵子・瀬戸口烈司訳 新樹社

地球を知る初めの一步。そして、もっと知りたいとじっくり読むこともできる。いつのまにか、君は地球の虜(とりこ)になるでしょう。

## 『サイエンス・パレットシリーズ』

丸善出版

科学の書籍でありながら縦書き。ちょっと気楽に科学に触れたい君にピッタリのシリーズです。

## \* アプリ

## 『ロジカル記憶 元素記号』

Masafumi Kawaguchi 作 iPhone 対応 (無料)

最適な覚え方で、元素記号や化学式を押さえられるアプリです。中学生の日々の学習から大学受験まで幅広く活用できます。ちょっとした時間があるときにぜひ取り組んでみてください！



## 『88 星座図鑑』

Dreams come true Inc iPhone 対応 (無料：一部課金あり)

全天 88 星座に関する基本的なデータや星座絵が見られる星座図鑑です。天体観測が好きな方にはオススメのアプリです。

## \* 科学の歴史

## 『ザ・サイエンス・ヴィジュアル 1~16』

東京書籍 (408/ZA)

古代ギリシャから現代にいたる人間の歩んだ長い歴史を、科学史の視点からまとめた書物である。



## 『科学に魅せられた日本人、

ニッポニウムからゲノム、光通信まで』

吉原賢二著 岩波ジュニア新書 (402.1/YO)

幻の元素ニッポニウムの小川正孝はじめ、多くの日本人科学者の心意気が伝わる好書である。

## 『アインシュタイン博物館』

杉本賢治著 丸善 (289.3/A)

アインシュタインの足跡の知られざるエピソードと600余枚の絵画、銅像、手紙、現代文、切手で綴る写真伝記。

## \* 生活の科学、環境 (1)

## 『からだの自由と不自由 身体運動学の展望』

長崎浩著 中公新書 (491.3/NA)

身体を動かして、はじめて見えてくること、感じとれること。  
科学や技術と、身体を動かすことは、どう関係するのだろうか。

## 『続々と、旧暦と暮らす』

松村賢治、風力5編著 大阪南太平洋協会監修 ビジネス社 (449.3/ZO)

現在の日本はグレゴリオ歴。一方、月の運行をもとにした旧暦は、沖縄では日常生活の中に生きており、中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、インドネシアなどでも生活歴として見直されている。本書を機会に四季折々の移ろいを楽しみたい。

## 『大江戸リサイクル事情』

石川英輔著 講談社 (210.5/1)

江戸時代のリサイクル社会には、日本人の知恵がたくさんつまっていたことがわかる。

## 『スポーツと化学』

日本化学会編 大日本図書 (780/S)

化学技術はスポーツに新素材を提供している。また、スポーツ生理学や医学にも、化学は寄与している。

## \* 生活の科学、環境 (2)

## 『クルマと化学』

日本化学会編 大日本図書 (537/K)

数万点に及ぶ部品の材料面とエネルギー変換機構に化学がいかに関与しているかを第一線で活躍している研究者が紹介する。

## 『リサイクルのための化学』

日本化学会編 大日本図書 (518.5/RI)

本書を読んで、リサイクルにおける化学の役割を理解して、「分ければ資源、混ぜればごみ」を考えてほしい。

## 『本音で話そう、地球温暖化』

日本化学会編 丸善 (451.8/HO)

地球温暖化は未だに研究途上。専門家による話がわかりやすくまとめられている。

## 『身の回りを化学の目で見れば』

加藤俊二著 化学同人 (430/KAT)

本書は身の回りの物質を一つ一つ科学的に取り上げ、その認識を深めることを目的としている。気軽に安心して読める。

## 『シリーズ地球と人間の環境を考える』

日本評論社

地球温暖化、ダイオキシン、酸性雨、環境ホルモンなどについて科学的データにもとづいて明解に説明している。環境科学のバイブル。

## 『山中伸弥先生に、人生と iPS 細胞について聞いてみた』

山中伸弥著 聞き手：緑慎也 講談社 (491.1/YA)

2012年にノーベル医学・生理学賞を受賞した山中先生の話ぜひ聞いてみよう。

## 『越境する大気汚染 中国のPM2.5ショック』

畠山史郎著 PHP 研究所 (519.3/HA)

大気中の汚染物質が中国地方から日本へ、西から東へ流れてくる。夏は富士山頂でも観測をしている。

## 『Very Short Introduction シリーズ』

オックスフォード大学出版局

科学も英語も学びたいという欲張りな君へのオススメ。

## 『時を刻む湖 -7万枚の地層に挑んだ科学者たち-』

中川 毅著 岩波科学ライブラリー No. 242 (456.9/NA)

福井県にある水月湖の湖底堆積物5万年の土の縞模様「年縞」(ねんこう)から過去の環境を探る。

# 保健体育科推薦

---

## 鉄骨クラブの偉人 浅沢英著 KADOKAWA 781.5/SHI

体操ニッポンの異名をとる黄金期を持ちながら、長い低迷期にあった日本男子体操の美しい体操を選手育成の根っこから変革して蘇らせたジュニア指導者の足跡を追ったノンフィクションである。

---

## 文化としてのスポーツ

オモーフ・グルーペ著 永島惇正ほか訳 ベーザール・マガジン社

著者オモーフ・グルーペ氏はドイツ・チュービンゲン大学で教授を勤め、スポーツに関する教育学的な研究を幅広く進められてきた。スポーツの歴史が深いドイツでは、どのようにスポーツが文化の仲間入りをしてきたのか。そんな疑問を解くヒントを提供してくれるのが本書である。

---

## スポーツ学のみかた。 朝日新聞社（アエラムック） 780.1/SU

スポーツに関わる諸学問への誘い。朝日新聞社の「アエラムック New 学問のみかた」シリーズの最新刊。各学問分野の最先端研究状況や学び方等を、それに興味を持つ高校生・大学生・探求心旺盛な社会人ら向けに解説しようと企画されたもの。

---

## からだの「仕組み」のサイエンス 運動生理学の最前線

宮下充正、加賀谷淳子編著 杏林書院 780.19/KA

運動生理学の最新知見を第一線の研究者たちが分担執筆した専門書。コンセプトはあくまでも「トピックス」であり、現在の研究動向を紹介。

---

## 健康づくりへのアプローチ 石川兵衛著 文光堂 498.3/I

自分の健康は自分で守るの5章立て。

①健康とは ②どのような運動がよいか ③栄養 ④休養 ⑤健康診断

健康の保持・増進のための運動指導を行うもの向けにもまとめられている。

---

---

## スポーツ栄養の実際

黒田善雄ほか編集 文光堂 780.1/SU

専門家による各競技種目での栄養サポートの実例がいくつも紹介されている。競技スポーツをテーマとした「競技力向上のための栄養・食生活のサポート」の章には約150項が割かれている。

---

## 健康・体力づくりの食事メニュー

年齢・仕事・スポーツ種目別

永田晟ほか著 西村書店 780.19/KE

「スポーツリーダーによる健康、体力の向上を目的とした効果的な運動プログラム」の提供を目的としている。実際に食事メニューをつくってみるところに本書のメリットがあり、つくる価値のある食事メニューが豊富に掲載されているので、ぜひつくってみてほしい。

---

## THE SPORTS MEDICINE BIBLE

L. J. ミッケリーほか著 中嶋寛之監訳 ナップ 780.19/MI

スポーツ損傷を防止するためには、どのようなことが肝心か。痛みがひどくなってスポーツ活動に支障をきたす以前に、指導者、あるいは選手自身が行うべきことを解説した実用書である。

---

## 選手とコーチのためのスポーツ技術のトレーニング

グロッサー、ノイマイヤー著 朝岡正雄ほか訳 大修館書店 780.7/GR

スポーツの一般的な技術トレーニングについての解説書である。

---

## スポーツ上達の力学

イラストでわかるスポーツ動作の原理

八木一正著 大河出版 780.1/YA

運動力学的理論をイラストを多く用いてわかりやすく、視覚的にも理解することが出来るような内容となっている。

---

## 勝利へのメンタル・マネジメント オサダ・マジックの秘密

長田一臣著 スキージャーナル 780.7/0

メンタル・トレーニングの本としては一風かわっている。従来ありがちな、1から読み進めて理解度を深めていくマニュアル形式のものとは全く違う。内容は著者が、これまで指導してきた選手のケーススタディで綴られている。登場する選手名は、具志堅幸司（体操）、古賀稔彦（柔道）、山本博（アーチェリー）、中沢栄（長距離）等。

---

## 水泳のメンタルトレーニング

キース・ベル著 猪俣公宏監訳 渡植理保訳 大修館書店 785.2/BE

練習や試合前に心身ともにベストコンディションをつくるための教科書である。競泳についての考え方、スイマーが速く、楽しく泳ぎ、試合に勝つための指針などが若い世代の選手にも理解できるように平易な表現で語られる。

---

## スイミング より速く泳ぐために

吉村豊、高橋雄介著 池田書店 785.2/Y0

中級から上級を目指す高校・大学・社会人の競泳選手と指導者、スイミングクラブのコーチらに向けて書かれたトレーニング・ハウツー本。競泳技術、ウエイト・トレーニング、水泳動作パワートレーニング、総合トレーニング計画等について解説。

---

## ベースボールの物理学

ロバート・アデア著 中村和幸訳 紀伊国屋書店 783.7/AD

学問的な説明書ではなく、ベースボールを楽しむために書いた本である。物理学を通して、観る側としてよりプレーを楽しもうという遊び心が随所に散りばめられている。

---

## ライフセービングと社会福祉

千原英之進ほか著 学文社 785.2/RA

ライフセービング活動の歴史が浅い日本では、本来の社会福祉的な意味が十分理解されていない。その主張と研究成果を一冊にまとめたもの。歴史から始まり、現状、展望などが簡潔にまとめられている。

---

---

## 新・テーピングの実際

栗山節郎著 南江堂 780.1/KU

関節を固定するテーピング技術の解説から、弾力テープを用いた異常な関節運動の制限と制御、筋・腱・靭帯の体表からの補強・保護等より実際の・実践的な内容となっている。

---

## 小川忠太郎範士剣道講話 全3巻

小川忠太郎著 体育とスポーツ出版社 789.3/0

第一巻の剣道講話は剣道の理念、剣道とは何かということ。

第二巻の不動智神妙録は不動智に学ぶもの、心の置き方を説く。

第三巻では剣と道という剣道の神髄にふれる。

---

## 人生に生きる五輪の書

井上正孝著 体育とスポーツ出版社 789.3/MI

宮本武蔵の『五輪の書』といえ世界でも多くの人に読まれている。本書は剣道と人生に生きる新しい視点による『五輪の書』の解説書である。

---

## 冷暖自知 小森園正雄剣道口述録

大矢稔編著 体育とスポーツ出版社 789.3/K0

水の冷暖は自分で飲んでみて知るように、真の悟りは修行を積み重ね、自分で会得するものである。

小森園範士が各種研修会で口述された内容を忠実に再現。一貫して「剣道は教育であり実践である」という信念が貫かれている。

---

## タイガー・モリと呼ばれた男 幻の剣士・森寅雄の生涯

早瀬利之編・著 スキージャーナル 789.3/M0

天才剣士・森寅雄の生涯を描いた本書は、アメリカに活躍の場を求めた彼の波瀾万丈の人生をまとめた。

※日本図書館協会選定図書

第2回ミズノ・スポーツライター賞受賞

---

---

# 芸術科推薦

---

**東京ミキサー計画 ハイレッド・センター直接行動の記録**  
赤瀬川原平著 筑摩書房（ちくま文庫） B/CHI/ア-10

尾辻克彦のペンネームでも知られる著者が参加した「ハイレッド・センター」の活動を臨場感あふれる語り口で書き下ろしたもの。額ぶちや台座からはみ出た「芸術」がついには街頭に飛び出していく60年代前半の日本の前衛芸術の様相をリアルかつユーモラスに伝えている。

---

**ルネッサンスの光と闇 芸術と精神風土**  
高階秀爾著 中央公論社（中公文庫） B/CHU/ク-3

ルネッサンスは人間が再び自身の存在と現実そのものの魅力に目覚めた時代であり、人間の力やその未来に明るい希望を抱いた時代でもあったが、その反面、多くの恐怖や激しい不安が支配していた時代でもあった。本書ではこの時代のもつ2つの面を互いに交錯させながら精神的風土とすばらしい芸術の本質を明快に説き明かす。

---

**ゴッホの手紙**  
小林秀雄著 角川書店（角川文庫） B/G/K-35

狂気と天才、すさまじい生命力、情熱をキャンパスにたたきつけ、機関車の様に休みなく描きまくり、おそい来る苦悩との戦い。一人の貧しい人間が如何にして天職の声にひかれ自ら鞭打って美の使徒となり、美に殉教したかを、透明な眼を以ってゴッホの絵に向かい、膨大な書簡集を解説した著者が伝える評伝文学の金字塔。

---

**気まぐれ美術館**  
州之内徹著 新潮社（新潮文庫） B/G/ス-14

「私はこの人たちの絵の中でいつも旅をするのだ」。一枚の絵について語ることは、自らの人生を語るに等しい。様々な絵や画家たちとの出会いの中で、そこに潜む人間の生に戸惑い、考え、感動し、時には目眩を覚えつつ暮らした画廊主の日々。著者は型破りの美術批評家にして風変わりな画廊経営者であった。

---

---

## 20世紀美術

高階秀爾著 筑摩書房（ちくま学芸文庫） B/GA/4-6

とかく難解にみえる現代美術に、斯界きっての研究者が独自の視点から多角的に論じた概説書。「感覚的なものがあまりに人間性全体から遊離しているところに現代美術のもっとも根本的な問題がある。」という著者の視点は、感覚的に表現される美術が我々人間にとってどのような意味をもつかを知的に探求する。

---

## 名画を見る眼

高階秀爾著 岩波書店（岩波新書B） 080/I/64

最近我が国で西洋の名画を、数多くの展覧会を通して直接触れることが一般化している。これらの作品に一步進んで本質をよりよく理解するため、代表的な名画15点を選び、その題材、表現方法、技術、歴史的思想的背景などさまざまな方面よりていねいに解説した手引書。

---

## 戦争と美術

司修著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/237

第二次大戦中、戦争画を描いた多くの有名画家たちがいた。一方時局にささやかな抵抗を試み、描くことを拒否した画家たちもいた。本書は松本竣介、藤田嗣治、リーフエンシュタールらに焦点をあて、芸術家の戦争責任について考える。芸術と社会・時代との関わりについて考えさせられる一冊である。

---

## 岸田劉生

富山秀男著 岩波書店（岩波新書Y） 080/I/334

初期のフォービックな作風から一転してディラーの影響色濃い細密描写へ、そして東洋画への回心と生活の敗退—作品においても、その生活においても劇的な展開をとげた近代日本美術史上の巨星岸田劉生の生涯と作品を実証的に跡付け、謎の多い人間像に迫った名著である。＜麗子微笑＞などのカラー図版付き。

---

## ヴァイオリン

無量塔蔵六著 岩波書店（岩波新書E）

神秘的伝説や半可通による俗説にとりかこまれているヴァイオリン。この楽器について、ドイツで日本人として初めてヴァイオリン作りのマイスター称号を与えられた著者が、その豊富な経験にもとづき、歴史、製作者たち、材質、音色などについて語る話はまことに興味つきないものがある。

---

---

## ドイツ道具の旅 道具が語りかけるドイツ再発見の旅

佐貫亦男著 光人社 293.4/SA

ドイツ・ゲルマン民族の作る道具のデザインを機能美として語れば、おそらく世界の右に出るものはないであろう。その徹底した妥協をしない職人魂は、それを知る人には時として尊敬の念さえ抱かせる。同じヨーロッパの中にありながら、ゲルマンとラテンというこの対照的な二つの民族の作る道具作りを通してみる比較文化論でもある。

---

## 木に学べ 法隆寺・薬師寺の美

西岡常一著 小学館 526.1/NI

その昔、弟子からその弟子へと口述しかされなかった木にまつわる大工技術の秘伝を公開。宮大工頭領・西岡常一の長年にわたる宮大工としてのノウハウを解説した。単なる技法の解説ではなく、その中で同時に語られる氏の自然に対する謙虚さにきっと惹かれることだろう。

---

## 美術の歩み 上・下

E. H. ゴンブリッチ著 友部直訳 美術出版社 702/G

美術史界の巨星ゴンブリッジが広汎な知識と美術史全般にわたる巨視的な視野をもって著した通史である。本書は厳選された西洋美術史上の名作を目にしたときの同時代の人の驚きや感動、また芸術家が抱えていた造形課題とその解決に向かうプロセスを説得力ある文章で読者に呈示している。

---

## 幻想芸術の世界 シュールレアリスムを中心に

坂崎乙郎著 講談社（講談社現代新書） 702.06/SAK

現実にはない空想の世界、心の奥にひそむ怪性を強烈に引き出す「現代」の忠実な証人か、美術の墮落か、ゆれ動く現代の美術を明確に斬新なセンスでとらえた野心作。

---

## 西洋美術史 カラー版

美術出版社 702.3/SE

20世紀初頭までの美術史の解説。それまでの美術が主に描写することをその表現の中心とし、また時の思想、宗教観にも深い影響を受けながら発展してきたことが語られている。漫画を用いており、興味があれば一日で読めてしまう。

---

---

## もう一つの日本美 前近代の悪と死

広末保著 美術出版社 704/HI

遠い過去の記憶、忘れさられた日本人の精神のなかの秘境、定説化した美の歴史のなかでは処理できず、秘境視することによって封じこめ風化させられてきた前近代の悪と死、近世封建社会の勸善懲悪の外にあるそれらの美をかつての日本人の精神構造やエネルギーから、本書は想像と推理によって浮かびあがらせる。

---

## 夜の画家たち 表現主義の芸術

坂崎乙郎著 講談社（講談社現代新書） 723.06/SA

激しい感情表出、鮮烈なタッチと大胆な色彩。死とエロスの、霊と肉の赤裸々な相克を伝える緊張と孤独。北欧のムンク、スイスのホドラーを先達として、ドイツのマルクやモダーゾーン＝ベッカーなどの芸術を初めて知る人も多いであろう。自我と世界の悲劇的対立を尖鋭に浮き彫りにした表現主義芸術の入門書である。

---

## 求道の画家松本竣介 ひたむきの三十六年

宇佐美承著 中央公論社（中公新書） 723.1/MA

<Y市の橋>などの昭和戦前期の都会風景を真摯に見つめ、描き続けた松本竣介は、いまやこの国で最も人気のある画家の一人である。本書は敗戦3年後の1948年に36歳の若さでこの世を去った竣介のひたむきな画業と生活を、丹念な調査資料をもとに描き出した「人間・松本竣介」のドキュメントである。

---

## 脳の右側で描け

B. エドワーズ著 北村孝一訳 エルテ出版 724/ED

デッサンの技法書。大脳生理学を大胆に取り入れながら「描くこと」の理論的解説を試みている。西洋の美術の教科書に大きく取り入れられた本書の理論は、技法としてのデッサンを学ぶ諸君には大きく役に立つはずである。

---

## 素描の基礎技法

K. ニコライデス著 北村孝一訳 エルテ出版 725/NI

デッサンの技法書。純粋なデッサンの技法書として19世紀に書かれたとは思えない新鮮さを持つ。デッサンを独学するときの良書であり、前述の『脳の右側で描け』と相まって技法としてのデッサンの解説書として推薦するに値する。

---

---

## 音楽の根源にあるもの

小泉文夫著 平凡社 760.4/KO

音楽とは何か。その答えのヒントになるような本。日本音楽の権威である小泉文夫の著書。日本のわらべ歌や、世界の民族音楽にまで幅を広げ、人間と音楽との関わりについて述べている。

---

## メタルからモーツァルトへ ロック魂で聴くクラシック

クレイグ・ヘラー著 板倉克子訳 東亜音楽社 760.4/HE

クラシックについて知りたいけれども、ちょっと難しそう……。そんな風を感じている人が多いかもしれない。しかし、この文献はロックからクラシックを聴いてみるという面白い切り口で、読者にクラシック音楽について教えてくれる。クラシックの基礎や、世に残る有名な作品を紹介している。

---

## オーケストラのたのしみ

宇野功芳著 共同通信社 760.9/UN

オーケストラの名曲18曲をあげ、それぞれの曲についていろいろな指揮者の演奏を比較している。著者の見解はそれとして参考になるが、また読者もこの本を読むことによって、オーケストラを聴くポイントを知ると同時に、自らも指揮者となったような気持ちで聴く楽しみ方を知るのであろう。

---

## 僕はいかにして指揮者になったのか

佐渡裕著 はまの出版 762.1/SA

日本で有名な指揮者である佐渡裕氏による、どのようにして指揮者になったのかということが書かれた文献である。指揮者というと、ただ棒を振っているだけのように見られがちであるが、オーケストラをまとめ、音楽を作り上げていく重要な役である。音楽家の人生を知ることができる一冊。

---

## 同じ年に生まれて 音楽、文学が僕らをつくった

小澤征爾、大江健三郎著 中央公論新社（中公文庫） B/762.1/0

世界中で活躍している小澤征爾と、大江健三郎。彼らはそれぞれ違った世界で活躍しているが、同じ年に生まれている。彼らの言葉からは、芸術の本質や文学の根本が見えてくる。音楽の道を目指している人でも、そうでなくても、いろいろなメッセージを受け取ることができる。

---

---

## 絶対音感

最相葉月著 新潮社（新潮文庫） B/761.1/SA

絶対音感とは、他の音と比べなくてもどの音かがわかるという能力である。幼少期から楽器を演奏していると身につくと言われているが、この絶対音感を持っている人にしかわからない世界や、絶対音感がどういったものかがわかる著書。いろいろな人の体験なども含めて書かれているため、音楽に関心がない人、絶対音感がどういったものかわからない人にも薦めたい。

---

## 「音楽の手帖」シリーズ

青土社 ①762.05/BA ②762.1/G ③762.34/WA ④ --- ⑤764.7/J

このシリーズは、①バロック音楽、②現代日本の音、③ワーグナー、④ビートルズ、⑤ジャズ、といった項目を取り上げ、それぞれの項についてエッセイ、評論、対談、諸資料などをまとめ、一冊の本にしている。各項についていろいろな人の意見がきかれ、いろいろな資料を見ることができる。

---

## 世界の民族音楽探訪 インドからヨーロッパへ

小泉文夫著 実業之日本社 762/K0

西欧音楽の耳になれた者にとって民族音楽は全く新しい世界であり、驚きである。著者はその研究者として開拓者的存在であり、世界各地をめぐるの冒険的な体験談を通して、それぞれの民族音楽について興味深いつきない話をしている。民族音楽の入門書として最適の本であろう。

---

## 洋楽伝来史 キリシタン時代から幕末まで

海老沢有道著 日本基督教団出版局 762.1/EB

西洋音楽はキリスト教とともに16世紀半ばにはじめて日本にやって来た。しかし、すぐに鎖国となったのでその当時の洋楽のありさまは従来ほとんど知られていなかった。そこに光を当てた本書は実に興味深い新事実をわれわれに伝えてくれる。パイプオルガン伝来に関する記事もその一つである。

---

## オルガンとその音楽 各国のオルガン風土をめぐる

エーバーハルト・クラウス著 松原茂、広野嗣雄共訳 音楽之友社 763/K

オルガンの構造、歴史的発展について、各国の風土にもとづく特徴をふまえて書かれている。古い文献からの引用とか写真が豊富にのっている。多少むづかしいかもしれないが、オルガンに関する日本語の本が少ないので、役立つ本であろう。なおできるだけ多くの本を読み比べ、総合的な理解を得ることがのぞましい。

---

---

## J-POP進化論 「ヨサホイ節」から「Automatic」へ

佐藤良明著 平凡社 767.8/SA

普段耳にする機会の多いであろうJ-POPどういったものなのかがこの本からわかる。J-POPは、日本人の手によって作られる音楽がほとんどであり、そうすると、日本独特の音楽がそこにはある。いつもは気づかない音楽の繋がりを発見できるだろう。普段J-POPをよく聴く人には是非読んでもらいたい。

---

## 歌劇『トスカ』映画版（DVD）

ブノワ・ジャコ監督 2001年 M-666

プッチーニの代表的なオペラの一つである『トスカ』の映画版。画家のカヴァラドッシとその恋人で歌姫のトスカ、そのトスカを愛するあまりに自分のものにしようと企むスカルピアが織り成す、悲しくも情熱的な作品である。このオペラを舞台では味わうことのできない臨場感で、見事にトスカの世界を表現している。本当の夫婦で主演しているところも見所の一つ。オペラを見たことがない人もきっとその世界を味わうことができるだろう。

---

## いのちとかたち 日本美の源を探る

山本健吉著 新潮社 914.6/YAM

心をひきよせて離さない、古典とよばれるものの、現代に表れるときの共通した姿である。時代も社会も大きく移り変わっているにもかかわらずである。伝統というものの真の意味や価値はその姿のことである。まず頼朝の肖像を見ずえることから読書が始まる。そして、最後に改めて、私達のうけとった伝統の意味を問うことになる。

---

## 立体大全

『デザインの現場』編集部編 美術出版社 711.2/RI

デザイン・現代美術の第一線で活躍するアーティスト達の作品を紹介しながら、彼らの使う素材・道具・技術を写真等を多数用いて解説。制作過程もカラーで豊富に掲載しており、読めば必ず作品を作りたくなる一冊。

---

## 文字に美はありや。

伊集院静著 文藝春秋 728.2/I

書における有名作品を振り返りながら、文字に美醜の別が果たしてあるのかどうかを問い直すエッセイ集。短い文章が多いので気になる部分だけを読むのも良いだろう。

---

## すぐわかる日本の書 飛鳥時代～昭和初期の名筆

可成屋編 東京美術 728.21/K

日本書道の流れをカラー図版と共に紹介した入門書的な一冊。説明文も分かりやすく日本書道史全体を俯瞰して学ぶことができる。

---

# 家庭科 推薦

## 家 族

---

### 結婚と家族 新しい関係に向けて

福島瑞穂著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/207

夫婦、親子など家族のあり方が、変わりつつある。戸籍とは何なのか。結婚、扶養、相続、お墓などに関する家族法はどうなっているのか。多くの事例を通して、それらをわかりやすく解説している。夫婦別姓など新しい家族のあり方についても紹介されている。

---

### 私は女性にしか期待しない

松田道雄著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/109

知らずしらずのうちに「しきたり」にしばられ、自らの時間をなげうって会社人間になる男たちと、充実した生活を求めて模索している女たち。戦後の日本人の生活を指摘し、90年代の日本社会を展望する。

---

### フランス家族事情 男と女と子どもの風景

浅野素女著 岩波書店（岩波新書R） 080/I/404

人々が自由を手にしたとき、「家族」が揺らぎ始めた。結婚制度を振り切り、恋愛も子づくりも思いどおりになると信じた男女がはまった、深い罨とは？非婚カップル、シングル・マザー、人工授精を繰り返す人。試行錯誤する人々の姿を、医師などの専門家の分析を織り込んで描いている。

---

### <非婚>のすすめ

森永卓郎著 講談社（講談社現代新書） 367.4/M0

近い将来、流動化が進み、経済成長率が当たり前のようにマイナスになるといった不安定な世の中になる。そうした経済・社会を生き抜くためにはどうしたらよいか、と考える著者が、日本型恋愛の謎、税金・年金のカラクリを明かし、人生設計の見直しを迫る。

---

---

## 食べ物さん、ありがとう

川島四郎、サトウサンペイ共著 朝日新聞社（朝日文庫） B/ASA/サ-10

日本の栄養学研究の権威とマンガ家のサトウサンペイが対話形式で食べ物について語っている。非常にわかりやすく栄養について説明しており、挿し絵もコミカルで見やすいので栄養学初心者にはお薦めの本である。

---

## 食卓の博物誌

吉田豊著 丸善（丸善ライブラリー） 383.8/Y0

私達が普段何気なく食べている食材は、いつ頃、どこから、どのようにして日本にやってきたのだろうか。どんな調理方法があるのだろうか。この本には、これらのことが歴史をふまえて興味深く書かれている。食についての知識を深め、味だけではなく心に残る“食”を楽しんでみよう。

---

## 食の文化史

大塚滋著 中央公論社（中公新書） 383.8/0T

醤油が世界に広まってゆく事情、欧米人がサラダ作りに情熱をかける理由など、日本に限らず東西の食生活を、社会、政治、宗教、嗜好といった文化的背景とともに説いている。人間の食生活はもともと自然にある物質のうち、長い試食の歴史の結果、可食とみなされたものの集大成であるということを感じさせられる。

---

## コーヒーが廻り世界史が廻る 近代市民社会の黒い血液

臼井隆一郎著 中央公論社（中公新書） 383.8/U

私達が日常嗜好飲料として飲んでいるコーヒーは、東アフリカ原産の豆を原料とし、イスラームの宗教的観念を背景に誕生したものであった。そのコーヒーは世界に渡り、宗教、食生活の中だけでなく時には政治にも利用された。コーヒーという商品の歴史が、現代文明の一つの寓話としてまとめられている。

---

## コメ食の民族誌 ネパール・雲南と日本

福田一郎、山本英治著 中央公論社（中公新書） 383.8/FU

食文化は人間の生存・生活の最も基礎を成すものである。日常生活の中で、何をどのようにして食べているか、という問題はその人々のおかれている自然条件とその人々の生活する社会状況と深く係わりを持っている。植物学者と社会学者である著者の二人が共同でコメに重点をおいて、アジアの民族について論じている。

---

## 香辛料の民族学 カレーの木とワサビの木

吉田よし子著 中央公論社（中公新書） 619.9/Y0

各国・各民族それぞれに、日常生活の中で重要な役割を担う植物がある。調理、染色、着香、殺菌、装飾と用途も様々である。生活の中での香草や薬草の利用法について、化学成分にふれながら説明してゆく。

## 砂糖の世界史

川北稔著 岩波書店（岩波ジュニア新書） 588.6/KA

「世界商品」の砂糖。甘くて白い誰もが好むこのモノを中心に、大航海時代、植民地、プランテーション、奴隷制度、三角貿易、産業革命と近代以降の世界史のながれが描かれている。

## バナナと日本人 フィリピン農園と食卓のあいだ

鶴見良行著 岩波書店（岩波新書） 080/I/199

今、日本人が口にしているバナナの多くはフィリピン産のものである。かつては台湾や南米産のバナナが私達の舌を満足させていた。日本のバナナは何故台湾・南米産のものからフィリピン産のものに変わったのか。多国籍企業の暗躍、農園労働者の貧困、明治以来の日本と東南アジアの関係がバナナとともに描かれている。

### 3択クイズ その1 図書館の資料をフル活用して答えよう！

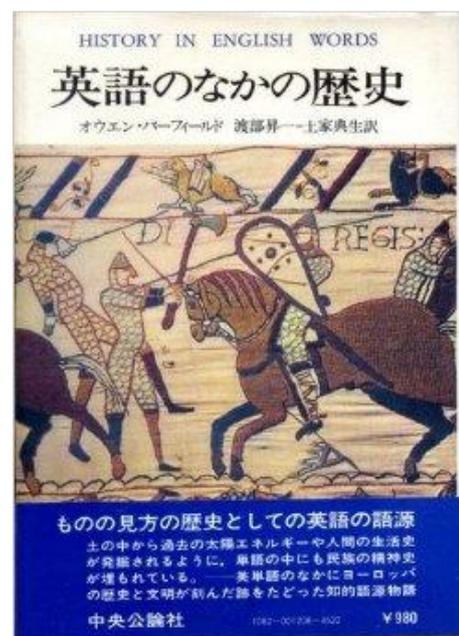
- |                          |           |         |         |
|--------------------------|-----------|---------|---------|
| Q 1 原子番号「50番」は？          | ①鉛        | ②亜鉛     | ③錫      |
| Q 2 ユーロトンネルがあるのは？        | ①マラッカ海峡   | ②ドーバー海峡 | ③タタール海峡 |
| Q 3 ルイス・キャロルの本業は？        | ①心理学者     | ②数学者    | ③科学者    |
| Q 4 酸性食品は？               | ①牛乳       | ②豆腐     | ③米      |
| Q 5 気象用語「エルニーニョ」の意味は？    | ①温度上昇     | ②神の子    | ③激しい風   |
| Q 6 総理大臣を一番多く輩出しているのは？   | ①岩手県      | ②東京都    | ③山口県    |
| Q 7 アメリカの都市、一番北にあるのは？    | ①サンフランシスコ | ②マイアミ   | ③ニューヨーク |
| Q 8 実際にあった年号は？           | ①永遠       | ②永久     | ③永劫     |
| Q 9 地球上に最初に現れたセキツイ動物は何類？ | ①ほ乳類      | ②鳥類     | ③魚類     |
| Q 10 「ブービー」、もともとの意味は？    | ①まぬけ      | ②子供の泣き声 | ③足が遅い   |

# 英語科推薦

## 英語のなかの歴史

オウエン・バーフィールド(著)、渡部昇一(翻訳)、土家典生(翻訳)  
中央公論社(中公文庫 M133)

イギリスの言語学者オーウェン・バーフィールド (Owen Barfield 1898 ~1997) の名著です。『ナルニア国物語』のC・S・ルイスや『指輪物語』のトールキンにも影響を与えたといわれています。いろいろな民族の言葉を貪欲に吸収していった英語の歴史が興味深く描かれています。



## 謎解きの英文法 文の意味

久野暲・高見健一(著) くろしお出版 835/KU

「love, like, knowなどの状態動詞は進行形にはできない」と中学では習う。しかし、“I am liking you more and more each week.”は正しい英文である。文法のルールには例外が存在することがしばしばある。使える英語を絵や図を用いながら知り、言葉ならではのおもしろさと奥深さが書かれている。

『謎解き英文法』はシリーズになっており、他にも「冠詞と名詞」、「単数か複数か」、「省略と倒置」などが出版されている。

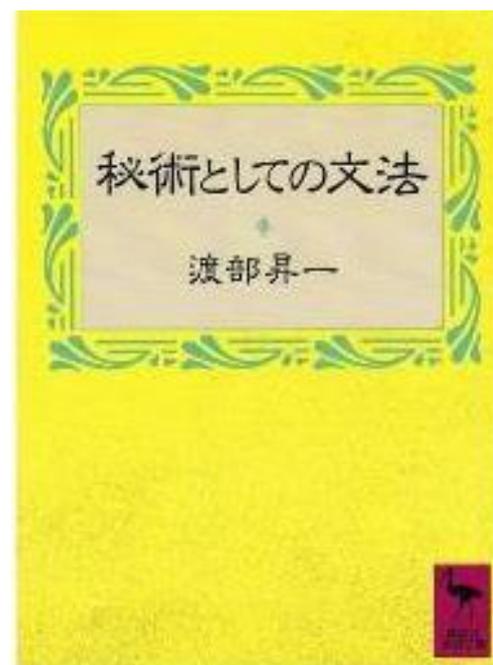


## 秘術としての文法

渡部昇一(著) 講談社(講談社学術文庫) B/GA/814

「比喩をもって言えば、新言語学は化学であり伝統文法は薬学である。化学者は病人をなおせないが、薬学者は病人をなおす薬を提供する。伝統文法は読解力を飛躍的に向上させ、新しい知性をひらき、時空を超越した世界へわたくしたちを運んでくれる秘術的な力をもっている。また、言語は社会のありかたと係わり、習慣であると同時に規則であり、理論と習慣の折り合いをつけるという意味で、伝統文法は経験と英知の学と言うことができる。」

(著者の言葉より)



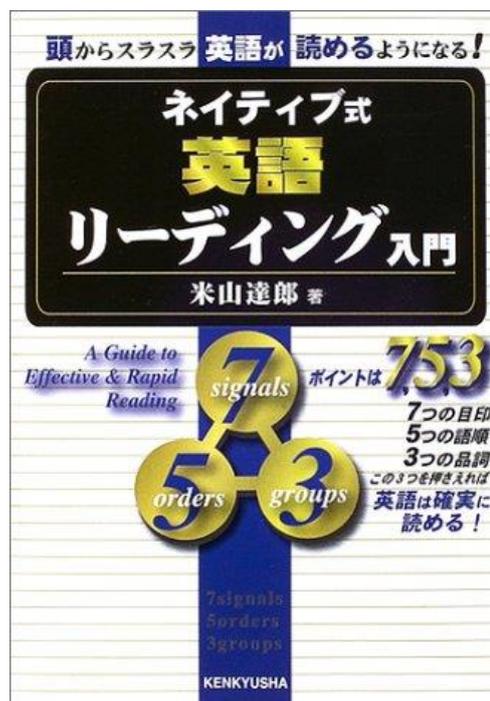
## ネイティブ式英語リーディング入門

米山達郎(著) 研究社

英語を英語の順番で読めるようになりたい人のためのリーディング入門書。

7つの目印、5つの語順、3つの品詞……この3つを押さえれば英語は確実に読める！

ネイティブと同じ読み方をするための第一歩として、右から左へと目を動かして情報を処理できる方法を提示します。



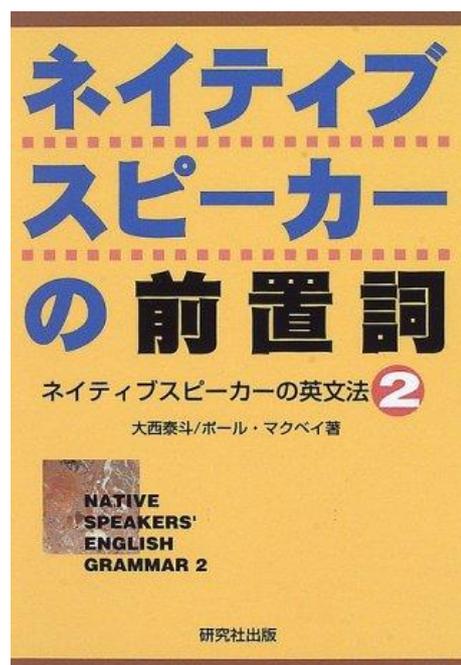
## ネイティブスピーカーの前置詞

ネイティブスピーカーの英文法 2

大西泰斗、ポール・マクベイ(著) 研究社出版 835.6/0

見やすい大きな活字と楽しいイラストで前置詞の用法を一挙紹介。丸暗記ではカバーしきれないネイティブスピーカーの「感覚」を見事に図解してくれます。

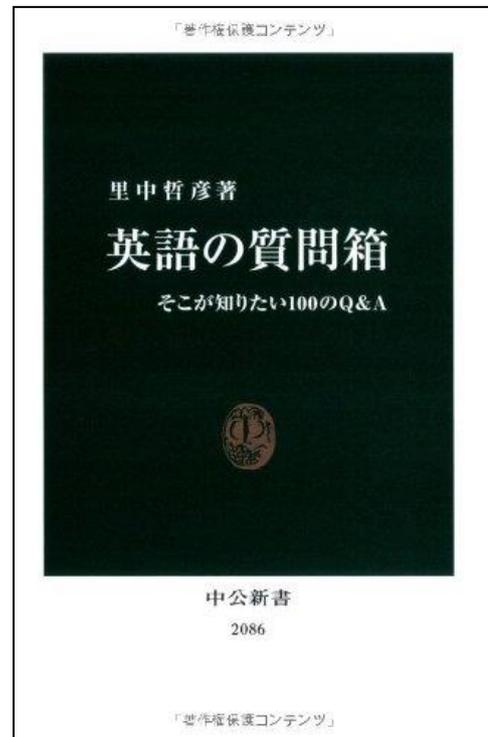
著者が「文法は、実は無意識で使いこなせるほど単純で自然なもの」「ほんの数時間でマスター出来る」というだけあって、手軽に読めてしかも「なるほど!」と納得させられる楽しい文法書です。



## 英語の質問箱 そこが知りたい100のQ&A

里中哲彦(著) 中央公論新社(中公新書) 830.4/SA

数々の英語参考書の著書でもある河合塾名物講師の里中哲彦先生が、英語に関する100個の素朴な疑問に答えた書。英語が苦手な人でも気軽に読め、克服のちょっとしたヒントを教えてくださいませんか。もちろん英語が好きな人にもオススメです。

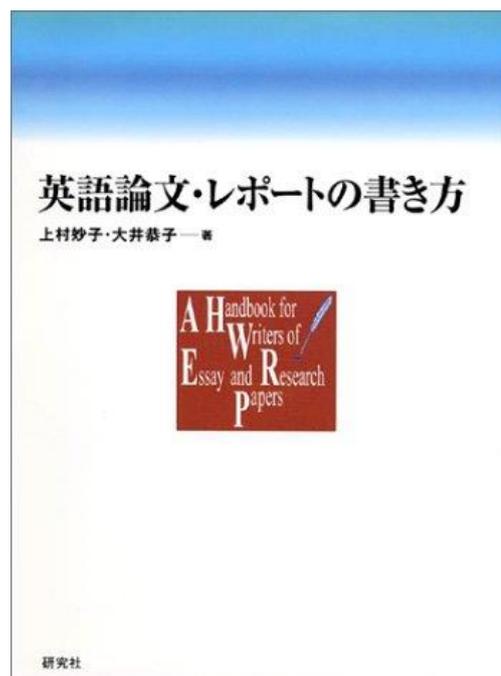


## 英語論文・レポートの書き方

上村妙子、大井恭子(著) 研究社 836.5/KA

英語で文章を書くとき、何に注意しなければいけないのか、どんな間違いをしてしまいがちなのか、どんな表現を使うとエッセイや意見文をよりかっこよく、またアカデミックに書くことができるのか、などを考えたことがあるでしょう。

本書ではライティングでの注意点、実際に英語のレポートやエッセイなどを書くにあたり使える表現、引用文献の書き方などの注意点など、大学生の卒論でも使えるものになっている。ぜひ、高校の間にライティングの考え方を学び、今後活かしてほしい。



## 外国語を身につけるための日本語レッスン

三森ゆりか(著) 白水社 810.7/SA

著者からの内容紹介

「言葉を使いこなすには技術が必要です。論理的な文章の書き方や説明の方法、有効な質問のしかたなど、欧米では当たり前のこの言語技術を、本書ではまず日本語から鍛えていきます。母語である第1言語の土台が貧弱であやふやなものであれば、その上にのる第2言語つまり外国語は、母語の程度に見合ったものにしかならない。外国語の学習の基本は母語にあり。まず日本語を鍛えよう！」

要するにコミュニケーションの基本は母語の能力に大きく依存しているということ。普段から日本語で論理的に考え、自己表現することが必要。英語が得意でない人にも読んでもらいたい一冊。



## 地球の歩き方 成功する留学 中・高校生の留学

地球の歩き方成功する留学(編) ダイヤモンド・ビックス社 376.48/CHI

中学生や高校生が留学するチャンスは様々にあります。この本ではその留学方法について「春・夏休みの短期研修(英語研修・キャンプ)」「交換留学」「個人で行く卒業旅行」の3つのタイプに分類して、章を分けて説明しています。「留学ってなに?」から始まり多くの体験談・予備知識・手続き的な知識など、実用的で示唆に富む情報を満載しています。他に文化や生活面についてのミニコラムもあり楽しんで読むことができます。



## 嵐が丘（原題：Wuthering Heights）

エミリー・ブロンテ（著）、大和資雄（改訳）  
角川書店（角川文庫） B933. 6/BR

イギリス北部ヨークシャーの一寒村に牧師の娘として生れ育った、「ブロンテ三姉妹」の2番目、エミリー・ブロンテ（Emily J. Brontë 1818—48）が残した唯一の長篇小説で、男性名エリス・ベルの筆名で発表されました。イギリスのヨークシャーの荒野に立つ荒れ果てた館「嵐が丘」を舞台に、復讐に燃えるヒースクリフの愛を描いた作品。世界で5本の指に入ると言われる、文学史上不朽の名作です。



## リンゴの木（原題：The Apple Tree）

ゴールズワージー（著）、三浦新市（訳） 角川書店（角川文庫）

ノーベル文学賞作家、ジョン・ゴールズワージー（John Galsworthy 1867-1933）による名作。銀婚式の日、上流階級出身のアシャーストは妻ステラと英国南西部の田園をドライブしていた。途中ふとある村に立ち寄るが、そこは26年前、村の娘ミーガンと恋に落ちた場所でした。甘い感傷でミーガンとの思い出に浸る彼がそこで見たものは…。



## 私のチャップリン

淀川長治(著) 筑摩書房(ちくま文庫) B/CHI/㊦-9

チャールズ・チャップリン(Charles Chaplin)は俳優、映画監督、コメディアン、脚本家。愛称はチャーリー(Charlie)。世界の三大喜劇王と呼ばれました。

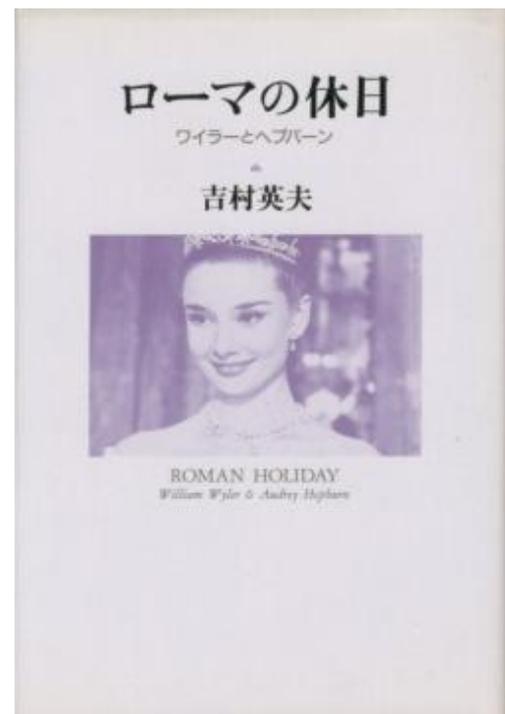
英語の授業でも扱うことの多いチャップリンですが、彼の熱狂的なファンである淀川長治氏が、暖かい眼差しを注ぎながら書いた作品です。



## ローマの休日 ワイラーとヘップバーン

吉村英夫(著) 朝日新聞社(朝日文庫) B/ASA/㊦-6

不朽の名作といわれる「ローマの休日」。世界中にファンは多く、日本も例外ではない。現在でも「最も好きな映画」の第1位に挙げる人も多い。残念なことに主人公オードリー・ヘップバーンは亡くなったが、彼女の出世作となったこの作品がどのように誕生したか、監督のウィリアム・ワイラーの様々な作品を通して、「ローマの休日」の制作秘話が紹介されている。



## 生きる! (英文多読シリーズ)

安河内哲也(著) ナガセ(東進ブックス)

837.7/YA

あらすじ

幼い頃から優秀で、天才児と呼ばれてきたダイキ。だが中学受験に失敗し、わずか12歳にして大きな挫折を味わう。中学入学後、すっかり勉強嫌いになったダイキは、仲間と共に空手やケンカに明け暮れ、そしてついに暴走族の一員となるが……。

恋愛、就職、そして突然の悲劇……。波瀾万丈な人生の中で、ダイキが見つけた目標、そして生きる意味とは!?

推薦理由

国の英語教育政策にも影響を与えている著者安河内哲也氏肝いりの英文ストーリー。他にもシリーズで様々なタイトルがあるので、英文多読に挑戦したい人にお薦めの1冊。



## 「言語技術」が日本のサッカーを変える

田嶋幸三(著) 光文社(光文社新書) 783.4/TA

内容の抜粋

サッカーにおいては、論理的な思考が求められます。なぜならサッカーは、スピーディーなゲームの最中に究極の判断を求められるチームスポーツであり、刻々と変化していく局面に対してその都度、自分の考えを明確にし、それを相手に伝えていく必要性が生じるからです。こうした姿勢や対応能力は、日本人がこれまで最も苦手にしてきた領域だといえるでしょう。

推薦理由

ヨーロッパ言語圏(英語圏も含む)の人たちの自己主張の仕方を教えてくれる本。英語を将来使いこなしたい人はこの論理的説明力が求められる。まずは母語である日本語から始めてみよう。



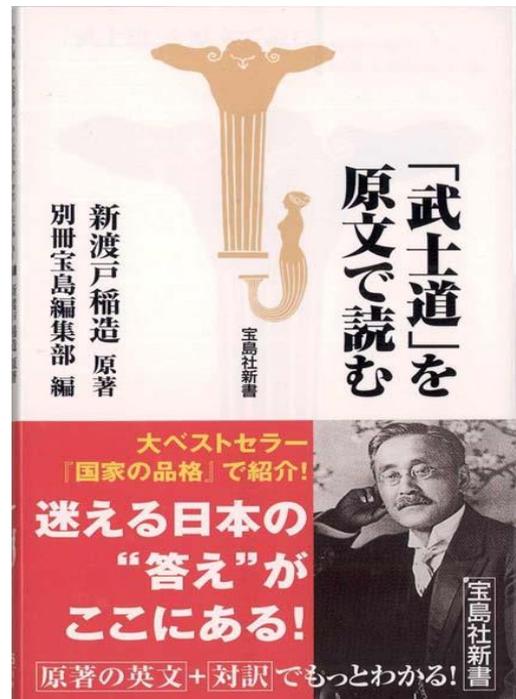
## 「武士道」を原文で読む

新渡戸稲造(原著) 別冊宝島編集部編 宝島社(宝島社新書) 837.5/BU

「武士道」というより日本の「道徳」を海外に紹介するものになっています。著者は、札幌農学校出身のキリスト教徒で、国際連盟の事務局次長として活躍した「国際人」です。

「武士道」とは、一言で表現するならば、「騎士道の規律」であり、「高貴な身分に付随する義務」と言えるものです。

本書は、1898年、新渡戸稲造が37歳のとき、アメリカで書いたもので、原文は英語です。「太平洋の懸橋」になろうと志した人にふさわしく、その論議は常に世界的コンテクストの中で展開されています。グローバル化の時代には是非読んでいただきたい一冊です。



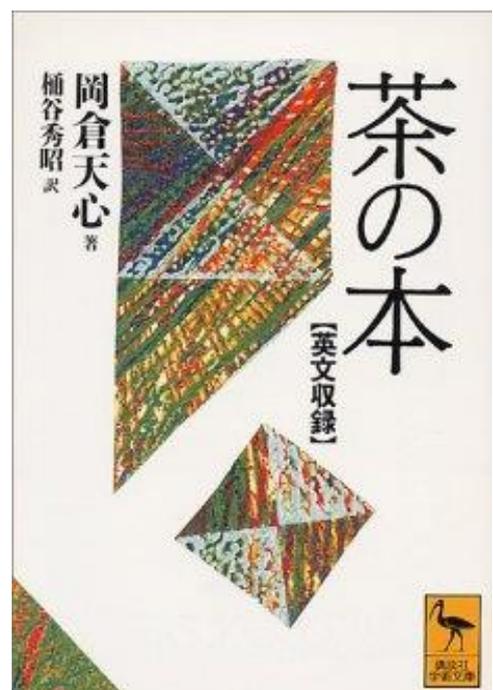
## 茶の本 (原題 The Book of Tea)

岡倉天心(著)、桶谷秀昭(訳) 講談社(講談社学術文庫) B/GA/1138

1906年(明治39)にニューヨークで刊行された「茶の本」は、岡倉覚三(天心)が外国人に向けて、日本文化を紹介するために書いたものです。

「不足の美」、「未完の美」、「余白の美」、そして引き算の美学。日本文化を理解する上で、決して無視することのできないキーワードが盛り込まれています。

新渡戸稲造の『武士道』と同様に『茶の本』も原文は英語で書かれたものです。



# 英語教育論争から考える

鳥飼玖美子(著) みすず書房 830.7/T0

1970年代、英語教育史に残る「英語教育大論争」(1974年)がありました。もと外交官で、政治家の平泉渉氏は、日本の英語教育の改革を提唱する「平泉試案」をまとめました。それに対し、当時上智大学教授の渡部昇一氏が反論して、半年にもおよぶの〈英語教育大論争〉が展開されました。

本書は、この論争を様々な角度から検証し、現在の英語教育のみならず国語教育にも有意義な議論を導き出す試みです。再検討から新たな提言へ。「教育改革」の行方を考える重要書。



## 3択クイズ その2 図書館の資料をフル活用して答えよ

- Q11 ビタミンにないアルファベットは？  
 ① P ② L ③ O
- Q12 動・植物の学名は何語？  
 ① ラテン語 ② エスペラント語 ③ 英語
- Q13 帝国ロシア最後の皇帝は？  
 ① ニコライ2世 ② ピョートル大帝 ③ エカテリーナ1世
- Q14 童謡『むすんでひらいて』は、もともとどこの国の曲？  
 ① イギリス ② フランス ③ ドイツ
- Q15 8月にあたるのは？  
 ① 大暑 ② 白露 ③ 立秋
- Q16 19世紀、「写実主義」を唱えた作家は？  
 ① ゲーテ ② モーパッサン ③ ユーゴー
- Q17 英語「student」のもともとの意味は？  
 ① 完成する ② 努力する ③ なまける
- Q18 「発端」の反対語は？  
 ① 閉幕 ② 終業 ③ 終局
- Q19 日本初、野球小説の作者は？  
 ① 芥川龍之介 ② 正岡子規 ③ 夏目漱石
- Q20 世界最大の蔵書を持つ図書館は？  
 ① 日本の国会図書館 ② 英国のオックスフォード大学図書館 ③ 米国の議会図書館

クイズは以上で終了です。答えは83ページ。

# 宗教科推薦

- I. 辞（事）典・注解・図説・年表
- II. 宗教一般
- III. 聖書
- IV. 歴史
- V. キリスト教倫理
- VI. キリスト教文化

- ・ ☆～☆☆☆ 星の数が少ないほど入門的です。
  - ・ 原則として、図書館に所蔵してあります。
- 各文献の詳細については宗教（聖書）科教員まで問い合わせて下さい。

## I. 辞（事）典・注解・図説・年表

### 1. 宗教一般

- ・ 『カラー版世界宗教事典』 教文館 (R/160.3/KE)
- ・ 『キリスト教年鑑』 キリスト新聞社 (R/190.5/KI)
- ・ 『宗教学辞典』 東京大学出版会 (R/161/S)
- ・ 『図説世界の宗教大事典』 ぎょうせい (R/160.3/ZU)
- ・ 『世界「宗教」総覧』 新人物往来社 (R/162/SE)
- ・ 『日本「宗教」総覧』 新人物往来社
- ・ 『日本「キリスト教」総覧』 新人物往来社 (192.1/NI)

### 2. 聖書

- ・ 『旧約新約聖書大事典』 教文館 (R/193.03/K)
- ・ 『新共同訳聖書コンコルダンス』 キリスト新聞社 (R/193.03/SHI)
- ・ 『新聖書大辞典』 キリスト新聞社 (193.03/S)
- ・ 『マクミラン聖書歴史地図』 原書房 (193.02/A)
- ・ 『聖書小事典』 岩波ジュニア新書 (080/IJ/215) ☆
- ・ 『聖書年表・聖書地図』 女子パウロ会 (193.03/WA) ☆
- ・ ジョーンズ, C.M. 『図説・旧約聖書の歴史と文化』 新教出版社 (193.1/Z) ☆
- ・ ジョーンズ, C.M. 『図説・新約聖書の歴史と文化』 新教出版社 (193.5/ZU) ☆

- ・『ギリシア語新約聖書釈義辞典Ⅰ～Ⅲ』 教文館 (193.5/GI) ☆☆☆
- ・『聖書思想事典』 三省堂 (R/193.03/S) ☆☆☆
- ・『ハーパー聖書注解』 教文館 (R/193/HA) ☆☆☆
- ・『福音書のイエス・キリストⅠ～Ⅴ』 講談社 ☆☆☆  
(Ⅰ:193.6/OG, Ⅱ:193.6/KAW, Ⅲ:193.6/MI, Ⅳ:193.6/OR, Ⅴ:193.9/AR)

### 3. 歴史

- ・『キリスト教資料集』 聖公会出版 (190/KI)
- ・『キリスト教人名辞典』 日本基督教団出版局 (R/190.3/K)
- ・『キリスト教大事典』 教文館 (190.3/KI)
- ・『キリスト教百科事典』 エンデルレ書店 (190.3/KO)
- ・『日本キリスト教史年表』 教文館 (R/192.1/NI)
- ・『日本キリスト教歴史大事典』 教文館 (R/190.3/NI)

### 4. キリスト教倫理、他

- ・佐藤敏夫、大木英夫編『キリスト教倫理辞典』 日本基督教団出版局
- ・バラクラフ, J. 『図説キリスト教文化史 (全3巻)』 原書房 (192/ZU) ☆

## II. 宗教一般

- ・井上順孝編『世界の宗教101物語』 新書館 (160/SE) ☆
- ・金児暁嗣『日本人の宗教性』 新曜社 (161.4/KA) ☆
- ・小林道憲『宗教とはなにか』 NHKブックス (163/KO) ☆
- ・武藤一雄ほか編『キリスト教を学ぶ人のために』 世界思想社 (190/KI) ☆
- ・村上重良  
『世界の宗教—世界史・日本史の理解に—』 岩波ジュニア新書 (080/IJ/14) ☆
- ・村上重良  
『日本の宗教—日本史・倫理社会の理解に—』 岩波ジュニア新書 (080/IJ/27) ☆
- ・渡辺照宏『日本の仏教』 岩波新書B (080/I/299) ☆
- ・阿部美哉『世界の宗教』 (放送大学教材) 放送大学教育振興会 ☆☆
- ・石井研士『データブック現代日本人の宗教』 新曜社 (162.1/I) ☆☆
- ・鹿嶋春平太『聖書の論理が世界を動かす』 新潮選書 (193.04/KA) ☆☆
- ・井上順孝ほか編『宗教学を学ぶ』 有斐閣選書 (161/SHI) ☆☆☆
- ・河合隼雄『宗教と科学の接点』 岩波書店 (140.4/KAW) ☆☆☆
- ・幸日出男、關岡一成『キリスト教と日本の諸宗教』 三和書房 ☆☆☆
- ・P. C. W. デイヴィス『宇宙はなぜあるのか』 岩波書店 (443/D) ☆☆☆

### Ⅲ. 聖書

#### 1. 邦訳聖書

- ・文語訳『旧新約聖書』日本聖書協会 (193/K)
- ・口語訳『聖書』日本聖書協会 (193/SE)
- ・新共同訳『聖書』日本聖書協会 (193/S)
- ・荒井献、佐藤研『新約聖書Ⅰ～Ⅳ』岩波書店 (193.5/SHI)

#### 2. 聖書一般

- ・新井智『聖書—その歴史的事実—』NHKブックス (193.02/AR) ☆
- ・木田献一他『聖書の世界・総解説』自由国民社 (193/SE) ☆
- ・鈴木秀夫『森林の思考・砂漠の思考』NHKブックス (290.1/SU) ☆
- ・月本昭男『聖書の世界』光文社文庫 (B/KOB/レ-2) ☆
- ・なだいなだ『民族という名の宗教』岩波新書R (316.8/NA) ☆
- ・青野太潮『どう読むか、聖書』朝日選書 (193/A) ☆☆
- ・海老澤有道  
『日本の聖書—聖書和訳の歴史—』日本基督教団出版部 (193.08/EB) ☆☆☆
- ・笠井恵二『二十世紀の聖書理解』新教出版社 (193/KA) ☆☆☆
- ・鹿嶋春平太『誰もが聖書を読むために』新潮選書 (193.04/KA) ☆☆☆
- ・出村彰、宮谷宣史『聖書解釈の歴史』日本基督教団出版局 (193.09/SE) ☆☆☆
- ・山我哲雄、佐藤研『旧約新約聖書時代史』教文館 (193.02/YA) ☆☆☆
- ・和田幹男『私たちにとって聖書とは何なのか』女子パウロ会 (193.01/WA) ☆☆☆

#### 3. 旧約聖書関係

- ・浅見定雄『旧約聖書に強くなる本』日本基督教団出版局 (193.1/A) ☆
- ・月本昭男『目で見ると聖書の時代』日本基督教団出版局 (193.02/TSU) ☆
- ・池田裕『旧約聖書の世界』三省堂 (227.9/I) ☆☆
- ・関谷定夫『考古学でたどる旧約聖書の世界』丸善 ☆☆
- ・石田友雄ほか『総説旧約聖書』日本基督教団出版局 (193.1/S) ☆☆☆

#### 4. 新約聖書関係

- ・テリエン, S. 『聖書の歴史 (新版)』創元社 (193.02/T) ☆
- ・バークレー, W. 『バークレーの新約聖書案内』ヨルダン社 (193.5/BA) ☆
- ・ハンター, A. M. 『新約聖書案内』新教出版社 (193.5/H) ☆
- ・ハンター, A. M. 『現代新約聖書入門』新教出版社 (193.5/H) ☆☆
- ・マリー・ボード, P. 『キリスト教の誕生』創元社 (192/BE) ☆☆

- ・ロプス, D. 『イエス時代の日常生活 I ~ III』 山本書店 (193. 02/D) ☆☆
- ・荒井献ほか 『総説新約聖書』 日本基督教団出版局 (193. 5/S) ☆☆☆
- ・ローゼ, E. 『新約聖書の周辺世界』 日本基督教団出版局 ☆☆☆

## 5. イエス研究

- ・アルバーン・アリ、シャルル・シガー 『イエスと出会うー福音書を読むー』 教文館 (193. 6/HA) ☆
- ・荒井献 『イエスとその時代』 岩波新書 B (080/I/909) ☆☆
- ・荒井献 『問いかけるイエス』 日本放送出版協会 (193. 6/A) ☆☆
- ・八木誠一 『キリストとイエス』 講談社現代新書 (193/YA) ☆☆
- ・荒井献 『イエス・キリスト上・下』 講談社学術文庫 (B/192. 8/A) ☆☆☆
- ・柴田秀 『ただの人・イエスの思想』 三一書房 (192. 8/SHI) ☆☆☆
- ・高尾利数 『イエスとは誰か』 NHKブックス (192. 8/TA) ☆☆☆
- ・田川建三 『イエスという男』 三一書房 (192. 8/TA) ☆☆☆
- ・山形孝夫 『聖書の奇跡物語-治癒神イエスの誕生-』 朝日文庫 (B/ASA/ヤ-8) ☆☆☆

## IV. 歴史

キリスト教の「聖書」や「倫理」に関する書物が、入門的なものから専門的なものにいたるまで種々出版されているのに比べると、「歴史」に関する書物は少ない。まして中高生を対象として平易な入門的なものとなると、その数はきわめて少ないのが現状である。

さらには、日本のキリスト教がこれまでは欧米のそれを範としてきたため、キリスト教史と言えばヨーロッパ・アメリカを扱ったものがほとんどで、アジア等の諸地域の研究は未だこれからであるというのが現状である。

1. の中に掲げた書籍のうち、フォイエルバッハ以降の書物は大学を卒業するまでに一度は読んでほしいものである。また2. は、とくに立教学院とゆかりの深いものなので、興味・関心をもってもらえれば幸である。3. の分野はまだ未開拓な側面が多々ある。「脱亜入欧」の時代はもう終わったはずだ。キリスト教に限らず、われわれはアジアの隣人たちについてもっと理解を深める必要があるだろう。その意味では、われわれ一人ひとりの今後の課題として受け止めたい。

### 1. 欧米のキリスト教史

- ・エラーブ, H. 『キリスト教封印の世界史』 徳間書店 (192/EL) ☆☆
- ・佐藤哲典 『キリスト教史への旅』 日本基督教団出版局 (192/SA) ☆☆
- ・曾根暁彦 『教会史入門』 日本基督教団出版局 (198/S0) ☆☆
- ・出村彰 『キリスト教入門2 歴史』 日本基督教団出版局 (190/K/2) ☆☆

- ・バラクラフ, J. 『図説キリスト教文化史 (全3巻)』原書房 (192/ZU) ☆☆☆
- ・半田元夫 『キリスト教小史』清水弘文堂書房 (190. 2/HA) ☆☆☆
- ・半田元夫、ほか  
『世界宗教史叢書 キリスト教史 (全3巻)』山川出版社 (192/KI) ☆☆☆
- ・丸山忠孝 『キリスト教会2000年』いのちのことば社 (195/MA) ☆☆☆
- ・八代崇 『世界史とキリスト教』聖公会出版 (192/YA) ☆☆☆
- ・ウォーカー, W. 『キリスト教史 (全4巻)』ヨルダン社 (192/WA) ☆☆☆
- ・フォイエエルバッハ 『キリスト教の本質』改造社文庫 (080/K/45) ☆☆☆
- ・ウェーバー, M. 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』  
岩波文庫 (B/080/IW/209) ☆☆☆
- ・ウェーバー, M. 「世界宗教の経済倫理 序論」 (『宗教社会学論選』)  
みすず書房 (161. 3/WE) ☆☆☆
- ・ウェーバー, M. 『古代ユダヤ教 (全2巻)』みすず書房 (199/W) ☆☆☆
- ・トーニー, R. H. 『宗教と資本主義の興隆』岩波文庫 (160. 2/T) ☆☆☆

## 2. 英国のキリスト教史・聖公会史

- ・塚田理編 『イギリスの宗教』聖公会出版 (198. 4/I) ☆☆☆
- ・半田元夫 『イギリス宗教改革の歴史』小峯書店 ☆☆☆
- ・八代崇 『新・カンタベリー物語』聖公会出版 (198. 4/YAS) ☆☆☆
- ・八代崇編 『英国の心棒』聖公会出版 (233/E) ☆☆☆
- ・浜林正夫 『イギリス宗教史』大月書店 (162. 3/HA) ☆☆☆
- ・ムアマン, J. H. 八代崇ほか訳 『イギリス教会史』聖公会出版 (198. 4/M) ☆☆☆
- ・八代崇 『イギリス宗教改革史研究』創文社 (192. 3/YA) ☆☆☆
- ・八代崇 『イングランド宗教改革史研究』聖公会出版 (192. 3/YA) ☆☆☆
- ・八代崇編  
『宗教改革著作集 (第11、12、14、15巻)』教文館 (190. 8/SHI) ☆☆☆

## 3. アジア・日本のキリスト教会史

- ・『A. A. LAシリーズ アジア・キリスト教史 (全2巻)』教文館 (192. 2/A) ☆☆☆
- ・蔵田雅彦 『天皇制と韓国キリスト教』新教出版社 (192. 2/KU) ☆☆☆
- ・五野井隆史 『日本キリスト教史』吉川弘文館 (192. 1/GO) ☆☆☆
- ・隅谷三喜男 『近代日本の形成とキリスト教』新教出版社 ☆☆☆
- ・池明観 『韓国から見た日本』新教出版社 (302. 1/JI) ☆☆☆
- ・日本基教団出版局編  
『アジア・キリスト教の歴史』日本基督教団出版局 (192. 2/A) ☆☆☆

## V. キリスト教倫理

- ・ 今村嗣夫、小暮修也  
『アイデンティティへの侵略ーいま高校生と語る戦後補償・人権ー』新教出版社(210.75/A) ☆
- ・ ヴァイツゼッカー, R. V. 『良心は立ち上がる』日本基督教団出版局(312.34/WE) ☆
- ・ 土戸清 『規範なき時代の宗教ー聖書と現代ー』教文館(190.4/TSU) ☆
- ・ 『生命科学とキリスト教(全5巻)』日本基督教団出版局(490.1/SE) ☆
- ・ 飯沼二郎 『見えない人々ー在日朝鮮人ー』日本基督教団出版局(316.81/I) ☆☆
- ・ NCC 障害者と教会問題委員会  
『みわざの現われるために』新教出版社(190.4/M) ☆☆
- ・ 金子晴勇 『キリスト教思想史入門』日本基督教団出版局(191.0/KA) ☆☆
- ・ キム, M. K.  
『恨(ハ)に生きる民衆(ミンジュン)の女性たち』日本基督教団出版局(367.2/HA) ☆☆
- ・ 工藤英一 『キリスト教と部落問題』新教出版社(190.4/KU) ☆☆
- ・ 久米博 『キリスト教ーその思想と歴史ー』新曜社(190/KU) ☆☆
- ・ ジャーク, A.  
『寄留者ー現代における移民と難民ー』日本基督教団出版局(334.4/JA) ☆☆
- ・ 塚田理 『日本聖公会の形式と課題』聖公会出版(198.4/TS) ☆☆
- ・ バークレー, W. 『バークレーのキリスト教倫理』ヨルダン社(191.7/BA) ☆☆
- ・ ブラウン, R. M. 『意外な知らせー第三世界の目で聖書を読むー』  
日本基督教団出版局(193/BR) ☆☆
- ・ ブラウン, S. F. 『キリスト教』青土社(190/BR) ☆☆
- ・ ミラー, R. C. 『死の教育 (death education)』ヨルダン社(191.6/MI) ☆☆
- ・ 村山幸輝 『キリスト者と福祉の心』新教出版社(197.6/MU) ☆☆
- ・ 李仁夏 『自分を愛するようにー「生活の座」から、み言に聞くー』  
日本基督教団出版局(198.3/I) ☆☆
- ・ バルト, K. 『キリスト教倫理 I ~ IV』新教出版社(191.7/BA) ☆☆☆
- ・ W. E. ホーダーン  
『現代キリスト教神学入門』日本基督教団出版局(191/H0) ☆☆☆
- ・ A. リチャードソン 『キリスト教教理史入門』日本聖公会出版部 ☆☆☆

## VI. キリスト教文化

### 1. 書籍

- ・ 青木恵哉 『選ばれた島』新教出版社(197/A0) ☆
- ・ 石黒マリーローズ 『キリスト教文化の常識』講談社現代新書(190/I) ☆
- ・ 稲垣真美 『兵役を拒否した日本人』岩波新書F(080/I/828) ☆

- ・井上洋治『イエスのまなざし』日本基督教団出版局 (192. 1/I) ☆
- ・岩村昇  
『ネパールの碧い空一草の根の人々と生きる医師の記録ー』講談社 (197/IW) ☆
- ・奥田貞子『ほのぐらい灯心を消すことなく』キリスト新聞社 (916/OK) ☆
- ・辻内鏡人・中條献『キング牧師』岩波ジュニア新書 (080/IJ/221) ☆
- ・ヘイガン『魂のうたゴスペル』音楽之友社 (767. 8/HA) ☆
- ・星野富弘『愛、深き淵より。』立風書房 (494. 6/HO) ☆
- ・マザー・テレサ『生命あるすべてのものに』講談社現代新書 (194/T) ☆
- ・矢崎健一『チャニング・ムーア・ウィリアムズ』聖公会出版 (198. 4/WI) ☆
- ・神谷美恵子  
『生きがいについて(神谷美恵子著作集1)』みすず書房 (493. 7/KA) ☆☆
- ・神谷美恵子『人間をみつめて(神谷美恵子著作集2)』みすず書房 (493. 7/KA) ☆☆
- ・フランクフルト, V. E. 『夜と霧』みすず書房 (946/FR) ☆☆
- ・川端純四郎・志村拓生他  
『キリスト教音楽名曲CD100選』日本基督教団出版局 (765/KI) ☆  
これからキリスト教音楽をCDで聴いてみようとする人たちの入門書
- ・辻荘一『キリスト教音楽の歴史』日本基督教団出版局 (765/TS) ☆  
元立教大学名誉教授が、キリスト教音楽の歴史をわかりやすく解説
- ・相良憲昭『音楽史の中のミサ曲』音楽之友社 (765. 3/SA) ☆☆  
キリスト教音楽のミサ曲に焦点をしばりミサの意味と各時代のミサ曲を解説

## 2. CD

膨大な種類と数に及ぶので、今回は聖歌、クリスマス曲を主に紹介する

- ・『キングズ・カレッジ合唱団の「讃美歌集」』 (174/KI) ☆  
クレオベリー指揮 ケンブリッジ・キングズ・カレッジ合唱団  
国内盤 ポリドール  
英国聖公会の有名な賛美(聖)歌集。「聖歌集」にある曲も多く含まれている
- ・『グレゴリアン・チャント』 (174/GR) ☆  
シロス修道院合唱団 国内盤 東芝EMI  
長い間カトリック教会の公式音楽であったグレゴリオ聖歌集。神秘的な響き
- ・『A Festival of Lessons & Carols』 ☆  
レッチャー指揮 ケンブリッジ・キングズ・カレッジ合唱団  
輸入盤 英国EMI  
キャロルと聖書朗読を交えてのクリスマス・イヴ礼拝の実況録音のCD

- ・ 『Carol Album』 ☆

パロット指揮 クヴァナー・コンソート、クワイアー、他

輸入盤 英国EMI

キャロル本来の姿を再現。「きよしこの夜」はギター伴奏のワルツ風
- ・ 『Christmas with the Cambridge Singers』 ☆

ラッター指揮 ケンブリッジ・シンガーズ、他

輸入盤 英国Collegium

今人気J.ラッターのもの数曲を含めたキャロル集。アレンジものも楽しい
- ・ 『Faire is the Heaven -Music of the English Church-』 ☆☆

ラッター指揮 ケンブリッジ・シンガーズ

輸入盤 英国Collegium

宗教改革以前から今世紀までの英国の教会音楽の歴史を綴ったCD
- ・ 『PSALMS 1 英国国教会の礼拝音楽』 (174/E) ☆☆

ニアリー指揮 ウェストミンスター・アビー聖歌隊

輸入盤 英国ヴァージン

アングリカン・チャントと呼ばれる聖公会特有のハーモニーによる詩編唱

### 3. ビデオ

- ・ 『天地創造』 (M-95.96) ☆

ヒューストン監督 1966年(172分) 2巻組

旧約聖書の「創世記」の七つの物語を映画化したもの
- ・ 『ジーザス・クライスト スーパースター』 (M-19) ☆

ジュイソン監督 1973年(106分)

イエス・キリストの十字架までの一週間を描いたロック・ミュージカル
- ・ 『ブラザー・サン シスター・ムーン』 (M-1000) ☆

ゼフィレリ監督 1972年(121分)

清貧のアッシジの聖フランチャスコの修道会設立を描いた心洗われる映画
- ・ 『ベン・ハー』 (M-97.98) ☆

ワイラー監督 1959年(222分) 2巻組

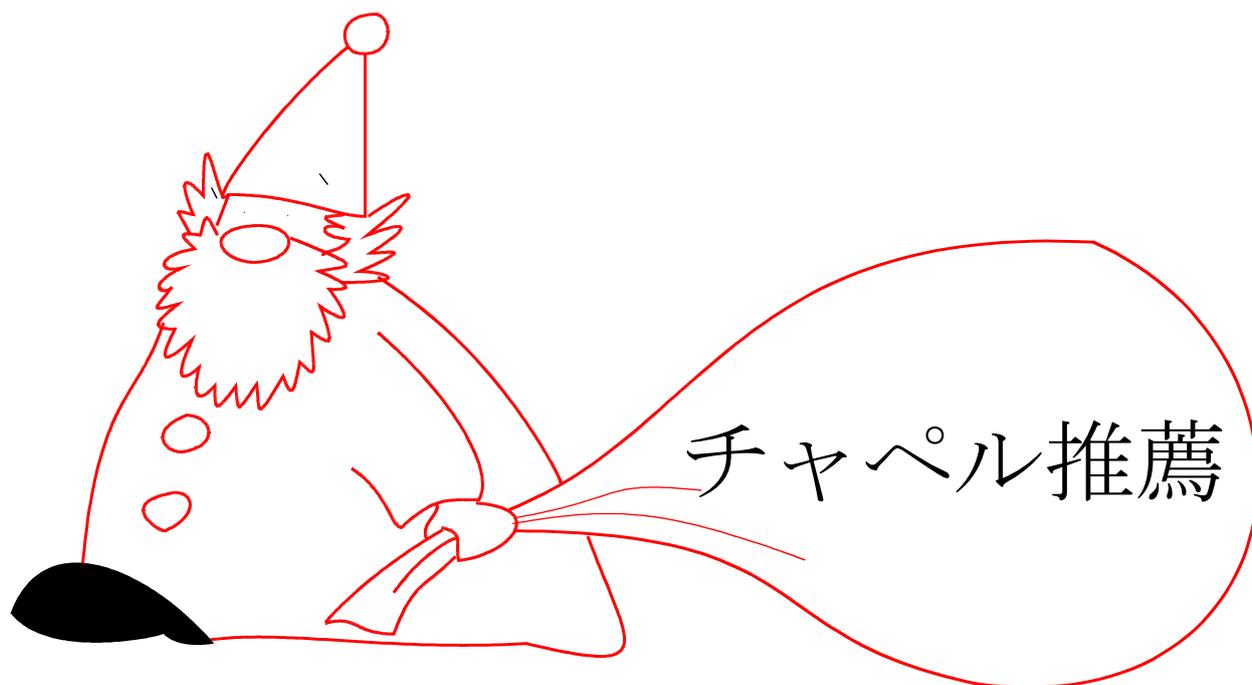
ローマの剣士のユダヤ人ベン・ハーが、母妹の死への復讐のため立ち上がる
- ・ 『炎のランナー』 (M-843) ☆

ハドソン監督 1981年(119分)

今世紀初頭ケンブリッジ大学陸上部の二人の学生のオリンピックへの軌跡
- ・ 『聖しこの夜ーキングズ・カレッジ聖歌隊のクリスマス・キャロルー』 (76-K) ☆

キングズ・カレッジ聖歌隊 1993年(107分)

キャロルと聖書朗読のクリスマス・イヴ礼拝映像。ビデオ用に撮られた



## 1. 聖書についての物語

- ・山室静『聖書物語』社会思想社（現代教養文庫）B/78
- ・山形孝夫『聖書物語』岩波書店（岩波ジュニア新書）080/IJ/56
- ・バック, P. S. 『聖書物語』桐原書店 193/B
- ・ミュッセ, J. 『旧約聖書ものがたり』創元社 193. 1/MU
- ・井上洋治『福音書をよむ旅』日本放送出版協会 193. 6/I
- ・遠藤周作『イエスの生涯』新潮社（新潮文庫）B/192. 8/E
- ・遠藤周作『キリストの誕生』新潮社（新潮文庫）B/G/エ-1
- ・遠藤周作『聖書のなかの女性たち』すえもりブックス 193. 04/E

## 2. 祈り、礼拝などについて

- ・マッコリー, J. 『礼拝と祈りの本質』ヨルダン社
- ・奥村一郎『祈り』女子パウロ会 198. 2/0
- ・森紀旦『聖公会の礼拝と祈祷書』聖公会出版 198. 4/SE
- ・遠藤紀勝、大塚光子『クリスマス小事典』社会思想社（現代教養文庫）B/E/325
- ・クルマン, O. 『クリスマスの起源』教文館 386. 8/CU

### 3. キリスト教の生き方

- ・ボヴェー, Th. 『真実なる結婚』 ヨルダン社 152. 2/B0
- ・武祐一郎 『高校生と学ぶ山上の説教』 新教出版社 (新教新書) 193. 6/TA
- ・宮田光雄 『きみたちと現代』 岩波書店 (岩波ジュニア新書) 080/IJ/17
- ・宮田光雄 『キリスト教と笑い』 岩波書店 (岩波新書R) 080/I/219

### 4. キリスト教の古典、文学

- ・バニヤン 『天路歷程 正篇、続篇』 新教出版社 933/BU
- ・アントニー・デ・メロ 『蛙の祈り』 女子パウロ会 198. 2/DE
- ・リルケ 『神さまの話』 新潮社 (新潮文庫) B/943. 7/RI
- ・ドストエフスキイ 『罪と罰 全3巻』 岩波書店 (岩波文庫) B/983/D0
- ・ドストエフスキイ  
『カラマーゾフの兄弟 全3巻』 新潮社 (新潮文庫) B/983/D0
- ・トルストイ  
『光あるうちに光の中を歩め』 岩波書店 (岩波文庫) B/080/IR/619-4
- ・モーパッサン 『脂肪の塊』 岩波書店 (岩波文庫) B/953. 6/M0
- ・ラーゲルレーヴ 『キリスト伝説集』 岩波書店 (岩波文庫) B/080/IR/756
- ・シェンキューヴィチ 『クオ・ワディス 全3巻』 岩波書店 (岩波文庫)  
B/080/IR/770
- ・ダンテ 『神曲』 岩波書店 (岩波文庫) B/971/DA
- ・ゲーテ 『ファウスト 全2巻』 岩波書店 942. 6/G0
- ・オットー 『聖なるもの』 岩波書店 (岩波文庫) B/080/IB/811
- ・トマス・ア・ケンピス 『キリストにならいて』 岩波書店 (岩波文庫)  
B/132. 2/T0

#### 3 択クイズ・答え

- |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| Q 1 ③  | Q 2 ②  | Q 3 ②  | Q 4 ③  | Q 5 ②  | Q 6 ③  | Q 7 ③  | Q 8 ②  | Q 9 ③  | Q 10 ① |
| Q 11 ③ | Q 12 ① | Q 13 ① | Q 14 ② | Q 15 ③ | Q 16 ② | Q 17 ② | Q 18 ③ | Q 19 ② | Q 20 ③ |

# 保 健 室 推 薦

---

## 生きようよ 死んじゃいけない人だから

細谷亮太著 岩崎書店 490/H0

本校の校医で小児科医の著者は、多くの子どもを看取ってきた。「寿命が尽きるまでは死なないでほしい。子どもは絶対死んじゃいけない人だから（本文より）」若い人に向けて、生きることの大切さが綴られています。

---

## 子ども、保護者、教員で考えるインターネットトラブル防止ガイド

SNAスクールネットワークアドバイザー編著 ラピュータ 368.6/K0

インターネットによるトラブルや犯罪が急増しています。インターネットの世界にはどんな危険があるのか、どう対処したらいいのか、子どもも大人も一緒に読めるようになっている本です。是非、読んでみてください。

---

## 男子の性教育

村瀬幸浩著 大修館書店 367.9/MU

これまで性教育と言えば、内容も対象も「女子」が主であり、「男子の性」は置き去りにされてきた。若い男性の中には自分の性を肯定的に受け入れられない人が増えていると言う。男子の性を見つめ直すことで、男子が、性に関する誤解・偏見・思い込みから解放され、自信を持って生きていく支えになればと著者は語っている。

---

## LGBTってなんだろう？

薬師実芳ほか著 合同出版 367.9/YA

LGBTとはレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの4つの言葉の頭文字を併せた言葉です。LGBTの子供達は、学校生活、友人関係、将来への展望、カミングアウトなど、いろいろな不安やつらさを抱えています。多くの人々がそれを理解し、一人の人間としてお互いを認めあうことができる人間関係を作ってもらいたいと思います。

---

---

# 図書館 推薦

---

## 哲学のモノサシ

西研著 川村易絵 日本放送出版協会 104/NI

哲学を難しい思想ではなく、身近な問題を考える上でとても役に立つものとして紹介した画期的な入門書です。「考えるとはどういうことか」「世界を知ることと自分を知ること」「自分とはどういう存在か」という三つの大きなテーマを絵と文章でやさしく解説してあります。哲学することは、自分の内側から聞こえてきた問いかけに耳をすますことから始まります。

---

## こころの処方箋

河合隼雄著 新潮社（新潮文庫） B/140.4/KA

現代社会の常識とは何か？それを答えられる人は少ない。それでは、無意識のうちにわたしたちの心を左右している力とは何か？「人の心などわかるはずがない」「『理解ある親』をもつ子はたまらない」などコラム形式で読み易く、気持ちが軽くなる。著者は、京大名誉教授・日本国際文化センター所長・日本初のユング派分析家。

---

## 愛するということ

エーリッヒ・フロム著 鈴木晶訳 紀伊国屋書店 152/FR

私たちは愛すること、愛されること、愛のある世界を常に希求していますが、現実の社会はそこからますます遠くなっているような気がします。著者は、愛こそが現実の社会生活のなかでより幸福に生きるための最高の手段、技術であると説き、その理論と実践の習得の必要性を訴えます。愛についての考えが深まる一冊。

---

## ギリシア・ローマ神話

ブルフィンチ著 野上弥生子訳 岩波書店（岩波文庫） 080/IR/225

西欧の文化・芸術に親しもうとする者にとって、聖書と共にギリシア・ローマ神話の知識は欠かすことができない。西欧古典の研究は近年著しい進歩を遂げたが、ブルフィンチが描いた神々と人間の豊かで興味尽きせぬ物語は、今でも格好の手引き書である。

---

---

## 釜ヶ崎と福音 神は貧しく小さくされた者と共に

本田哲郎著 岩波書店 198.3/H0

「人が人としてあつかわれぬまま放置されるとき、踏みつけにされるその人の人権が傷つけられるだけでなく、踏みつける側の人々の心を荒廃させます。自分は直接手をかけなくても、それを見てみぬふりをする人たちも等しく、人としての尊厳を蝕まれていくのです。」家のない野宿者が集まる町、大阪・釜ヶ崎で、本田神父は何を見たのか。

---

## 天皇の世紀(全12巻)

大佛次郎著 文藝春秋(文春文庫) B/210.5/0/1-12

黒船来航前夜から北越戦争中途までのわずか15年ほどを描いた大佛次郎の大作史伝。加藤周一氏が『日本文学史序説』のなかで、本書を「日本文学史上、これほどの規模と深さを兼ね備えるものは、おそらくは少ない」と書いている。それほどの傑作である。

---

## ローマ人の物語(全15巻)

塩野七生著 新潮社 232/SHI/1-15

前753年のローマ建国から476年の西ローマ帝国滅亡までの千年にわたる古代ローマの興亡の歴史を、各時代の指導者たちに光を当てながら描いた歴史大作。《人間とは善悪を併せ持つ存在である》との冷徹な認識に貫かれている。

---

## 縛られた巨人 南方熊楠の生涯

神坂次郎著 新潮社(新潮文庫) B/G/コ-21

独学で粘菌類の採集研究を進めるため放浪。アメリカ南部からサーカス団にもぐりこんで西インド諸島、キューバ、カラカス、ジャマイカ……。そして、ついに世界最大の大英博物館に勤務。その生涯に秘められた天才の素顔を描く。

---

## 教育問答

なだいなだ著 中央公論社(中公新書) 370.4/NAD

教育を「学ぶことと教えることのふたつの行為」として捉えた時、教育の本質は何か、主体はどこにあるべきか、そして学校、教師、親、社会はいかなる落とし穴に陥っているのか。20年前の著者の指摘が今なお新鮮なのは、教育を取りまく状況が何ら変わっていないことの証左なのだろうか。残念ながら、教育戦争は終わっていない。

---

---

## 自由と規律

池田潔著 岩波書店（岩波新書C） 080/I/17

著者が体験した戦前の英国のパブリックスクールでの生活が描かれています。自由の精神が厳格な規律の中で見事に育まれてゆく教育システムを感じる事ができるでしょう。本当の自由とは何だろうかという問題を考える上でとても参考になる一冊です。

---

## センス・オブ・ワンダー

レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳 佑学社 404/CA

1960年代に化学薬品が招く危険をいち早く警告した『沈黙の春』で知られるカーソンの遺作。重苦しい環境問題を扱うイメージが強い作者だが、本書では自然の息吹を肌で感じ、「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を大切に育てて欲しいという思いが語られる。生命の重みを知る作者だからこそ、硬くなった感性の糸を解きほぐす、詩のように美しい一冊。

---

## ユーモアのレッスン

外山滋比古著 中央公論新社（中公新書） 901.7/T0

しゃれて気の利いたユーモアは、その場かぎりのものでなく、聞く者の記憶に長くとどまる。気まずい場の雰囲気をつちまち明るくし、ときに、厳しい追及をさらりと受け流すのにも役立つ。本書は、思わず頬がゆるんでしまうエピソードをまじえながら、その効用に光を当てている。

---

## 世界は一冊の本 definitive edition 詩集

長田弘著 みすず書房 911.56/0

「本を読もう。もっと本を読もう。もっともっと本を読もう。書かれた文字だけが本ではない。日の光り、星の瞬き、鳥の声、川の音だって、本なのだ。」「国民読書年2010」のキャッチフレーズ「じゃあ、読もう。」にヒントを与え、合唱曲にもなっている名作である。

---

## 太陽の子

灰谷健次郎著 新潮社（新潮文庫） B/G/ハ-8

「琉球料理・おきなわ亭」に集まる人たちは、誰もが根深い挫折感にさいなまれている。その奥底には、沖縄戦の悲惨さ、そしてその後も続く沖縄の苦しみがある。しかし、この人たちの「やさしさ」「明るく生きるすがた」は何だろうか。著者が問う「人間のやさしさの本当の意味」を、ゆっくりと考えてみて下さい。

---

---

## 北越雪譜

鈴木牧之編撰 岩波書店（岩波文庫） B/080/IY/226

『北越雪譜』（1841年）は江戸後期、天保年間に出版された2篇7冊の随筆である。著者の鈴木牧之は魚沼郡塩沢（現新潟県南魚沼市）で「越後縮（ちぢみ）」の仲買と質屋を営む無名の一商人だった。凶入りで描かれた雪国の風物は江戸の人々を驚かせ、たちまち天保のベストセラーとなった。全編これ雪、雪、雪の書物である。

---

## 「自分の木」の下で

大江健三郎著 朝日新聞社 914.6/0

大江健三郎が初めて若い人に向けて書いた16章のエッセイ。将来を生きる子供に贈る言葉という形で「生きる」ということを考察する姿勢は真摯で、作者の人柄を感じさせる。文体はやさしく各テーマは誰にも覚えのある身近なものだが、内容は大人が読んでも意味深いものになっている。大江文学は難しくてちょっと手が出ないという人にも、エッセンスはしっかり詰まっているので、入門編によい。

---

## 緋文字

ホーソーン著 八木敏雄訳 岩波書店（岩波文庫） B/080/IR/304

夫が行方不明の間、ヘスタ・プリンスは私生児を生み、生涯「姦淫」罪を象徴する緋色のAの文字の布を胸につけて生きることになる。そこへ夫が現れ、私生児の父親を探し復讐することを誓う。ところが、父親はなんと牧師アーサー・デムズデルであった。宗教の戒律や社会のおきてを越えて真実に生きるとは何かを考えさせられる。

---

## ロウフィールド館の惨劇

ルース・レンデル著 小尾芙佐訳 角川書店（角川文庫） B/R/レ-1

いつだったか夜間の識字学級に通う60代の女性が「昔、役所に出生届を出しに行つて字が書けないので代筆をして欲しいと恐る恐る頼んだら、『今時、文盲でよく子供作ったね』と言われ、子供と共に死のうと思った」とテレビのある番組で話していたのを聞いた。『ロウフィールド館の惨劇』は、この初老の婦人の言葉を思い出させた。

---

## チャリング・クロス街84番地

ヘレーン・ハンフ編著 江藤淳訳 中央公論新社（中公文庫） B/935.7/HA

ニューヨーク在住の脚本家ヘレーンとロンドンの古書店マークス社・フランクとの往復書簡集。この真に書物を愛する人たちの交流の物語は、実際に起こったことである。1986年にはアンソニー・ホプキンス主演で映画にもなった。現在チャリング・クロス街84番地に古書店はないが、店があった場所には記念に真鍮のプレートが掲げられている。

---

# 海外文学を映画で観よう

海外文学を読みたいが難しそうで・・・と思っているあなた。映画化され、文学的にも芸術的にも高い評価を受けたものをいくつか紹介します。まずは映画を観て、その面白さを知ることから始めてみてはいかかでしょうか。いずれも、ぜひとも観ておきたい名作ばかりです。

## 『眺めのいい部屋』 (M-873)

原作：E. M. フォスター (ちくま文庫 B/933. 7/F0)

監督：ジェームス・アイヴォリー (1986年 イギリス映画)

— 今世紀初頭、イギリスの良家の令嬢ルーシーは、旅先のフィレンツェで風変わりな父子と知り合う。ルーシーは、自由に生きる青年ジョージに惹かれていくが、教養の塊のような英国紳士シシルと婚約する。そこへ、近くに越してきたジョージが現れ、ルーシーの気持ちは揺れ動く...

## 『パルムの僧院』 (M-636)

原作：スタンダール (新潮文庫 B/953. 6/ST/1, 2)

監督：クリスチャン＝ジャック (1947年 フランス映画)

— 優雅で美しく無垢な青年ファブリス。ナポレオン崇拜のあまりワテルローの戦いに飛び出してゆく彼の衝動的行動から物語は始まり、波瀾万丈の展開をみせる。恋に、政治に、宮廷に生きる人々の情熱的な姿を鮮やかに描き、ルネサンス期のイタリアを愛したスタンダールの晩年を代表する名作。

## 『ティファニーで朝食を』 (M-320)

原作：トルーマン・カポーティ (新潮文庫 B/R/カ-3)

監督：ブレイク・エドワーズ (1961年 アメリカ映画)

— ニューヨークのアパートで猫と暮らすホリーは、ティファニーのショーウィンドを眺めながら、パンを食べるのが好きという不思議な女性。彼女の住むアパートに越してきたポールは、金持ちの中年女の世話を受けている若手小説家。ある夜ポールの部屋へ、ホリーが逃げ込んできたことから二人は知り合うが...

## 『スタンド・バイ・ミー』 (M-876)

原作：スティーヴン・キング (新潮文庫 B/933. 7/KI)

監督：ロブ・ライナー (1986年 アメリカ映画)

— オレゴン州の田舎町で暮らす12歳の少年ゴードイは、クリス、テディ、バーンの3人と強い仲間意識で結ばれていた。ゴードイは秀才の兄の死で深く傷ついており、ほかの3人もそれぞれに問題を抱えていた。ある日4人は、行方不明の少年の死体を探しに森の奥へと向かうのだが...

## 『カッコーの巣の上で』 (M-606)

原作：ケン・キージー (白水社 933.7/KE)

監督：ミロス・フォアマン (1975年 アメリカ映画)

— 刑務所の農場労働を逃れるため精神異常を装い、委託患者として精神病院にやってきた赤毛の男マックマーフィ。そこではラチェッド婦長が厳格な規則と薬物投与で患者たちの人間性を奪い、病棟を管理支配していた。マックマーフィは笑いとお不屈の反抗心を武器に婦長に戦いを挑み、その姿に無気力状態にあった患者たちも自由の喜びと勇気を取り戻していくが…。体制への反逆と精神の自由を求める戦いを描いて鮮烈な感動を呼ぶ、20世紀アメリカ文学を代表する名作。

## 『カラマーゾフの兄弟』 (M-651)

原作：ドストエフスキー (光文社文庫 B/983/D0/1-5)

監督：イワン・ピリエフ (1968年 ソ連映画)

— 物欲の権化のような父フョードル・カラマーゾフの血を、それぞれ相異なりながらも色濃く引いた三人の兄弟。放蕩無頼な情熱漢ドミートリイ、冷徹な知性人イワン、敬虔な修道者で物語の主人公であるアリョーシャ。そして、フョードルの私生児と噂されるスメルジャコフ。これらの人物の交錯が作り出す愛憎の地獄図絵の中に、神と人間という根本問題を据え置いた世界文学屈指の名作。

## 『ベニスに死す』 (M-844)

原作：トーマス・マン (岩波文庫 B/943.7/MA) 原作名『ヴェニスに死す』

監督：ルキノ・ヴィスコンティ (1971年 イタリア・フランス映画)

— ドイツの高名な作曲家アッシェンバッハは、心臓の療養のためにベニスにやって来た。宿泊先のホテルで見かけた美しい少年タジオに、アッシェンバッハはたちまち魅了される。一度はベニスを発つことにしたアッシェンバッハであったが、手違いから再び戻ることになり、それからはタジオの姿をひたすらに追い求める日が続く……

## 『薔薇の名前』 (M-856)

原作：ウンベルト・エーコ (東京創元社 973/EC)

監督：ジャン＝ジャック・アノー (1986年 フランス・イタリア・西ドイツ映画)

— ヨーロッパに宗教裁判の嵐が吹き荒れる14世紀、北イタリアのベネディクト修道院にバスカヴィルのウィリアムと若い見習い修道士メルクのアドソがやって来る。二人の目的は、この修道院で行われるフランチェスコ修道会と教皇派の会議の準備であったが、不可解な殺人事件に巻き込まれてしまう。ウィリアムは事件の究明に乗り出すが……

# 書 名 索 引

<b>&lt;ABC&gt;</b>			
A Festival of		生きようよ	84
Lessons & Carols [CD]	80	イギリス教会史	78
Carol Album [CD]	81	イギリス宗教改革史研究	78
Christmas with		イギリス宗教改革の歴史	78
the Cambridge Singers [CD]	81	イギリス宗教史	78
Faire is the Heaven [CD]	81	イギリスの宗教	78
Self-Reference ENGINE	10	生きる!	71
The Curious Incident of the Dog		イスラームから世界を見る	18
in the Night-time	33	イスラームから見た「世界史」	22
THE SPORTS MEDICINE BIBLE	51	イスラームの人はなぜ日本を	
Very Short Introduction	49	尊敬するのか	24
<b>&lt;ア&gt;</b>		伊勢物語	15
愛するということ	85	一般気象学	38
アイデンティティーへの侵略	79	遺伝学の誕生	43
愛、深き淵より。	80	遺伝子のひらめき	43
アインシュタイン博物館	48	生命あるすべてのものに	80
青い光に魅せられて	40	いのちとかたち	60
青い目・茶色い目	11	祈り	82
青色LED開発の軌跡	40	意味がなければスイングはない	6
秋山仁のおもしろ数学発想法	30	イラスト・図解	
アジア・キリスト教史	78	光触媒のしくみがわかる本	40
アジア・キリスト教の歴史	78	色と配色がわかる本	35
新しい1キログラムの測り方	41	イングランド宗教改革史研究	78
阿房列車	8	<b>&lt;ウ&gt;</b>	
アメリカの通商政策	26	ヴァイオリン	55
アメリカひじき・火垂るの墓	13	ウィンザーの陽気な女房たち	6
嵐が丘	69	ヴェニスに死す	90
暗号解説	33	鶉飼	23
アンドロイドは電気羊の夢を見るか?	10	宇宙からの帰還	39
暗夜行路	12	宇宙日記	38
<b>&lt;イ&gt;</b>		宇宙の風に聴く	46
イエス・キリスト	77	宇宙のしくみとエネルギー	39
イエス時代の日常生活	77	宇宙はなぜあるのか	75
イエスという男	77	宇宙は本当にひとつなのか	42
イエスとその時代	77	<b>&lt;エ&gt;</b>	
イエスと出会う	77	英語教育論争から考える	73
イエスとは誰か	77	英国国教会の礼拝音楽 [CD]	81
イエスの生涯	82	英国の心棒	78
イエスのまなざし	80	英語の質問箱	67
意外な知らせ	79	英語のなかの歴史	64
生きがいについて	80	英語論文・レポートの書き方	67
		映像編集の教科書	37
		Excel実践的グラフ作成術	35
		ExcelVBAのプログラミングの	
		ツボとコツがゼットタイにわかる本	36
		絵地図の世界像	27
		越境する大気汚染	49
		選ばれた島	79
		LGBTって何だろう?	84
		<b>&lt;オ&gt;</b>	
		大江戸リサイクル事情	48
		大栗先生の超弦理論入門	42
		小川忠太郎範士剣道講話	53
		沖縄ノート	12
		オーケストラのたのしみ	58
		教える・学ぶ「C言語入門」	34
		同じ年に生まれて	58
		オルガンとその音楽	59
		音楽史の中のミサ曲	80
		音楽の根源にあるもの	58
		「音楽の手帖」シリーズ	59
		<b>&lt;カ&gt;</b>	
		外国語を身につけるための	
		日本語レッスン	68
		解説がスバラシク親切な頻出レベル	
		理系数学 I・A, II・B, III・C	41
		蛙の祈り	83
		化学をつかむ	44
		科学者の熱い心	46
		科学に魅せられた日本人	48
		化学に魅せられて	46
		華僑	24
		学問の創造	46
		歌劇『トスカ』映画版 (DVD)	60
		数の不思議	31
		課題研究メソッド	45
		課題研究メソッド 課題研究ノート	45
		カッコーの巣の上で [ビデオ, 図書]	90
		壁	16
		釜ヶ崎と福音	86
		神さまの話	83
		栢木先生のITパスポート試験教室	33
		からだの「仕組み」のサイエンス	50
		からだの自由と不自由	48

## 92 書名索引

からだの設計図	43	キリスト教と部落問題	79	現代名詩選	14
からだは星からできている	38	キリスト教と笑い	83	憲法第九条	27
カラマーゾフの兄弟 [ビデオ, 図書]	83, 90	キリスト教入門2	77	憲法読本	28
ガリヴァー旅行記	9	キリスト教年鑑	74	<コ>	
韓国から見た日本	78	キリスト教の誕生	76	高校生と学ぶ山上の説教	83
韓国併合への道	28	キリスト教の本質	78	考古学でたどる旧約聖書の世界	76
関節はふしぎ	43	キリスト教百科事典	75	香辛料の民族学	63
<キ>		キリスト教封印の世界史	77	こころ(榎本ナリコ)	5
岸田劉生	55	キリスト教文化の常識	79	心に夢のタマゴを持とう	46
木に学べ	56	キリスト教倫理	79	こころの処方箋	85
規範なき時代の宗教	79	キリスト教倫理辞典	75	古代中国の刑罰	27
気まぐれ美術館	54	キリスト者と福祉の心	79	古代ユダヤ教	78
きみたちと現代	83	キリスト伝説集	83	ゴッホの手紙	54
君たちはどう生きるか	46	キリストとイエス	77	子どもと自然	43
旧新約聖書(文語訳)	76	キリストにならいて	83	子ども、保護者、教員で考える	
求道の画家松本竣介	57	キリストの誕生	82	インターネットトラブル防止ガイド	84
旧約新約聖書時代史	76	寄留者	79	コーヒーが廻り世界史が廻る	62
旧約新約聖書大事典	74	キングズ・カレッジ合唱団の		古文の読みかた	14
旧約聖書に強くなる本	76	「讃美歌集」[CD]	80	コメ食の民族誌	62
旧約聖書の世界	76	キング牧師	80	これから研究を始める	
旧約聖書ものがたり	82	近代日本の形成とキリスト教	78	高校生と指導教員のために	45
キュリー夫人の理科教室	45	<ク>		これからはじめるプログラミング基礎の基礎	34
教育問答	86	クオ・ワディス	83	これはびっくり!	
教会史入門	77	クオンタム・ファミリーズ	10	化学マジック・タネ明かし	45
協同現象の数理	32	苦海浄土	13	今昔物語集の世界	7
京都ぎらい	19	クリスマス小事典	82	昆虫の誕生	44
聖しこの夜 [ビデオ]	81	クリスマスの起源	82	<サ>	
ギリシア語新約聖書釈義辞典	75	クルマと化学	49	サイエンス・パレットシリーズ	47
ギリシア・ローマ神話	85	グレゴリアン・チャント [CD]	80	細菌の逆襲	43
キリスト教(久米博)	79	訓読みのはなし	10	細胞を読む	43
キリスト教(ブラウン)	79	<ケ>		坂口安吾全集1	15
キリスト教を学ぶ人のために	75	経済は世界史から学べ!	22	ザ・サイエンス・ヴィジュアル	48
キリスト教音楽の歴史	80	ケインズ	28	砂糖の世界史	21, 63
キリスト教音楽名曲CD100選	80	結婚と家族	61	さぶ	4
キリスト教会2000年	78	健康づくりへのアプローチ	50	差別・その根源を問う	27
キリスト教教理史入門	79	健康・体力づくりの食事メニュー	51	さよなら子供たち[DVD]	23
キリスト教史	78	「言語技術」が日本のサッカーを変える	71	30時間でマスター Excel 2016	34
キリスト教史への旅	77	原子爆弾	19	三四郎	13
キリスト教思想史入門	79	源氏物語	11	三銃士	6
キリスト教小史	78	幻想芸術の世界	56	サンダカン八番娼館	15
キリスト教資料集	75	現代化学の世界	47	<シ>	
キリスト教人名辞典	75	現代キリスト教神学入門	79	詩歌ことはじめ	11
キリスト教大事典	75	現代新約聖書入門	76	シェイクスピア全集	6
キリスト教と日本の諸宗教	75	現代俳句	14	J-POP進化論	60

視覚デザイン	37	人生は意図を超えて	46	聖書年表・聖書地図	74
死刑囚の記録	27	新・テーピングの実際	53	聖書の奇跡物語	77
時刻表昭和史	20	新約聖書	76	聖書の世界	76
ジーザス・クライスト		新約聖書案内	76	聖書の世界・総解説	76
スーパースター [ビデオ]	81	新約聖書の周辺世界	77	聖書のなかの女性たち	82
死者の書	14	森林の思考・砂漠の思考	76	聖書の歴史(新版)	76
地震・プレート・陸と海	39			聖書の論理が世界を動かす	75
実践アクションラーニング入門	37	＜ス＞		聖書物語(バック)	82
知っておきたい物理の疑問55	38	水泳のメンタルトレーニング	52	聖書物語(山形孝夫)	82
死の教育	79	水滸伝(北方謙三)	19	聖書物語(山室静)	82
詩のこころを読む	12	スイミング	52	西太后	24
詩の楽しみ	12	数学をつくった人びと	29	聖なるもの	83
司馬遷	16	数学が生まれる物語	30	性犯罪被害とたたかうということ	18
縛られた巨人	86	数学が育っていく物語	30	性犯罪被害にあうということ	18
自分を愛するように	79	数学感覚をのばす	31	生物進化を考える	44
「自分の木」の下で	88	数学受験術指南	32	生命科学とキリスト教	79
自分のなかに歴史をよむ	20	数学読本	29	西洋美術史	56
脂肪の塊	83	数学入門	29	世界をまどわせた地図	22
「社会調査」のウソ	40	数学の言葉で世界を見たら	46	世界史とキリスト教	78
宗教改革著作集	78	数学の工具箱	36	世界宗教史叢書 キリスト教史	78
宗教学を学ぶ	75	数学は科学の女王にして奴隷	29	世界宗教事典(カラー版)	74
宗教学辞典	74	すぐわかる日本の書	60	世界「宗教」総覧	74
宗教と科学の接点	75	すごい宇宙講義	42	世界宗教の経済倫理	78
宗教と資本主義の興隆	78	すごい実験	42	世界で一番美しい元素図鑑	44
宗教とはなにか	75	図説・旧約聖書の歴史と文化	74	世界の終りとハードボイルド・	
従軍慰安婦	28	図説キリスト教文化史	75, 78	ワンダーランド	6, 11
自由と規律	87	図説・新約聖書の歴史と文化	74	世界の宗教(阿部美哉)	75
重力とは何か	41	図説世界の宗教大事典	74	世界の宗教(村上重良)	75
春昼・春昼後刻	9	スタンド・バイ・ミー [ビデオ, 図書]	89	世界の宗教101物語	75
勝利へのメンタル・マネジメント	52	スーパーパワー酵素の驚異	43	世界の民族音楽探訪	59
小惑星探査機「はやぶさ2」の大挑戦	39	スポーツ栄養の実際	51	世界は一冊の本	87
小惑星探査機「はやぶさ」の超技術	39	スポーツ学のみかた。	50	絶対音感	59
食卓の博物誌	62	スポーツ上達の力学	51	絶対帰還。	39
食の文化史	62	スポーツと化学	48	説話の森	7
シラノ・ド・ベルジュラック	6			狭き門	7
シリーズ 地球と人間の環境を考える	49	＜セ＞		零の発見	30
白い人・黄色い人	14	聖公会の礼拝と祈祷書	82	選手とコーチのための	
新・カンタベリー物語	78	成功する留学 中高校生の留学	68	スポーツ技術のトレーニング	51
新共同訳聖書コンコルダンス	74	青春の門	4	センス・オブ・ワンダー	87
神曲	83	聖書(新井智)	76	戦争と美術	55
真実なる結婚	83	聖書(口語訳)	76		
新聖書大辞典	74	聖書(新共同訳)	76	＜ソ＞	
人生に生きる五輪の書	53	聖書解釈の歴史	76	総説旧約聖書	76
		聖書思想事典	75	総説新約聖書	77
		聖書小事典	74		

## 94 書名索引

ゾウの時間ネズミの時間	43	デミアン	9	日本聖公会の形式と課題	79
速習Webデザイン	33	天地創造 [ビデオ]	81	日本中世の民衆像	21
続々と、旧暦と暮らす	48	天皇制と韓国キリスト教	78	日本の思想	13
素描の基礎技法	57	天皇の世紀	86	日本の宗教	75
ソロモンの指環	44	天路歷程	83	日本の聖書	76
<タ>		<ト>		日本の仏教	75
タイガー・モリと呼ばれた男	53	問いかけるイエス	77	日本の歴史をよみなおす	21
大地動乱の時代	26	ドイツ道具の旅	56	ニュートリノで探る宇宙と素粒子	42
ダイナミック地球図鑑 岩石・化石	47	東京の空間人類学	26	ニュートリノ天体物理学入門	46
太平洋戦争	21	東京ミキサー計画	54	人間をみつめて	80
太陽の子	87	統計でウソをつく法	40	<ネ>	
多賀城	25	どう読むか、聖書	76	ネイティブ式英語リーディング入門	66
ただの人・イエスの思想	77	時を刻む湖	49	ネイティブスピーカーの前置詞	66
たのしい化学実験	45	ドキュメント検察官	17	ネパールの碧い空	80
食べ物さん、ありがとう	62	ドキュメント裁判官	17	<ノ>	
魂のうたゴスペル	80	ドキュメント超新星爆発	39	脳を育てる	44
誰もが聖書を読むために	76	ドキュメント弁護士	17	脳の右側で描け	57
男子の性教育	84	独習Java	34	農民哀史から六十年	26
<チ>		トコトンやさしい		ノルウェイの森	6
地図を作った人びと	23	核融合エネルギーの本	41	<ハ>	
秩父事件	21	<ナ>		博士の愛した数式	6
知的生産の技術	13	眺めのいい部屋 [ビデオ, 図書]	89	バークレーのキリスト教倫理	79
チャニング・ムーア・ウィリアムズ	80	ナショナルジオグラフィック日本版		バークレーの新約聖書案内	76
茶の本	72	[月刊誌]	22	はじめての言語学	9
チャリング・クロス街84番地	88	謎解きの英文法	65	はじめての地学・天文学史	39
中国皇帝歴史誌	24	南京事件	25	はじめて読む数学の歴史	32
中世 村の歴史語り	20	<ニ>		88星座図鑑[アプリ]	47
鳥類学者のファンタジア	6	2次行列の世界	31	バナナと日本人	25, 63
沈黙博物館	6	二十世紀の聖書理解	76	ハーパー聖書注解	75
<ツ>		20世紀美術	55	薔薇の名前 [ビデオ, 図書]	90
土の100不思議	38	二重らせん	43	春の枯葉	5
粒でできた世界	45	日常のなかの統計学	31	パルムの僧院 [ビデオ, 図書]	89
罪と罰	83	日商PC検定		反骨のコツ	17
強い力と弱い力	41	プレゼン資料作成3級 合格教本	35	恨に生きる民衆の女性たち	79
<テ>		日本絵画の女性像	7	<ヒ>	
ティファニーで朝食を		日本キリスト教史	78	光あるうちに光の中を歩め	83
[ビデオ, 図書]	89	日本キリスト教史年表	75	ひかりごけ	15
デザインの教室	36	日本「キリスト教」総覧	74	光と物質のふしぎな理論	40
デジタル一眼レフカメラと写真の教科書	37	日本キリスト教歴史大事典	75	光とはなにか	40
データブック現代日本人の宗教	75	日本語と外国語	10	<非婚>のすすめ	61
哲学のモノサシ	85	日本「宗教」総覧	74	秘術としての文法	65
鉄骨クラブの偉人	50	日本人とイギリス	25	美術の歩み	56
TEDトーク世界最高のプレゼン術	36	日本人の宗教性	75	微積分への道	31

微積分読本	32	僕はいかにして指揮者になったのか	58	夜中の薔薇	8
ヒッグス粒子の謎	42	星三百六十五夜	8	夜と霧	80
びっくりふしぎ写真で科学	45	坊っちゃん時代	5	夜の画家たち	57
緋文字	88	炎のランナー [ビデオ]	81	ヨーロッパとイスラム	18
評伝赤崎勇 その源流	47	ほのぐらい灯心を消すことなく	80	<b>&lt;ラ&gt;</b>	
ヒロシマ・ノート	12	本音で話そう、地球温暖化	49	ライフセービングと社会福祉	52
<b>&lt;フ&gt;</b>		<b>&lt;マ&gt;</b>		<b>&lt;リ&gt;</b>	
ファウスト	83	マクミラン聖書歴史地図	74	理科年表	47
フェルマーの最終定理	30	マシアス・ギリの失脚	4	リサイクルのための化学	49
福音書をよむ旅	82	まっすぐな道でさみしい	5	立体大全	60
福音書のイエス・キリスト	75	万葉秀歌	15	良心は立ち上がる	79
福島原発事故独立検証委員会		万葉百歌	16	リンゴの木	69
調査・検証報告書	41	<b>&lt;ミ&gt;</b>		<b>&lt;ル&gt;</b>	
複素数の幾何学	31	見えない人々	79	ルネッサンスの光と闇	54
「武士道」を原文で読む	72	みつけたぞ！ボクらの星	39	<b>&lt;レ&gt;</b>	
物質とはなにか	44	身の回りを化学の目で見れば	49	冷暖自知	53
物理学は何をめざしているのか	47	みわざの現われるために	79	礼拝と祈りの本質	82
物理のための数学	41	民族という名の宗教	76	歴史とは何か	19
冬の花火	4	民族問題入門	25	歴史のこわさと面白さ	26
ブラザー・サン シスター・ムーン [ビデオ]	81	「民都」大阪対「帝都」東京	20	檸檬・冬の日	16
フランス革命の省察(新訳)	18	<b>&lt;メ&gt;</b>		<b>&lt;ロ&gt;</b>	
フランス家族事情	61	名画を見る眼	55	ロウフィールド館の惨劇	88
フーリエの冒険	41	メタルからモーツァルトへ	58	ロジカル記憶 元素記号[アプリ]	47
プルトニウムの未来	41	目で見る聖書の時代	76	ローマ人の物語	86
プレゼンテーションの技術	35	<b>&lt;モ&gt;</b>		ローマの休日	70
プレップ労働法	17	もう一つの日本美	57	<b>&lt;ワ&gt;</b>	
プロテスタンティズムの		文字に美はありや。	60	私たちにとって聖書とは何なのか	76
倫理と資本主義の精神	28, 78	物語シンガポールの歴史	24	Wordではじめるレイアウトデザイン	36
文化としてのスポーツ	50	<b>&lt;ヤ&gt;</b>		私のチャップリン	70
分子を超えて	44	やさしいコンピュータ科学	33	私は女性にしか期待しない	61
分子進化学への招待	44	やさしくわかるExcel関数・マクロ	34	渡り鳥地球をゆく	44
<b>&lt;ヘ&gt;</b>		山中伸弥先生に、人生と			
平安の気象予報士紫式部	38	iPS細胞について聞いてみた	49		
兵役を拒否した日本人	79	闇屋になりそこねた哲学者	23		
平家物語を知る事典	7	<b>&lt;ユ&gt;</b>			
平和主義とは何か	18	雪	38		
ベースボールの物理学	52	ユーモアのレッスン	87		
ベニスに死す [ビデオ]	90	<b>&lt;ヨ&gt;</b>			
ベン・ハー [ビデオ]	81	洋楽伝来史	59		
<b>&lt;ホ&gt;</b>		よくわかるHTML5+CSS3の教科書	35		
豊饒の海	9	横書き登場	8		
方程式の解き方	32	義経地獄破り	7		
北越雪譜	88	「余剰次元」と逆二乗則の破れ	42		

# 分類別索引

<b>&lt;総記&gt;</b>			
知的生産の技術	13	データブック現代日本人の宗教	75
課題研究メソッド	45	宗教学を学ぶ	75
課題研究メソッド 課題研究ノート	45	キリスト教と日本の諸宗教	75
学問の創造	46	世界宗教の経済倫理	78
<b>&lt;情報処理&gt;</b>		宗教と資本主義の興隆	78
やさしいコンピュータ科学	33	イギリス宗教史	78
栢木先生のITパスポート試験教室	33	聖なるもの	83
これからはじめるプログラミング基礎の基礎	34	<b>— 神話・神話学 —</b>	
教える・学ぶ「C言語入門」	34	ギリシア・ローマ神話	85
独習Java	34	<b>&lt;仏教&gt;</b>	
やさしくわかるExcel関数・マクロ	34	日本の仏教	75
30時間でマスター Excel 2016	34	<b>&lt;キリスト教&gt;</b>	
Excel実践的グラフ作成術	35	キリスト教年鑑	74
ExcelVBAのプログラミングの		キリスト教資料集	75
ツボとコツがゼッタイにわかる本	36	キリスト教人名辞典	75
デザインの教室	36	キリスト教大事典	75
<b>&lt;哲学&gt;</b>		キリスト教百科事典	75
哲学のモノサシ	85	日本キリスト教歴史大事典	75
<b>&lt;東洋思想&gt;</b>		キリスト教倫理辞典	75
日本の思想	13	キリスト教を学ぶ人のために	75
<b>&lt;西洋哲学&gt;</b>		教会史入門	77
キリストにならいて	83	キリスト教会2000年	78
<b>&lt;心理学&gt;</b>		キリスト教の本質	78
宗教と科学の接点	75	イギリスの宗教	78
こころの処方箋	85	新・カンタベリー物語	78
<b>&lt;倫理学・道徳&gt;</b>		イギリス教会史	78
君たちはどう生きるか	46	宗教改革著作集	78
真実なる結婚	83	規範なき時代の宗教	79
きみたちと現代	83	みわざの現われるために	79
愛するということ	85	キリスト教思想史入門	79
<b>&lt;宗教&gt;</b>		キリスト教と部落問題	79
イスラームから世界を見る	18	キリスト教(久米博)	79
世界宗教事典(カラー版)	74	日本聖公会の形式と課題	79
宗教学辞典	74	バークレーのキリスト教倫理	79
図説世界の宗教大事典	74	キリスト教(ブラウン)	79
世界「宗教」総覧	74	死の教育	79
日本「宗教」総覧	74	キリスト者と福祉の心	79
世界の宗教101物語	75	自分を愛するように	79
日本人の宗教性	75	キリスト教倫理	79
宗教とはなにか	75	現代キリスト教神学入門	79
世界の宗教(村上重良)	75	キリスト教教理史入門	79
日本の宗教	75	選ばれた島	79
世界の宗教(阿部美哉)	75	キリスト教文化の常識	79
		兵役を拒否した日本人	79
		ネパールの碧い空	80
		生命あるすべてのものに	80
		礼拝と祈りの本質	82
		祈り	82
		聖公会の礼拝と祈祷書	82
		キリスト教と笑い	83
		蛙の祈り	83
		釜ヶ崎と福音	86
		<b>— キリスト教史・迫害史 —</b>	
		日本「キリスト教」総覧	74
		日本キリスト教史年表	75
		図説キリスト教文化史	75, 78
		キリスト教の誕生	76
		イエスとその時代	77
		イエス・キリスト	77
		ただの人・イエスの思想	77
		イエスとは誰か	77
		イエスという男	77
		聖書の奇跡物語	77
		キリスト教封印の世界史	77
		キリスト教史への旅	77
		キリスト教入門2	77
		キリスト教小史	78
		世界宗教史叢書キリスト教史	78
		世界史とキリスト教	78
		キリスト教史	78
		イギリス宗教改革の歴史	78
		イギリス宗教改革史研究	78
		イングランド宗教改革史研究	78
		アジア・キリスト教史	78
		天皇制と韓国キリスト教	78
		日本キリスト教史	78
		近代日本の形成とキリスト教	78
		アジア・キリスト教の歴史	78
		イエスのまなざし	80
		イエスの生涯	82
		キリストの誕生	82
		<b>— 聖書 —</b>	
		旧約新約聖書大事典	74
		新共同訳聖書コンコルダンス	74
		新聖書大辞典	74
		マクミラン聖書歴史地図	74
		聖書小事典	74
		聖書年表・聖書地図	74

図説・旧約聖書の歴史と文化	74
図説・新約聖書の歴史と文化	74
ギリシア語新約聖書釈義辞典	75
聖書思想事典	75
ハーパー聖書注解	75
福音書のイエス・キリスト	75
聖書の論理が世界を動かす	75
旧新約聖書(文語訳)	76
聖書(口語訳)	76
聖書(新共同訳)	76
新約聖書	76
聖書(新井智)	76
聖書の世界・総解説	76
聖書の世界	76
どう読むか、聖書	76
日本の聖書	76
二十世紀の聖書理解	76
誰もが聖書を読むために	76
聖書解釈の歴史	76
旧約新約聖書時代史	76
私たちにとって聖書とは何なのか	76
旧約聖書に強くなる本	76
目で見る聖書の時代	76
旧約聖書の世界	76
考古学でたどる旧約聖書の世界	76
総説旧約聖書	76
聖書の歴史(新版)	76
バークレーの新約聖書案内	76
新約聖書案内	76
現代新約聖書入門	76
イエス時代の日常生活	77
総説新約聖書	77
新約聖書の周辺世界	77
イエスと出会う	77
問いかけるイエス	77
キリストとイエス	77
意外な知らせ	79
聖書物語(山室静)	82
聖書物語(山形孝夫)	82
聖書物語(バック)	82
旧約聖書ものがたり	82
福音書をよむ旅	82
聖書のなかの女性たち	82
高校生と学ぶ山上の説教	83
＜ユダヤ教＞	
古代ユダヤ教	78

＜歴史＞

歴史とは何か	19
自分のなかに歴史をよむ	20
歴史のこわさと面白さ	26

＜日本史＞

中世 村の歴史語り	20
日本の歴史をよみなおす	21
太平洋戦争	21
日本中世の民衆像	21
秩父事件	21
多賀城	25
日本人とイギリス	25
南京事件	25
従軍慰安婦	28
大江戸リサイクル事情	48
アイデンティティーへの侵略	79
天皇の世紀	86

＜アジア史・東洋史＞

イスラームから見た「世界史」	22
物語シンガポールの歴史	24
韓国併合への道	28

＜ヨーロッパ史・西洋史＞

フランス革命の省察(新訳)	18
英国の心棒	78
ローマ人の物語	86

＜伝記＞

闇屋になりそこねた哲学者	23
中国皇帝歴代誌	24
西太后	24
評伝赤崎勇 その源流	47
アインシュタイン博物館	48
キング牧師	80
チャニング・ムーア・ウィリアムズ	80
縛られた巨人	86

＜地理・地誌・紀行＞

世界をまどわせた地図	22
ナショナルジオグラフィック日本版	[月刊誌] 22
絵地図の世界像	27
ドイツ道具の旅	56
森林の思考・砂漠の思考	76

＜社会科学＞

イスラームの人はなぜ日本を	
尊敬するのか	24
韓国から見た日本	78

＜政治＞

平和主義とは何か	18
良心は立ち上がる	79
－国家と個人・宗教・民族－	

ヨーロッパとイスラーム	18
民族問題入門	25
差別・その根源を問う	27
民族という名の宗教	76
見えない人々	79

＜法律＞

ドキュメント検察官	17
ドキュメント裁判官	17
ドキュメント弁護士	17
反骨のコツ	17
プレップ労働法	17
性犯罪被害とたたかうということ	18
性犯罪被害にあうということ	18
古代中国の刑罰	27
死刑囚の記録	27
結婚と家族	61

－憲法－

憲法第九条	27
憲法読本	28

＜経済＞

経済は世界史から学べ!	22
華僑	24
ケインズ	28
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	28, 78
プレゼンテーションの技術	35
日商PC検定	
プレゼン資料作成3級合格教本	35
実践アクションラーニング入門	37
寄留者	79

＜統計＞

統計でウソをつく法	40
-----------	----

＜社会＞

京都ざらい	19
「社会調査」のウソ	40
子ども、保護者、教員で考える	
インターネットトラブル防止ガイド	84
－家族問題・男性女性問題－	
サンダカン八番娼館	15
私は女性にしか期待しない	61
フランス家族事情	61
＜非婚＞のすすめ	61

恨に生きる民衆の女性たち	79	はじめて読む数学の歴史	32	ニュートリノ天体物理学入門	46
男子の性教育	84	協同現象の数理	32	心に夢のタマゴを持とう	46
LGBTってなんだろう？	84	数学の道具箱	36	宇宙の風に聴く	46
<b>&lt;教育&gt;</b>					
青い目・茶色い目	11	フーリエの冒険	41	宇宙はなぜあるのか	75
成功する留学 中高校生の留学	68	解説がスバラシク親切な頻出レベル		<b>—地球・天文地理学—</b>	
教育問答	86	理系数学 I・A, II・B, III・C	41	地図を作った人びと	23
自由と規律	87	数学の言葉で世界を見たら	46	続々と、旧暦と暮らす	48
<b>&lt;風俗習慣・民俗学・民族学&gt;</b>					
鵜飼	23	<b>&lt;物理学&gt;</b>			
食卓の博物誌	62	知っておきたい物理の疑問55	38	大地動乱の時代	26
食の文化史	62	光とはなにか	40	一般気象学	38
コーヒーが廻り世界史が廻る	62	光と物質のふしぎな理論	40	雪	38
コメ食の民族誌	62	トコトンやさしい		はじめての地学・天文学史	39
クリスマス小事典	82	核融合エネルギーの本	41	地震・プレート・陸と海	39
クリスマスの起源	82	物理のための数学	41	ダイナミック地球図鑑 岩石・化石	47
<b>&lt;自然科学&gt;</b>					
これから研究を始める		重力とは何か	41	時を刻む湖	49
高校生と指導教員のために	45	強い力と弱い力	41	<b>&lt;生物科学・一般生物学&gt;</b>	
びっくりふしぎ写真で科学	45	大栗先生の超弦理論入門	42	スーパーパワー酵素の驚異	43
科学者の熱い心	46	ヒッグス粒子の謎	42	からだの設計図	43
理科年表	47	「余剰次元」と逆二乗則の破れ	42	細胞を読む	43
サイエンス・パレットシリーズ	47	すごい実験	42	<b>—遺伝学—</b>	
ザ・サイエンス・ヴィジュアル	48	ニュートリノで探る宇宙と素粒子	42	遺伝学の誕生	43
科学に魅せられた日本人	48	物質とはなにか	44	遺伝子のひらめき	43
Very Short Introductionシリーズ	49	キュリー夫人の理科教室	45	二重らせん	43
センス・オブ・ワンダー	87	物理学は何をめざしているのか	47	生物進化を考える	44
<b>&lt;数学&gt;</b>					
数学入門	29	<b>&lt;化学&gt;</b>			
数学をつくった人びと	29	イラスト・図解		<b>&lt;動物学&gt;</b>	
数学は科学の女王にして奴隷	29	光触媒のしくみがわかる本	40	ゾウの時間ネズミの時間	43
数学読本	29	新しい1キログラムの測り方	41	子どもと自然	43
数学が生まれる物語	30	化学をつかむ	44	ソロモンの指環	44
数学が育っていく物語	30	分子を超えて	44	渡り鳥地球をゆく	44
零の発見	30	世界で一番美しい元素図鑑	44	昆虫の誕生	44
フェルマーの最終定理	30	これはびっくり！		<b>&lt;医学&gt;</b>	
秋山仁のおもしろ数学発想法	30	化学マジック・タネ明かし	45	苦海浄土	13
数の不思議	31	たのしい化学実験	45	関節はふしぎ	43
数学感覚をのばす	31	粒でできた世界	45	細菌の逆襲	43
2次行列の世界	31	化学に魅せられて	46	脳を育てる	44
微積分への道	31	人生は意図を超えて	46	からだの自由と不自由	48
複素数の幾何学	31	現代化学の世界	47	山中伸弥先生に、人生と	
日常のなかの統計学	31	身の回りを化学の目で見れば	49	iPS細胞について聞いてみた	49
微積分読本	32	<b>&lt;天文学・宇宙科学&gt;</b>			
方程式の解き方	32	星三百六十五夜	8	健康づくりへのアプローチ	50
数学受験術指南	32	からだは星からできている	38	食べ物さん、ありがとう	62
		宇宙のしくみとエネルギー	39	生命科学とキリスト教	79
		ドキュメント超新星爆発	39	愛、深き淵より。	80
		宇宙は本当にひとつなのか	42	生きがいについて	80
		すごい宇宙講義	42	人間をみつめて	80
				生きようよ	84

<b>&lt;技術・工学&gt;</b>		幻想芸術の世界	56	キリスト教音楽の歴史	80
東京の空間人類学	26	すぐわかる日本の書	60	音楽史の中のミサ曲	80
リサイクルのための化学	49	西洋美術史	56	<b>&lt;映画&gt;</b>	
本音で話そう、地球温暖化	49	もう一つの日本美	57	映像編集の教科書	37
シリーズ 地球と人間の環境を考える	49	文字に美はありや。	60	私のチャップリン	70
越境する大気汚染	49	<b>&lt;彫刻&gt;</b>		ローマの休日	70
<b>&lt;建築学&gt;</b>		立体大全	60	<b>&lt;スポーツ・体育&gt;</b>	
木に学べ	56	<b>&lt;絵画&gt;</b>		スポーツと化学	48
<b>&lt;機械工学&gt;</b>		義経地獄破り	7	鉄骨クラブの偉人	50
クルマと化学	49	日本絵画の女性像	7	文化としてのスポーツ	50
<b>—航空宇宙工学—</b>		ゴッホの手紙	54	スポーツ学のみかた。	50
宇宙日記	38	気まぐれ美術館	54	からだの「仕組み」のサイエンス	50
絶対帰還。	39	名画を見る眼	55	スポーツ栄養の実際	51
宇宙からの帰還	39	戦争と美術	55	健康・体力づくりの食事メニュー	51
小惑星探査機「はやぶさ2」の大挑戦	39	岸田劉生	55	THE SPORTS MEDICINE BIBLE	51
小惑星探査機「はやぶさ」の超技術	39	夜の画家たち	57	選手とコーチのための	
<b>&lt;原子力工学&gt;</b>		求道の画家松本竣介	57	スポーツ技術のトレーニング	51
原子爆弾	19	脳の右側で描け	57	スポーツ上達の力学	51
プルトニウムの未来	41	素描の基礎技法	57	勝利へのメンタル・マネジメント	52
福島原発事故独立検証委員会		<b>&lt;漫画・絵本&gt;</b>		水泳のメンタルトレーニング	52
調査・検証報告書	41	こころ(榎本ナリコ)	5	スイミング	52
<b>&lt;データ通信&gt;</b>		坊っちゃんの時代	5	ベースボールの物理学	52
速習Webデザイン	33	まっすぐな道でさみしい	5	ライフセービングと社会福祉	52
よくわかるHTML5+CSS3の教科書	35	<b>&lt;写真&gt;</b>		新・テーピングの実際	53
<b>&lt;電子工学&gt;</b>		デジタル一眼レフカメラと写真の教科書	37	小川忠太郎範士剣道講話	53
青い光に魅せられて	40	<b>&lt;デザイン&gt;</b>		人生に生きる五輪の書	53
青色LED開発の軌跡	40	色と配色がわかる本	35	冷暖自知	53
<b>&lt;製造工業&gt;</b>		Wordではじめるレイアウトデザイン	36	タイガー・モリと呼ばれた男	53
砂糖の世界史	21, 63	視覚デザイン	37	「言語技術」が日本のサッカーを変える	71
<b>&lt;農業&gt;</b>		<b>&lt;音楽&gt;</b>		<b>&lt;諸芸&gt;</b>	
農民哀史から六十年	26	意味がなければスイングはない	6	茶の本	72
土の100不思議	38	ヴァイオリン	55	<b>&lt;語学&gt;</b>	
香辛料の民族学	63	音楽の根源にあるもの	58	はじめての言語学	9
<b>&lt;園芸&gt;</b>		メタルからモーツァルトへ	58	日本語と外国語	10
バナナと日本人	25, 63	オーケストラのたのしみ	58	訓読みのはなし	10
<b>&lt;商業&gt;</b>		僕はいかにして指揮者になったのか	58	暗号解読	33
アメリカの通商政策	26	同じ年に生まれて	58	TEDトーク世界最高のプレゼン術	36
<b>&lt;運輸・交通&gt;</b>		絶対音感	59	秘術としての文法	65
時刻表昭和史	20	「音楽の手帖」シリーズ	59	<b>&lt;日本語&gt;</b>	
「民都」大阪対「帝都」東京	20	世界の民族音楽探訪	59	横書き登場	8
<b>&lt;芸術・美術&gt;</b>		洋楽伝来史	59	古文の読みかた	14
東京ミキサ計画	54	オルガンとその音楽	59	外国語を身につけるための	
ルネッサンスの光と闇	54	J-POP進化論	60	日本語レッスン	68
20世紀美術	55	魂のうたゴスペル	80	<b>&lt;英語&gt;</b>	
美術の歩み	56	キリスト教音楽名曲CD100選	80	英語のなかの歴史	64

謎解きの英文法	65	死者の書	14	<b>&lt;フランス文学&gt;</b>	
ネイティブ式英語リーディング入門	66	伊勢物語	15	三銃士	6
ネイティブスピーカーの前置詞	66	ひかりごけ	15	シラノ・ド・ベルジュラック	6
英語の質問箱	67	坂口安吾全集1	15	狭き門	7
英語論文・レポートの書き方	67	檸檬・冬の日	16	脂肪の塊	83
生きろ!	71	壁	16	パルムの僧院	89
「武士道」を原文で読む	72	水滸伝(北方謙三)	19	<b>&lt;イタリア文学&gt;</b>	
英語教育論争から考える	73	平安の気象予報士紫式部	38	神曲	83
<b>&lt;日本文学&gt;</b>		太陽の子	87	薔薇の名前	90
<b>－箴言・格言－</b>		<b>－評論・エッセイ・随筆－</b>		<b>&lt;ロシア・ソヴィエト文学&gt;</b>	
ユーモアのレッスン	87	夜中の薔薇	8	罪と罰	83
<b>－詩歌－</b>		司馬遷	16	カラマーゾフの兄弟	83, 90
詩歌ことはじめ	11	いのちとかたち	60	光あるうちに光の中を歩め	83
詩のこころを読む	12	北越雪譜	88	クオ・ワディス	83
詩の楽しみ	12	「自分の木」の下で	88	<b>～視聴覚資料～</b>	
現代名詩選	14	<b>－記録・手記・ルポルタージュ－</b>		<b>&lt;ビデオ・DVD・Blu-ray&gt;</b>	
現代俳句	14	阿房列車	8	さよなら子供たち	23
万葉秀歌	15	沖縄ノート	12	歌劇『トスカ』映画版	60
万葉百歌	16	ヒロシマ・ノート	12	天地創造	81
世界は一冊の本	87	みつけたぞ! ボクらの星	39	ジーザス・クライストス・スーパースター	81
<b>－戯曲－</b>		ほのぐらい灯心を消すことなく	80	ブラザー・サン シスター・ムーン	81
冬の花火	4	<b>&lt;英米文学&gt;</b>		ベン・ハー	81
春の枯葉	5	ウィンザーの陽気な女房たち	6	炎のランナー	81
<b>－小説・物語－</b>		シェイクスピア全集	6	聖しこの夜	81
さぶ	4	ガリヴァー旅行記	9	眺めのいい部屋	89
青春の門	4	アンドロイドは電気羊の夢を見るか?	10	パルムの僧院	89
マシアス・ギリの失脚	4	The Curious Incident of the Dog		ティファニーで朝食を	89
ノルウェイの森	6	in the Night-time	33	スタンド・バイ・ミー	89
世界の終りとハード		嵐が丘	69	カッコーの巣の上で	90
ボイルド・ワンダーランド	6, 11	リンゴの木	69	カラマーゾフの兄弟	90
鳥類学者のファンタジア	6	天路歷程	83	ベニスに死す	90
沈黙博物館	6	緋文字	88	薔薇の名前	90
博士の愛した数式	6	ロウフィールド館の惨劇	88	<b>&lt;CD&gt;</b>	
今昔物語集の世界	7	チャリング・クロス街84番地	88	キングズ・カレッジ合唱団の「讃美歌集」	80
説話の森	7	眺めのいい部屋	89	グレゴリアン・チャント	80
平家物語を知る事典	7	ティファニーで朝食を	89	A Festival of Lessons & Carols	80
春昼・春昼後刻	9	スタンド・バイ・ミー	89	Carol Album	81
豊饒の海	9	カッコーの巣の上で	90	Christmas with	
クオンタム・ファミリーズ	10	<b>&lt;ドイツ文学&gt;</b>		the Cambridge Singers	81
Self-Reference ENGINE	10	デミアン	9	Faire is the Heaven	81
源氏物語	11	夜と霧	80	PSALMS1英国国教会の礼拝音楽	81
暗夜行路	12	神さまの話	83	<b>&lt;アプリ&gt;</b>	
三四郎	13	キリスト伝説集	83	ロジカル記憶 元素記号	47
アメリカひじき・火垂るの墓	13	ファウスト	83	88 星座図鑑	47
白い人・黄色い人	14	ヴェニスに死す	90		